

取扱説明書及び部品表

Takakita 細断型ローバレータ

MR-821



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**細断型ロールペーラ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱
いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点やお気付きの点がございましたら、お買い上げの販売店または当社へご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	19
各部の名称とはたらき	20
トラクタへの装着	27
1. 装着のしかた	27
2. ユニバーサルジョイントの取付け	27
3. コントロールボックスの接続	28
4. セーフティチェーンの取扱い	30
5. 運行速度ステッカーの取扱い	31
運転に必要な装着の取扱い	32
1. 油圧装置の取扱い	32
2. タイトチェン注油装置の取扱い	32
3. タイトチェン注油絞り弁の取扱い	33
4. シェアボルトの交換	34
5. パトライト位置	34
6. コントロールボックスの取扱い	35
7. 使用できるネット	40
8. ネット装置の取扱い	40
9. ネットの通し方	41
10. ブレーキの調整方法	42
11. ネット装置の作業前点検	42
12. 使用時にこれだけは守りましょう	43
13. パトライトの着脱方法	43
作 業 方 法	44
1. 作業前準備の流れ	44
2. 作業の流れ	45
3. 作業後の流れ	46
4. 定置作業手順	47
5. 伴走作業手順	47
6. ワンマン作業手順	47
作業前の点検について	48
点検一覧表	48
作業後の手入れと格納について	49
1. 機体の洗浄のしかた	49
2. 各部の掃除のしかた	50
3. ホッパー内の掃除	51
4. 床コンベア前部の掃除	52
5. コンベア下部の掃除	52
6. リヤチャンバー内の掃除	52
7. 油圧モータ周辺の掃除	53
8. タイトチェンの注油	53
9. 各部のチェンへの注油	55
10. 各部のグリスアップのしかた	56
11. コンベアテンション スライド部へのグリスアップのしかた	58
12. タイトチェンテンション スライド部へのグリスアップのしかた	58
13. チャンバー開閉支点への グリスアップのしかた	58
14. 格納のしかた	58
15. 運転再開のしかた	58
16. センサの調整	59
17. 電球の交換	62
18. リモコンの設定方法	62
19. タイトチェンを交換後	62

各部の点検・整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63

1. 定期点検一覧表・・・・・・・・・・・・・・	63	8. ヒューズの点検・交換のしかた・・・・・・	66
2. 規定値一覧表・・・・・・・・・・・・・・	64	9. ロールベアラ駆動ベルトの調節のしかた	67
3. オイル・グリス一覧表・・・・・・・・・・・・	64	10. 各部のチェン調整	
4. 給油一覧表・・・・・・・・・・・・・・	64	①油圧パッケージ駆動チェン・・・・・・・・	68
5. コンベアチェンの調節・・・・・・・・・・・・	65	②タイトチェン駆動チェン・・・・・・・・	69
6. タイヤの空気圧調節及び磨耗・損傷・・・	65	③コンベア駆動チェン・・・・・・・・・・・・	70
7. オイルの点検・補給・交換のしかた		④アジテータ・床コンベア駆動チェン・・	70
①油圧パッケージ・・・・・・・・・・・・・・	66	11. コンベアベルトの調節のしかた・・・・・・	71
②直交ミッション・・・・・・・・・・・・・・	66		

不 調 診 断・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72

コントロールボックスのエラー表示・・・・・・・・・・・・ 73

主要消耗品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74

付 表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76

1. 主要諸元・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	76
2. 配線図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	77

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解したうえで使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

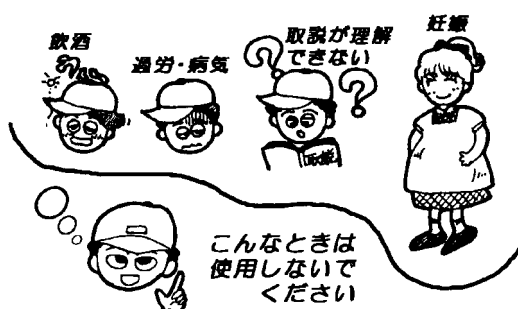
機械を人に貸すとき、または所有者以外が運転するときは、運転方法を指導し、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

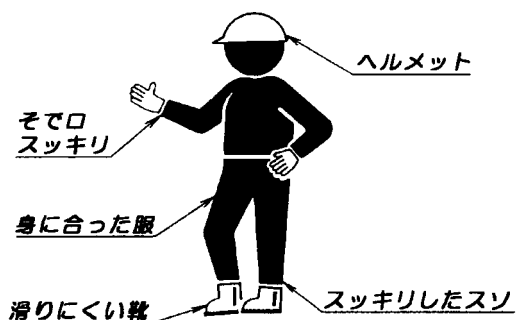
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

● 適応トラクタ馬力(kW{PS})

定置作業・伴走作業	
	22.1{30}~73.5{100}
ワンマン作業 ※1	44.2{60}以上
※2	55.8{80}以上

※1 タカキタ1条刈りコーンハーベスタで作業の場合

※2 タカキタ2条刈りコーンハーベスタで作業の場合

● ロワーリンク規格：カテゴリ I・II

● P T O回転速度：540min⁻¹(rpm)

● 電源用バッテリー：DC12V

(4) 装着時の前後のバランス確認

トラクタに装着(連結)した作業機の最大積載状態において、トラクタ前輪にかかる荷重は、総重量の20%以上作用していることが必要です。

もし、不足するときはトラクタ指定のフロントウェイトを取付けて、20%以上を確保するか、できなければ装着(連結)しないでください。

(5) バランスウェイトの取付け

トラクタのバランスウェイトは指定した部分に指定のウェイト以外は取付けしないでください。

！安全に作業するために

(6) 機械の改造厳禁

指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。

(7) 使用目的以外への使用禁止

本機は、細断コーンをロール成形する作業を目的とした機械です。

他の目的には使用しないでください。

(8) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。



(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、PTOを切り、トラクタのエンジンを停止し、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。

(4) ナイフに注意すること

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。



(5) 機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやたまりを取除き、機械を常にきれいにしてください。

(6) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

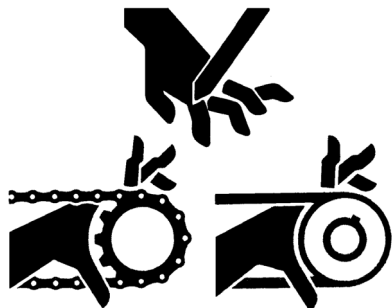
エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



⚠ 安全に作業するために

(7) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずPTOを切り、エンジンを停止してから行ってください。
また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(8) 注油・給油するときは

チェンへの注油は、必ずPTOを切り、エンジンを停止してから行ってください。



また、油圧パッケージへの給油は、高温のときには行わないでください。

⚠ 注意

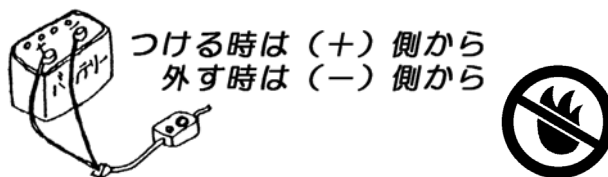
各チェン、各回転部分や摩擦しゅう動部分には十分注油してください。また、部品が摩耗したまま使い続けると、摩擦による加熱の原因となり、場合によっては火災となります。

(9) コントロールボックスの電源脱・着は

トラクタのバッテリーより電源を取出します。

その取付け方法は、(+)側から行ってください。

外す時は、(-)側から行ってください。逆にすると火花が飛び危険です。



(10) タイヤの点検・修理をするときは

①タイヤの空気圧は、規定の空気圧を必ず守ってください。

②空気の入れ過ぎはタイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。

③タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は使用しないでください。

タイヤ破損の恐れがあります。

④タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店へ依頼してください。



⚠ 安全に作業するために

(11) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部およびチェンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。

コントロールボックスはトラクタより取外して屋内の乾燥した場所に保管してください。

3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

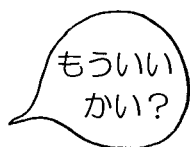
特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

(2) P T O回転中は危険です

回転部には近寄らない、触れないを守ってください。

(3) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(4) エンジンを始動するときは

PTOを切り、変速レバーを中立にし周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(5) 急な発進・停止・旋回・

スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

(6) 回転中のタイトバーには触れない

回転しているタイトバーに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれて重傷を負うことがあります。

！ 安全に作業するために

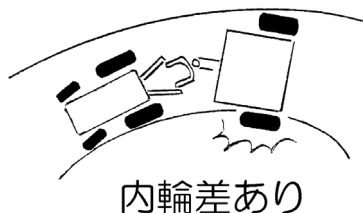
(7) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ①等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。
斜面の作業は、必ず等高線に対して直角方向に走行してください。
- ②傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。
高速で旋回すると、転倒する危険があります。
- ③傾斜地でのバール放出は、谷側にバールが転動して危険です。必ず平坦地まで移動して、安全な場所に放出してください。

(8) 移動及び作業の旋回のときは

トラクタに本機をけん引して旋回するときは、内輪差が生じるので十分注意してください。急旋回は危険ですので行わないでください。



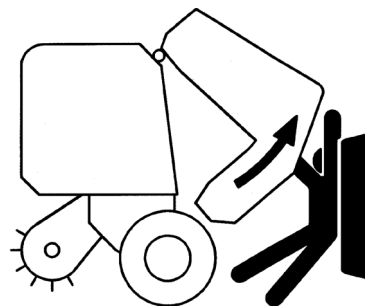
(9) シェアボルトの交換のときは

PTOを切り、エンジンを必ず停止し、回転部が完全に停止してから行ってください。



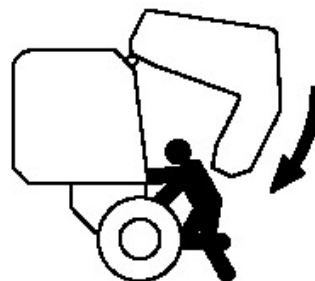
(10) バールを放出するときは

バールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。



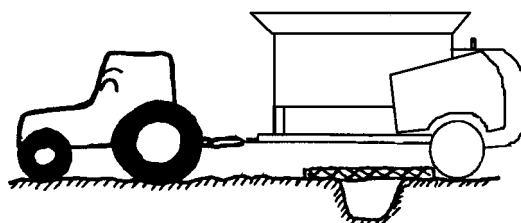
(11) チャンバーを開けて作業するときは

シリンダストッパーを必ずセットしてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(12) 溝や畦を横断したり

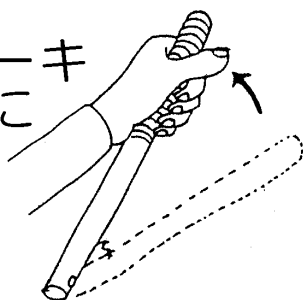
軟弱な所を通るときはスリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



⚠ 安全に作業するために

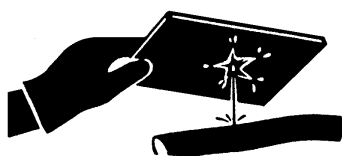
- (13) 作業途中で運転席より離れるときは平坦な場所に停止し、PTOを切りエンジンを停止し、駐車ブレーキを掛け、本作業機側に車止めをしてください。

駐車ブレーキ
も忘れずに



(14) 高圧油に注意してください

- ① 圧力がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。
- ② 高圧油による傷害を防止するために配管・ホースなどの取外し前には、必ず残圧を抜いてください。
- ③ 圧力をかける前に配管・ホースなどは正しく確実に締め付けてください。
- ④ 非常に小さな穴からの油漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。
手で油漏れを探すことはやめてください。必ず、保護メガネをかけ、紙などを使用して調べてください。

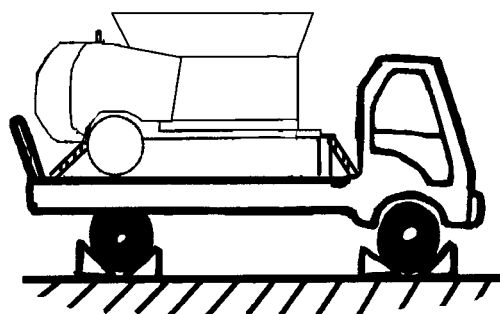


- ⑤ 万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こす恐れがありますので、すぐに医療機関を受診してください。



4. 輸送するときは

- (1) トラックなどへの積み込み・降ろしは平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを停止し、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。積み込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



！ 安全に作業するために

公道走行するときは

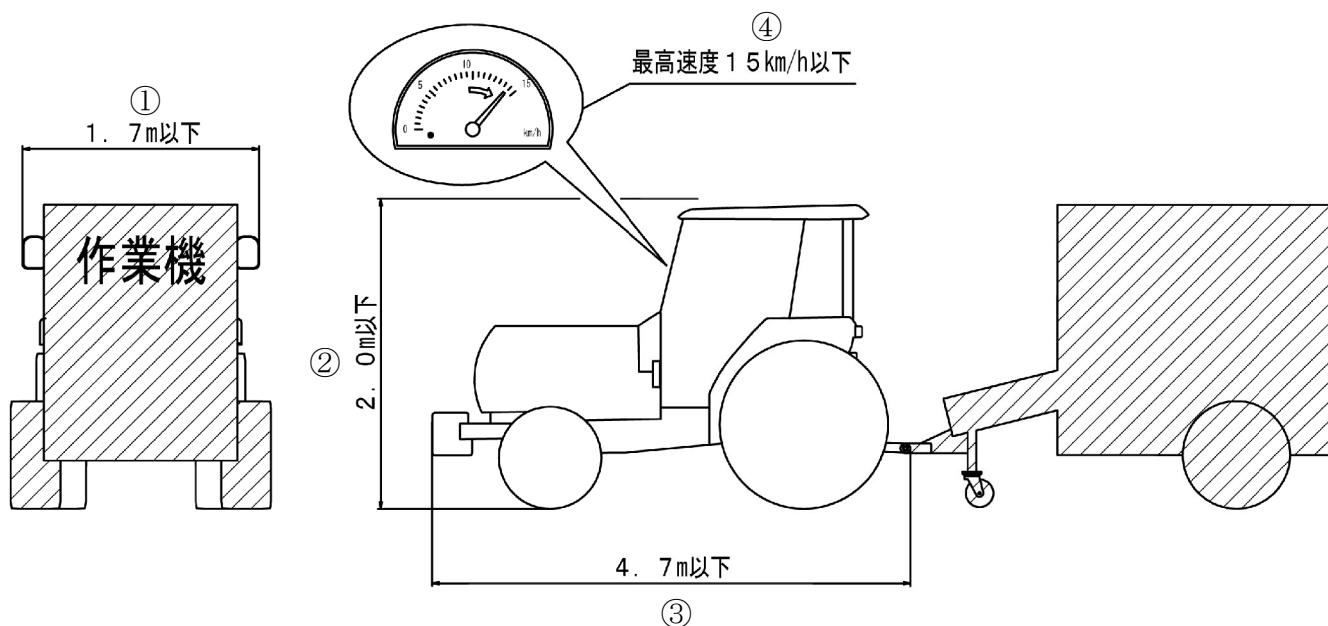
農耕用トラクタに関わる道路運送車両法の運用が見直され、保安基準に緩和措置が設けられました。必要な対応をすることで、けん引タイプの作業機で公道を走行することができます。公道走行をする際は、下記項目を確認したうえで必要な対応を行い、法令遵守して走行してください。

(1) 必要な運転免許証について

トラクタの寸法が下表①～③の数値以内で④最高速度15km/h以下の場合は小型特殊免許で運行可能になりますが、下表①～④の数値をひとつでも上回る場合、大型特殊免許(農耕用に限る、も含む)とけん引免許(農耕用に限る、も含む)が必要となります。ただし、車両総重量750kgを超えない農耕作業用トレーラをけん引する場合、けん引免許(農耕用に限る、も含む)は必要ありません。

- | | |
|----------|-----------------------------|
| ① 全幅1.7m | ② 全高2.0m(安全キャブや安全フレームは2.8m) |
| ③ 全長4.7m | ④ 最高速度15km/h以下 |

下図を参考にご確認ください。



安全に作業するために

(2) 保安基準への適合性確認

自動車の種類と大きさにより、申請や検査登録が必要になります。

いずれの場合も農耕作業用トレーラ、農耕トラクタの使用者が保安基準適合性を確保する必要があります。

けん引車の農耕トラクタの種別	農耕作業用トレーラの種別と手続き
小型特殊自動車	[小型特殊自動車] <u>①一般的な大きさのもの ※1</u> ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要はありません。
大型特殊自動車 (自動車検査証にけん引時の速度制限の基準緩和を受けた旨の記載があるもの)	<u>②全幅が2.5mを超えるもの</u> ・道路管理者(地方整備局、各都道府県、各市町村等)に対し、個別に特殊車両通行許可を受ける必要があります。 <u>③長さが12mまたは全高3.8mを超えるもの</u> ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。
大型特殊自動車 (上記以外のもの)	[大型特殊自動車] <u>①一般的な大きさのもの ※2</u> ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 <u>②長さが12mまたは高さが3.8mを超えるもの、その他オーバーハング等の基準を超えるもの</u> ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。

※1 全幅2.5m、全長12m、全高3.8mを超えない大きさのもの

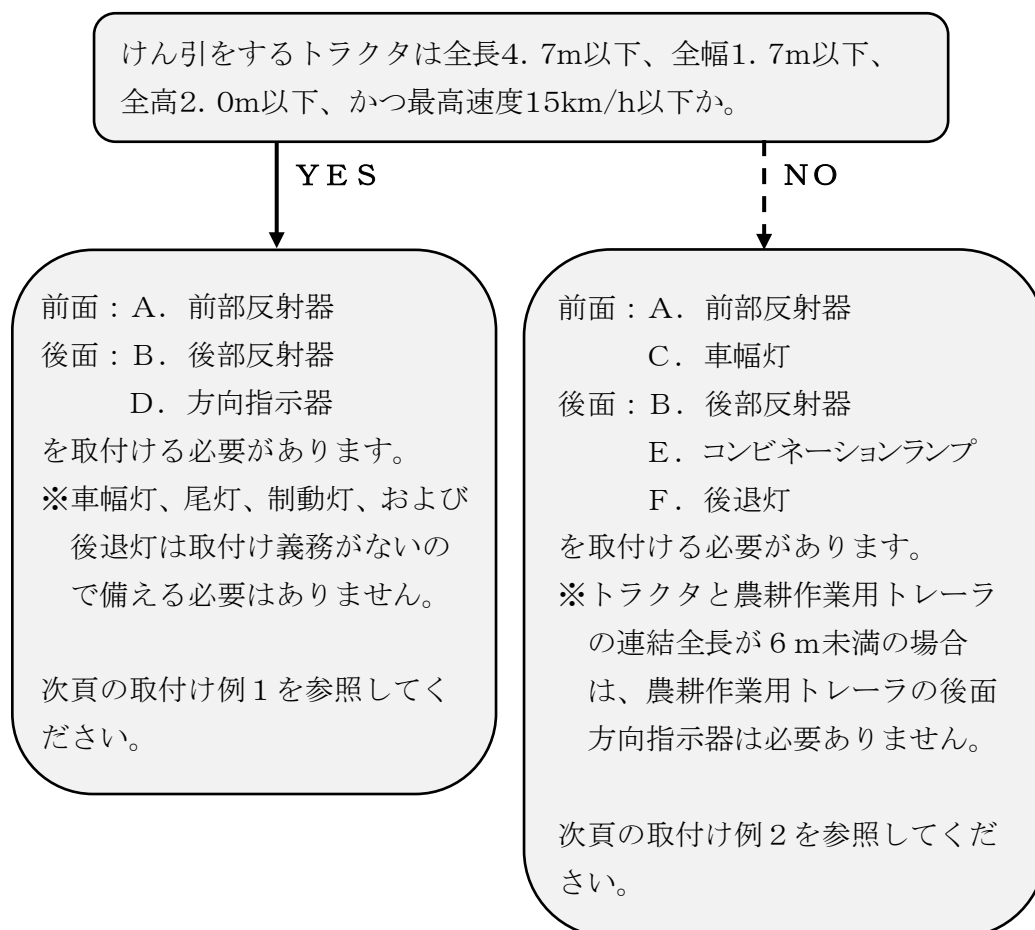
※2 農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結全長が12mを超える場合、道路管理者(地方整備局、地方自治体等)から、特殊車両通行許可を受ける必要があります。

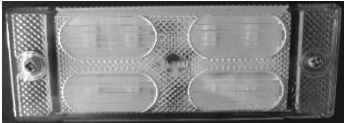
⚠ 安全に作業するために

(3) 灯火器類・ステッカーの取付け

下記フローチャート①～③を全てそれぞれについてご確認ください、必要に応じて公道走行を行うための追加装備を取付けてください。

①トラクタの大きさ、最高速度による灯火器取付け位置



A.前部反射器	B.後部反射器	C.車幅灯	D.方向指示器
			
E.コンビネーションランプ		F.後退灯	
			

⚠ 安全に作業するために

● 装備の取付け位置

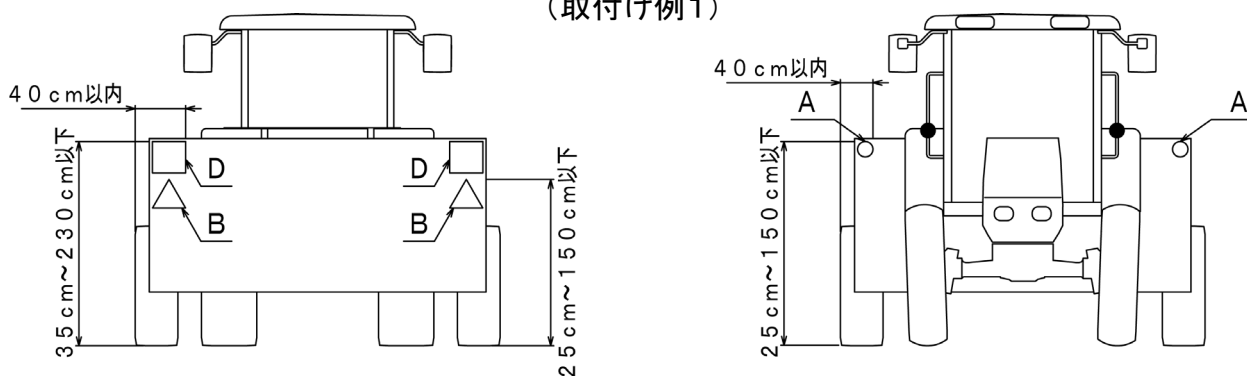
・道路運送車両の保安基準により、各種灯火器類の取付け位置は定められています。

- 前部反射器(リフレクター) 最外側から40cm以内、高さは地上25cm以上150cm以下
- 後部反射器(リフレクター) 最外側から40cm以内、高さは地上25cm以上150cm以下
- 車幅灯(ポジションランプ) 最外側から15cm以内、高さは地上25cm以上210cm以下
- 方向指示器(ウインカー) 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上230cm以下
- 尾灯(テールランプ) 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
- 制動灯(ブレーキランプ) 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
- 後退灯(バックランプ) 高さは可能な限り25cm以上120cm以下

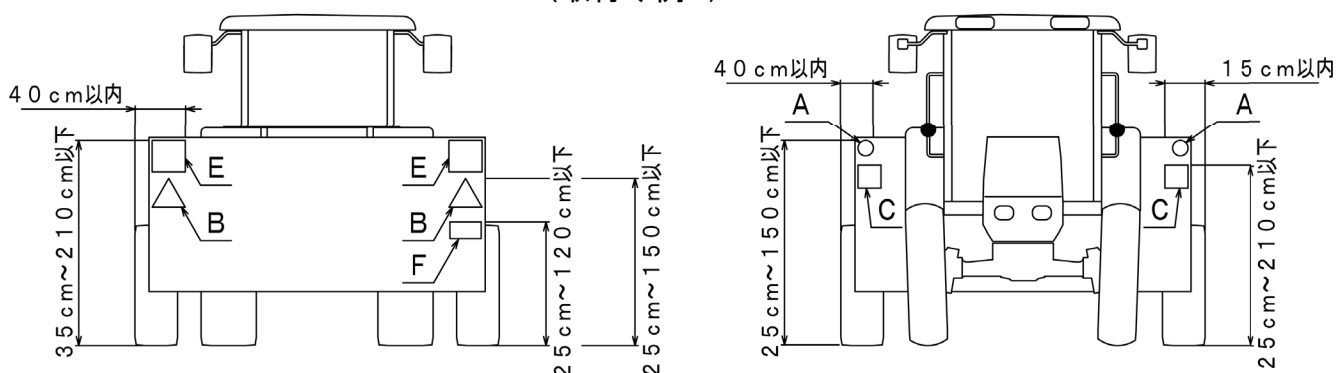
- ・車幅灯は前方から確認(視認)できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・コンビネーションランプ※は後方から確認(視認)できる位置に上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・後退灯は後方から確認(視認)できる位置に上記条件を満たすように取付けてください。

※コンビネーションランプ・・・方向指示器、尾灯、制動灯が一体化したもの

(取付け例1)

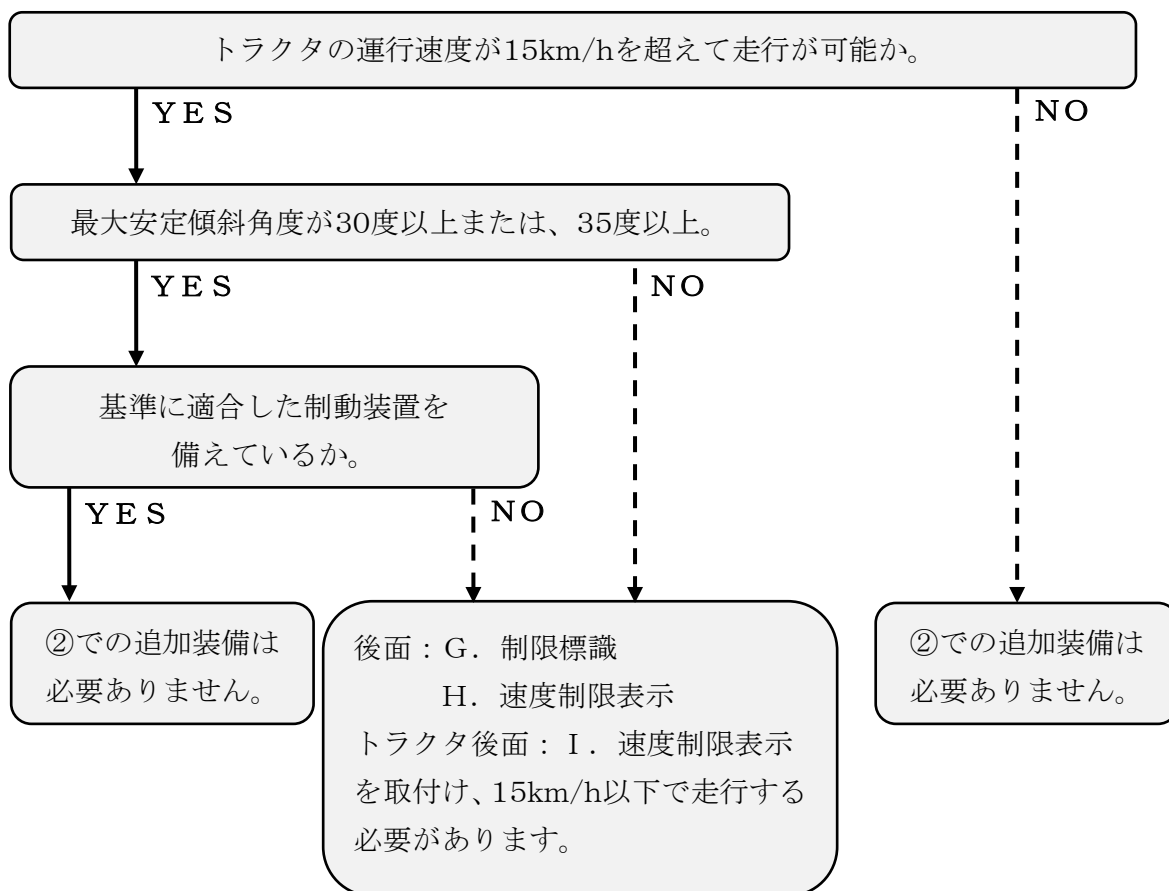


(取付け例2)



安全に作業するために

②トラクタの運行速度



●最大安定傾斜角度が不明な場合は、運行速度15km/h以下で走行してください。

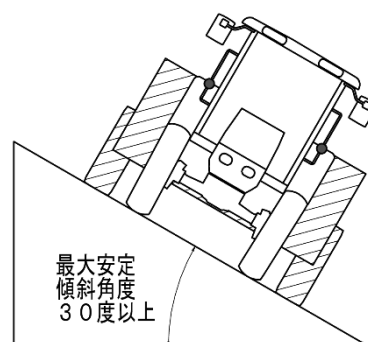
<安定性に関して>

作業機を装着した際に、最大安定傾斜角度が30度以上または、35度以上(車両総重量が車両重量の1.2倍以上または、積載により重心高さが上がるもの)であれば、通常ので道路走行できます。

上記条件を満たさない場合は、

- ・運行速度15km/h以下での道路走行
- ・道路走行をする際に、Gを作業機後面に表示、
Hを作業機後面に表示、

Iをトラクタ後面・運転席に表示
を行う必要があります。

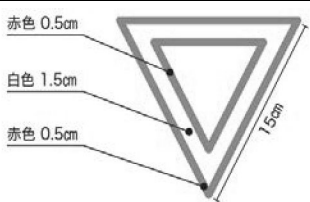


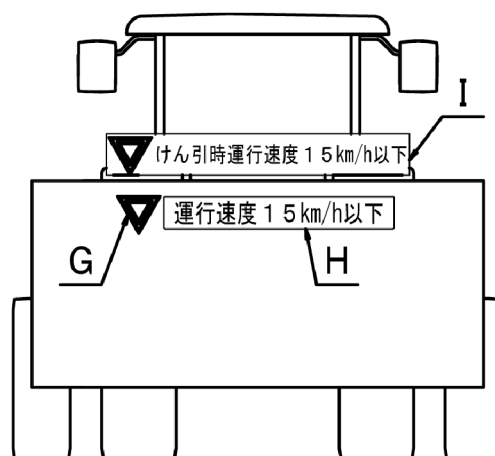
⚠ 安全に作業するために

● 装備の取付け位置

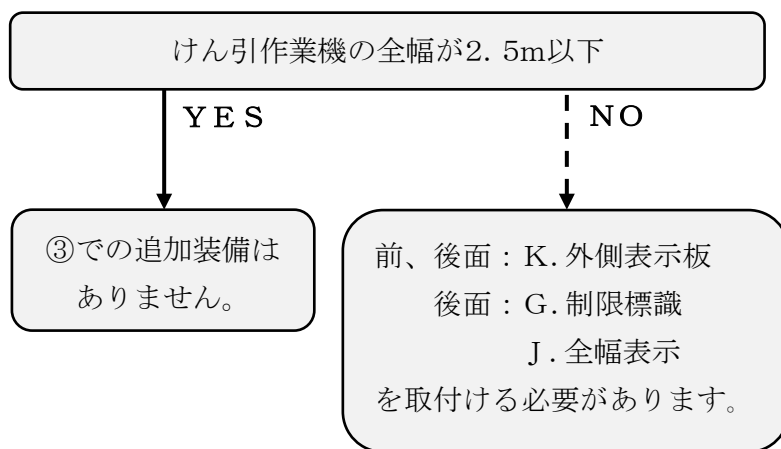
- ・ G、H、I は後方から確認できる位置に取付けてください。
- ・ I は運転席にも表示する必要があります。

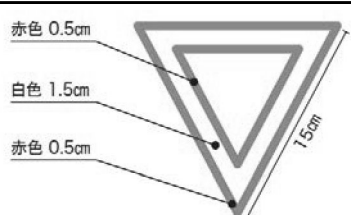
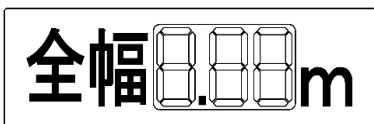
(取付け例)

G. 制限標識	H. 速度制限表示 (作業機側)
	
I. 速度制限表示 (トラクタ側)	
	



③ 作業機装着時の全幅



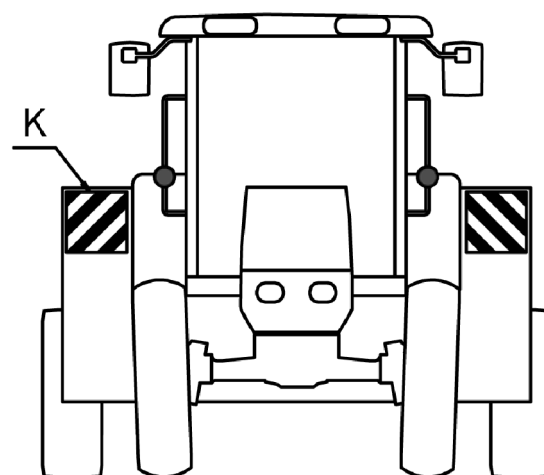
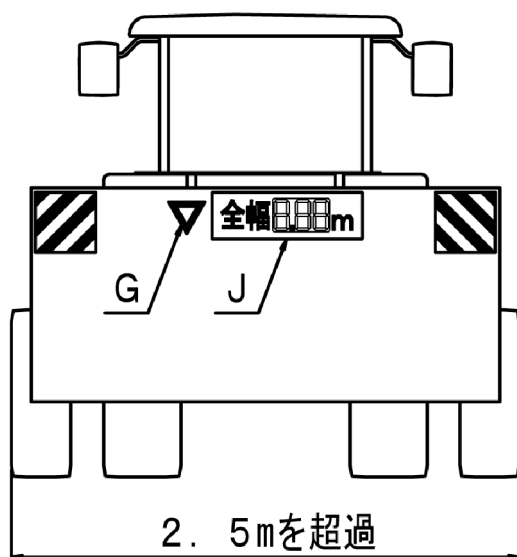
G. 制限標識	J. 全幅表示	K. 外側表示板
		

⚠ 安全に作業するために

● 装備の取付け位置

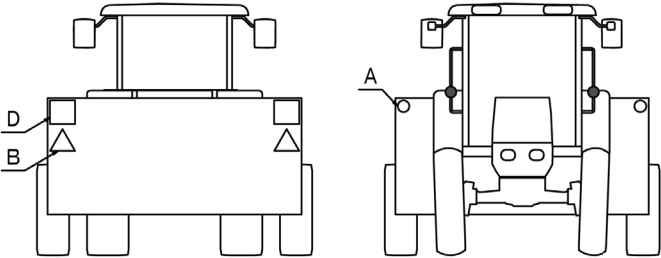
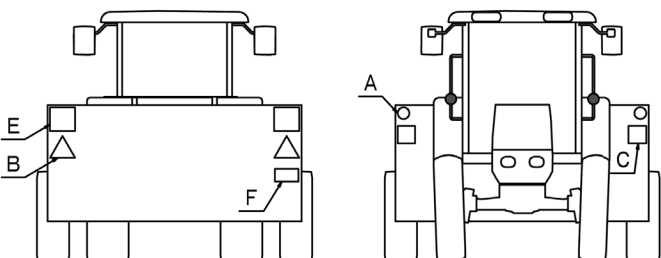
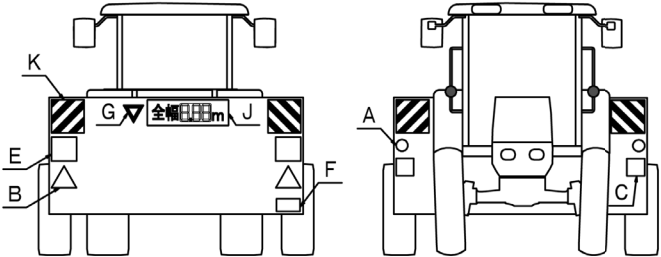
- ・ G、J は後方から見やすい位置に取付けてください。
- ・ K は前後、両端に赤白ラインが「ハの字」になるように取付けてください。

(取付け例)

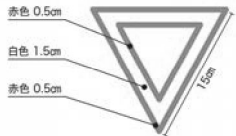


！安全に作業するために

灯火器類・ステッカー取り付け例

灯火器取付け位置 車幅灯 前部反射器 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器 後退灯	全長 4.7 m以下、 全幅 1.7 m以下、 全高 2.0 m以下、 最高速度 15 km/h 以下の場合	(ア) 
	上記の寸法 または最高速度 15 km/hを1つでも 上回る場合	(イ) 
	全幅が 2.5 mを 超える場合	(ウ) 

灯火器・ステッカー

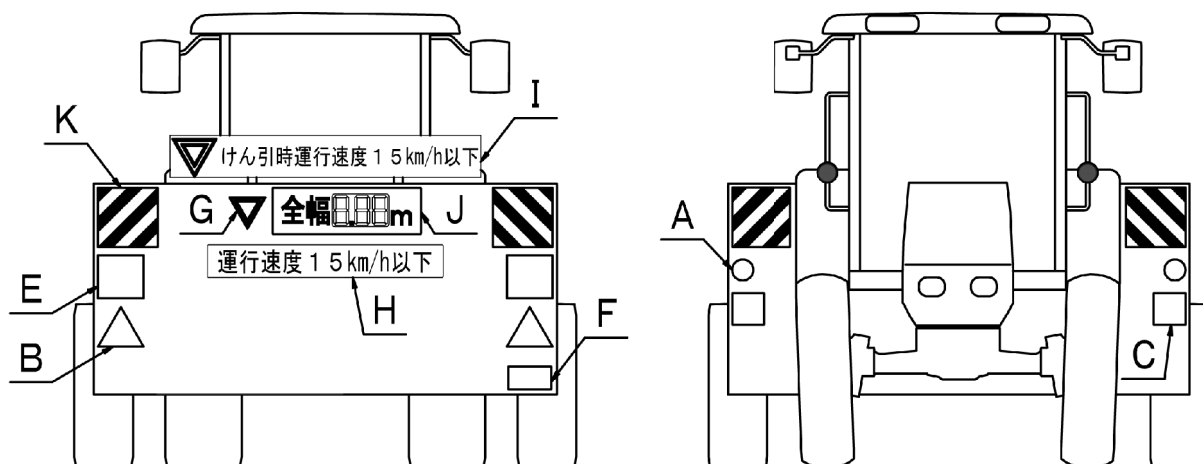
A. 前部反射器 	B. 後部反射器 	C. 車幅灯 	D. 方向指示器 	E. コンビネーションランプ 
F. 後退灯 	G. 制限標識 	H. 速度制限表示 (作業機側) 運行速度 15 km/h 以下	I. 速度制限表示 (トラクタ側) けん引時運行速度 15 km/h 以下	
J. 全幅表示 全幅 8.88 m	K. 外側表示板 			

※全幅2.5mを超過する場合は、道路管理者(国道：地方道路局、県道：各都道府県、市道：各市町村)から特殊車両通行許可を得る必要があります。

⚠ 安全に作業するために

- p.11「②トラクタの運行速度」を確認後、速度制限表示が必要な場合は取付けてください。

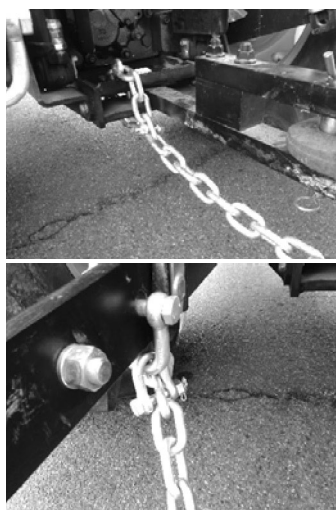
例：(ウ) に速度制限表示を追加



- 灯火器類取付けの際には、トラクタの操作と連動して点灯することを確認後に公道走行を行ってください。また、灯火器類・ステッカーが汚れたときは視認できるように掃除をしてください。

(4) 農耕作業用トレーラの構造要件(分離時の連結維持構造)に関して

農耕トラクタが農耕作業用トレーラをけん引した際に、不意に連結装置(ドローバ等)が分離したときでも農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結を保つことができる構造でなければ道路走行できません。セーフティチェーン等を備え、けん引時にはセーフティチェーン等をねじ止め等でつないで道路を走行してください。



詳細は日農工「公道走行ガイドブック」(<http://www.jfmma.or.jp/kouido.html>)をご覧ください。その他不明な点は、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

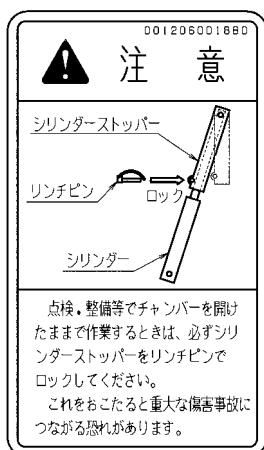
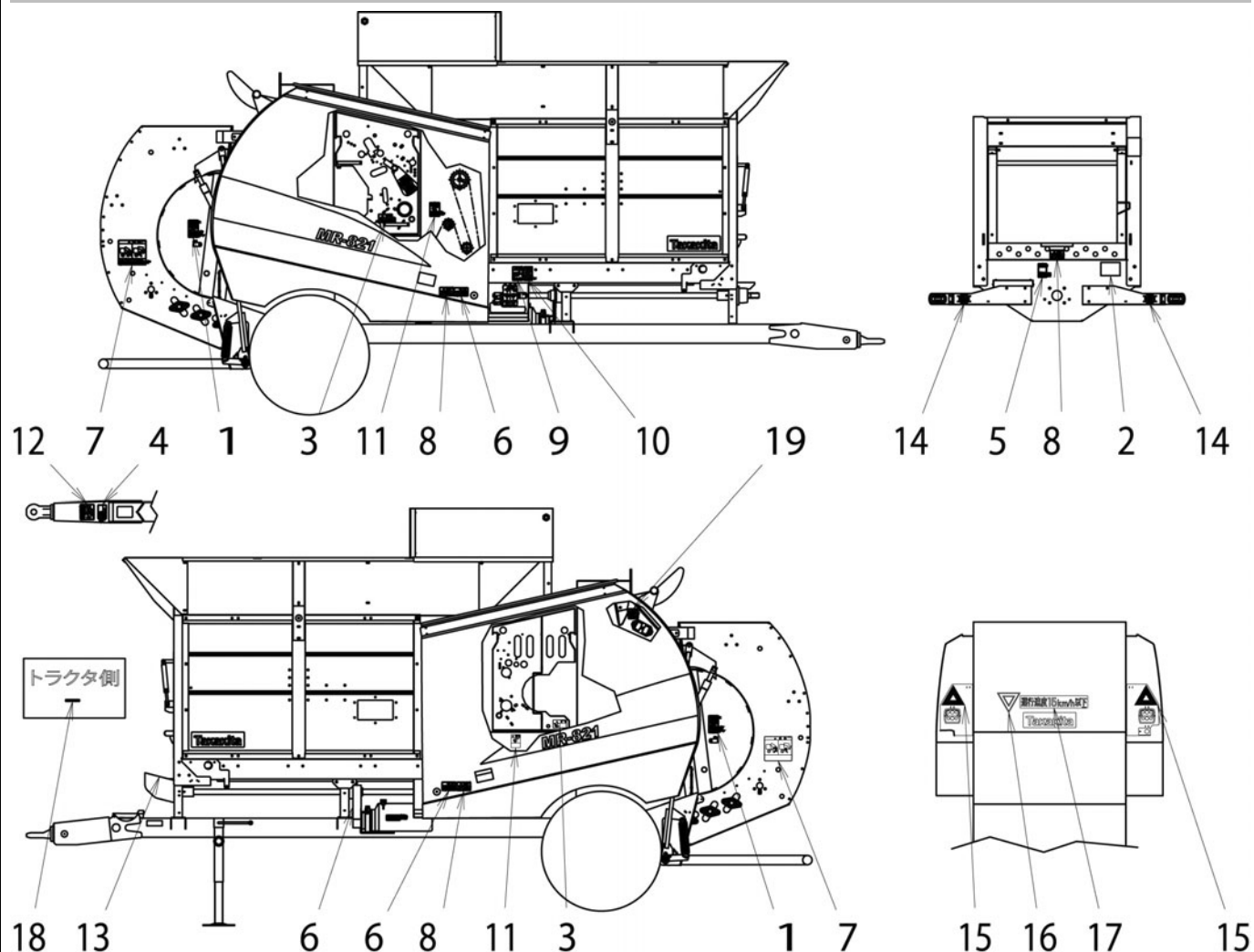
(5) 公道走行時の注意点

- パトライトを設置した状態での公道走行は、法令で禁止されています。
公道走行時は、パトライトを外してください。

⚠ 安全に作業するために

以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

5. 警告ラベルの貼付け位置

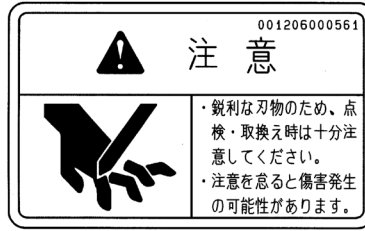


安全に作業するために

②部品コード 001204501330



③部品コード 001206000561



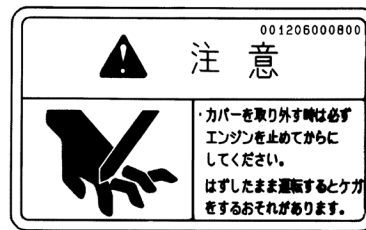
④部品コード 001206000610



⑤部品コード 001206000750



⑥部品コード 001206000800



⑦部品コード 001206001350



⑧部品コード 001206001690



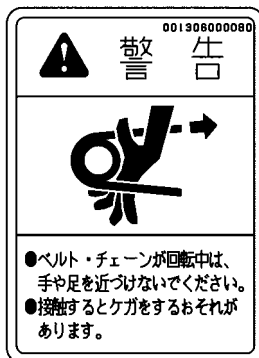
⑨部品コード 001306000190



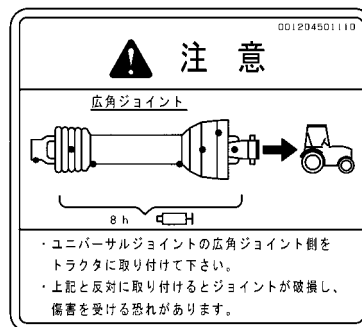
⑩部品コード 001206001080



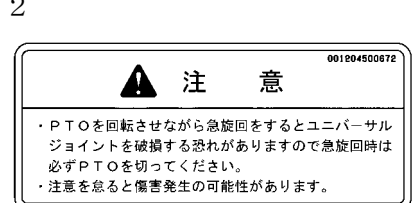
⑪部品コード 0013206000080



⑫部品コード 001204501110



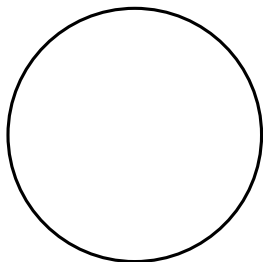
⑬部品コード 00120450067



2

安全に作業するために

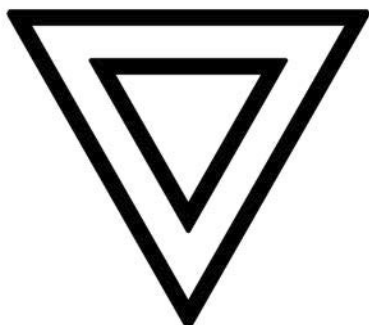
⑭部品コード 001206002280



⑮部品コード 001206002340



⑯部品コード 001206002260



⑰部品コード 001205200050

運行速度15km/h以下

⑱部品コード 001205200030

運行速度15km/h以下

⑲部品コード 001206002410



警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、剥がれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し、新しいラベルを元の位置に貼ってください。
(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

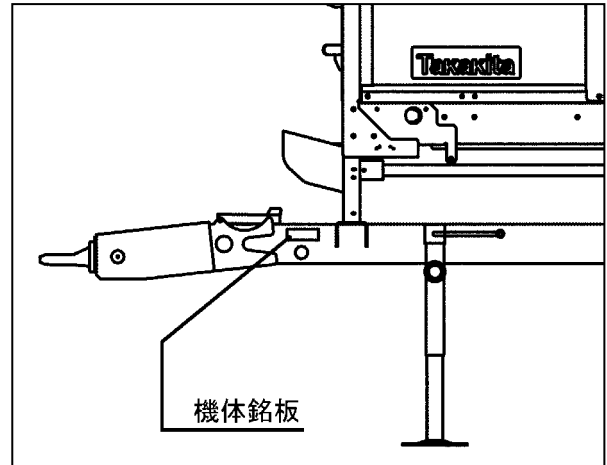
本製品の使用目的について

本製品は、細断コーンをロール成形する作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、J A (農協)、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No.)
- ご使用状況は？ (どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？ (約〇〇アール、または約〇〇時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

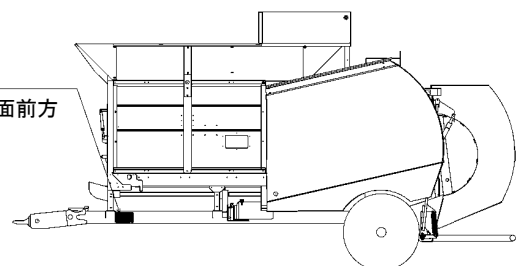
品名	細断型ロールベアラ		
型式	MR-821		
機体 No. (SER-No.)			
購入年月日	年	月	日
販売店名	TEL : ()		

台車番号について

本製品には、上記機体 No. と関連させて機械の同一性を管理する車体番号が打刻されています。
打刻位置と打刻形式は右図を参照ください。

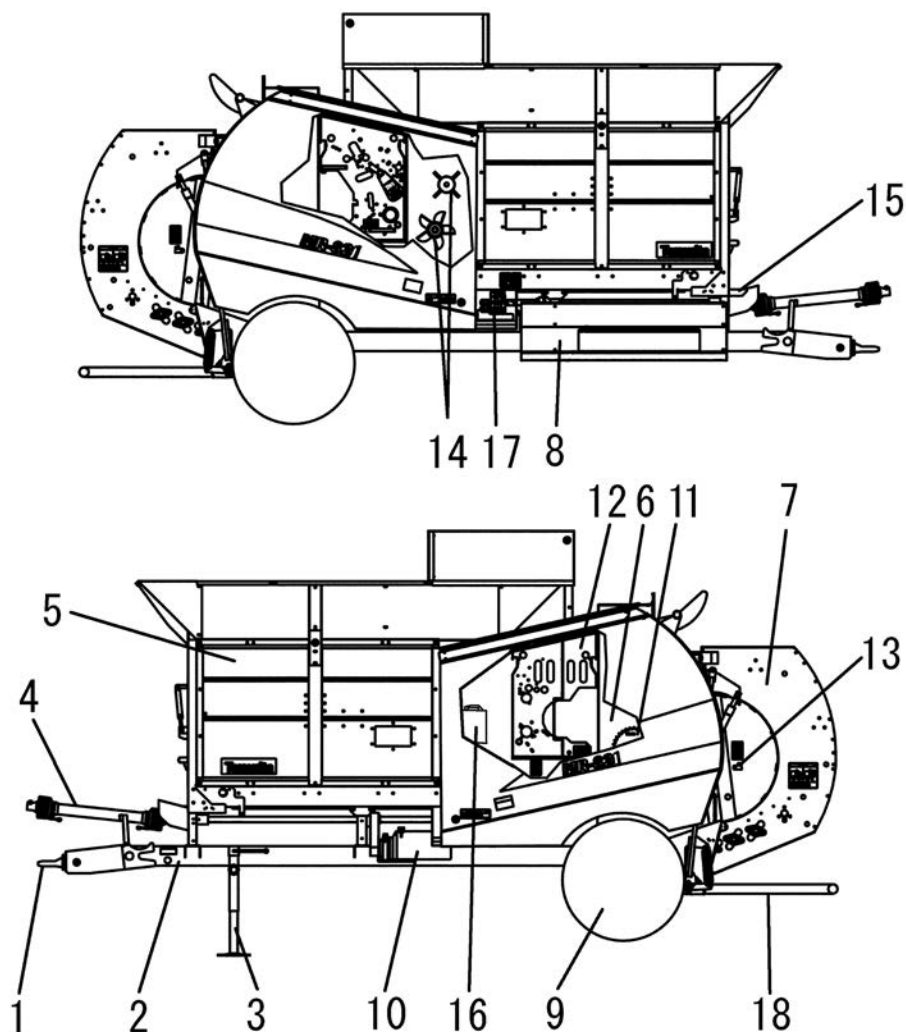
台車番号
MR820-*****

車体番号打刻位置
ケンインカンの左側面前方



各部の名称とはたらき

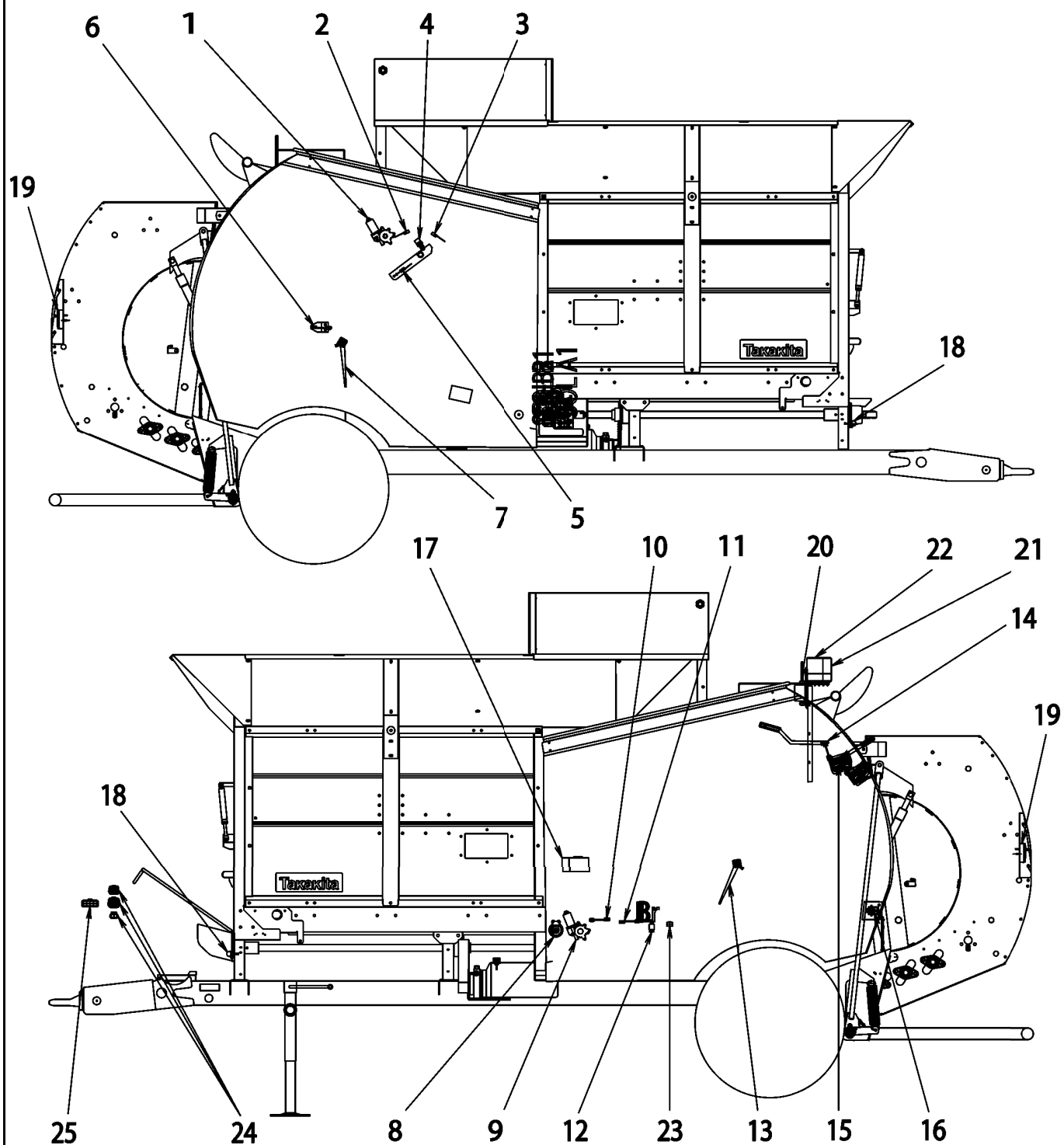
◆本体



番号	名 称	は た ら き
1	ヒッチ	・トラクタと連結します
2	けん引フレーム	・全体の構造部を保持します
3	スタンド	・ヒッチを上下する ・トラクタの脱着時および保管時に使用します
4	ユニバーサルジョイント	・トラクタからの動力を伝えます
5	ホッパー	・収穫物を投入します
6	フロントチャンバー	・成形室の前部分
7	リアチャンバー	・成形室の後部分
8	ネットボックス	・ネットを収納します
9	タイヤ	・低圧広幅タイヤでほ場を傷めません
10	油圧パッケージ	・トラクタの動力より油圧を発生させます
11	シェアホイル	・ベアラに過負荷がかかったときにシェアボルトが切断されます
12	ネット装置	・ネットでロールベールを梱包します
13	シリンダストッパー	・リアチャンバーを上げて点検するときシリンダストッパーで固定します
14	アジテータ	・ネットホサキセンサによる制御で収穫物を送り込みます
15	車輪止め	・駐車時に車輪止めをしてください
16	注油タンク	・タイトチェンへ給油するオイルを入れます (エンジンオイル5W-30または10W-30を40)
17	電磁バルブ	・油圧を制御します
18	キッカー	・ロールベールの放出を補助します

各部の名称とはたらき

◆センサ・アクチュエータ・ランプ関係



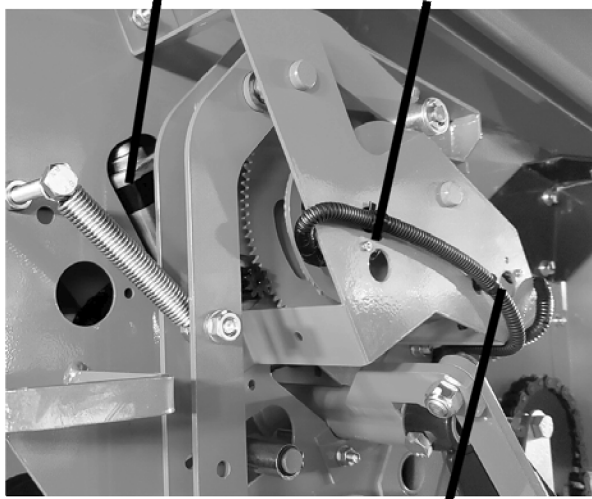
各部の名称とはたらき

番号	名 称	は た ら き
1	ネットモータ	・カムを回転させ、ネットを繰り出します
2	カム1センサ	・カムの位置を制御します
3	カム2センサ	
4	ネット残量センサ	・ネットが残り少ないことを検出します
5	ネットカウントセンサ	・ネット巻数をカウントします
6	PTOセンサ	・PTO回転数を検出します ・シェアボルトが折れたことを検出し、供給を止めます
7	ホサキ右センサ	・供給中、材料が流れていることを検出します ・ネットの片巻きを検出します
8	ホーン	・満了感知、ネット巻き完了、ベールの排出を知らせます
9	クラッチモータ	・ベアラ部に動力をつなぎます
10	クラッチ入センサ	・クラッチが入ったことを検出します
11	クラッチ切センサ	・クラッチが切れたことを検出します
12	注油リレー	・注油ポンプを駆動します
13	ホサキ左センサ	・供給中、材料が多いことを検出し、コンベアを止めます ・ネットの片巻きを検出します
14	満了感知ポテンシオメータ	・ベールサイズをタイトチェンの張りから検出します
15	チャンバーポテンシオメータ	・チャンバーが全開、全閉状態になったことを検出します ・ベール放出中、クラッチを切るタイミングを検出します
16	キッカーセンサ	・ベールが放出されたことを検出します
17	注油ポンプ	・供給開始時、自動でタイトチェンに注油します
18	車幅灯(左右)	・尾灯と共に点灯します
19	コンビネーションランプ(左右) 後退灯(右側のみ)	・ウインカ、ブレーキランプ、尾灯を備えたランプです ・後進するときに点灯するランプです
20	受信機	・送信機の操作を受信します
21	パトライト緑	・点灯:ベール成形中 ・点滅:ベール放出待ち
22	パトライト黄	・点灯:ネット巻付け中 ・点滅:ネットエラー
23	添加器用出力	・添加器用のリレーを取り付けることができます
24	入力用コネクタ 出力用コネクタ パトライト黄用コネクタ	・制御用コネクタ 作業する前にコントロールボックスと接続してください。 ・パトライト黄用コネクタは、パトライトを移設した場合にのみ使用します。
25	灯火装置用カプラ	・国産トラクタに対応した灯火装置用のコネクタです

各部の名称とはたらき

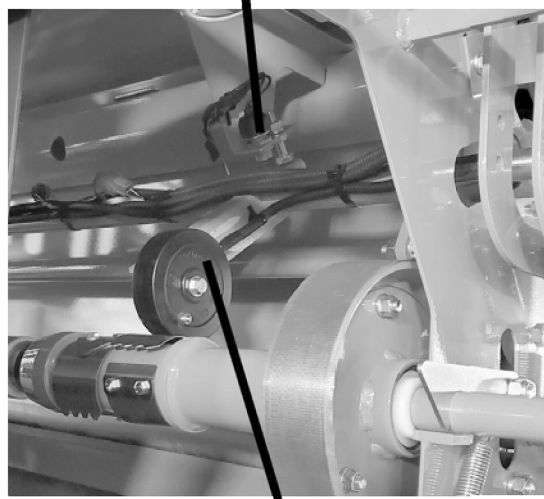
1: ネットモータ

2: カム1センサ



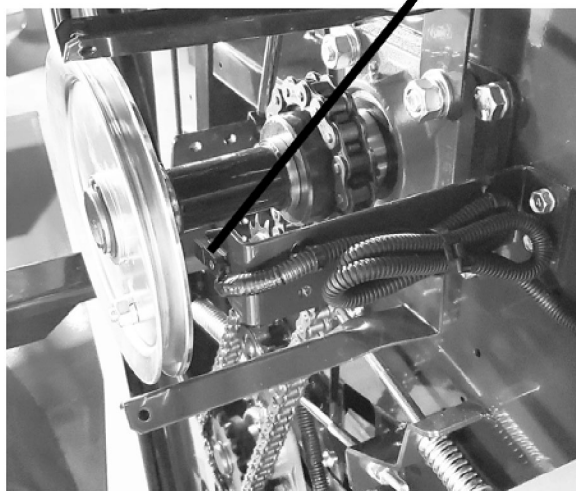
3: カム2センサ

4: ネット残量センサ



5: ネットカウントセンサ

6: PT0センサ



9: クラッチ
モータ

10: クラッチ
入センサ



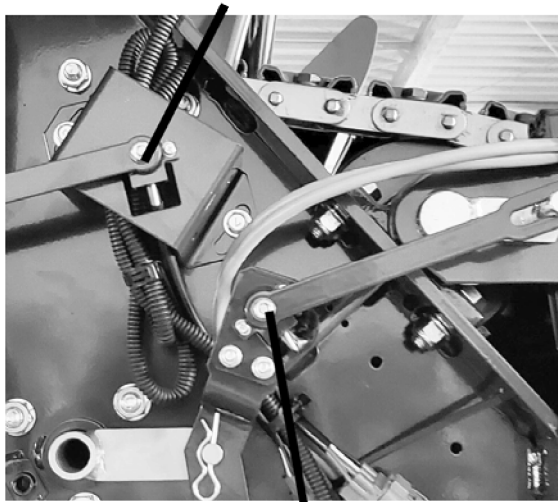
8: ホーン

11: クラッチ
切センサ

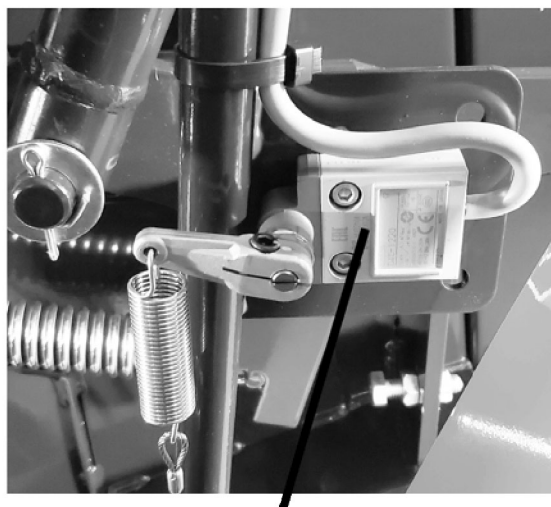
12: 注油リレー

各部の名称とはたらき

14: 満了感知ポテンシオメーター

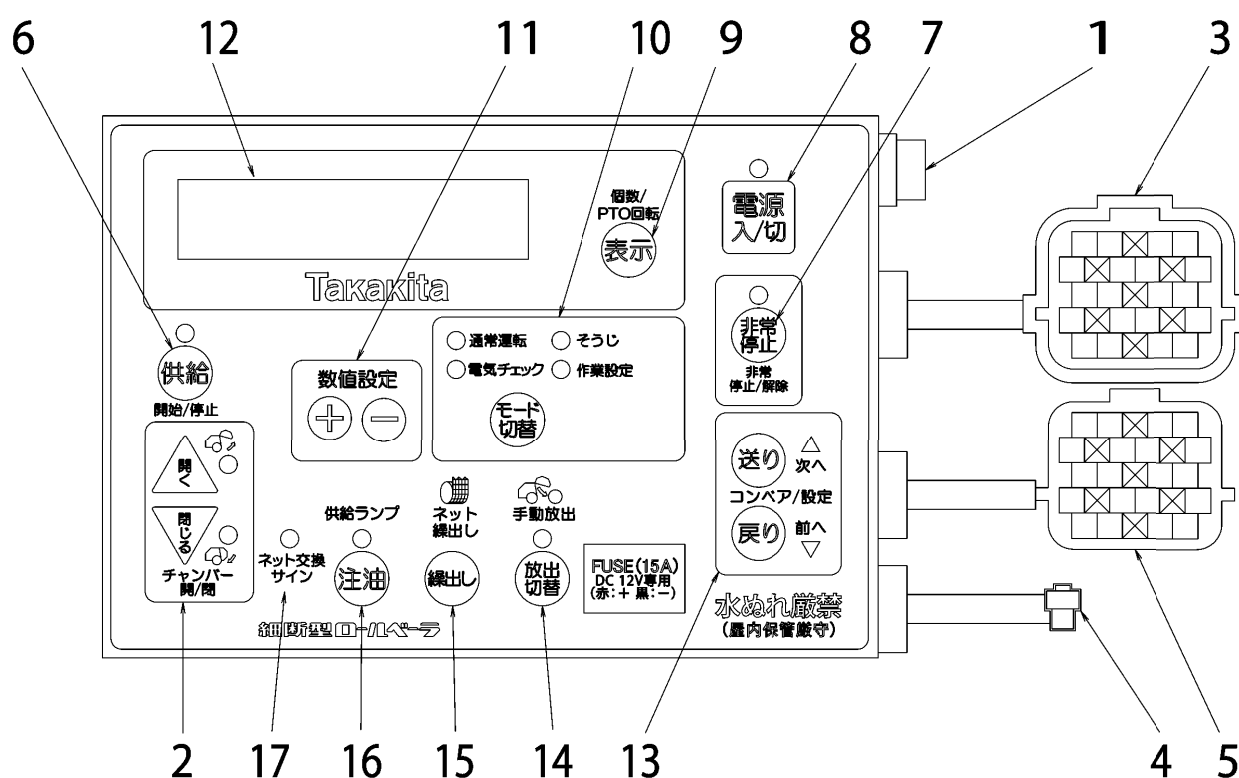


15: チャンバーポテンシオメーター



16: キッカーセンサ

◆コントロールボックス



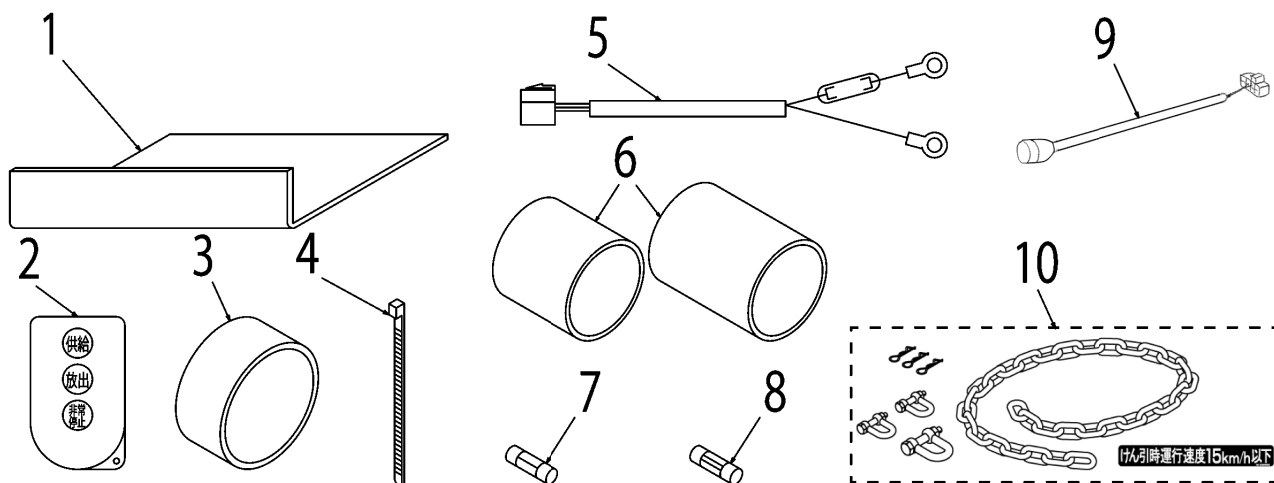
各部の名称とはたらき

・コントロールBOXの説明

番号	名 称	は た ら き
1	ヒューズ	・ 異常な高い電流が流れたとき、コントロールボックスを保護します
2	開くボタン 閉じるボタン	・ 押している間、チャンバーを開・閉します ・ ベール放出待ちのとき、一度「開く」ボタンを押すとチャンバーが全開まで開きます。その後、一度「閉じる」ボタンを押すとチャンバーが全閉まで閉じます。 ランプ点灯: 全開または全閉 ※ネット巻きしていない材料が成形室にある場合、チャンバーを開かないでください。 ※チャンバーに挟まるおそれがありますので、機材の周りや中に人がいないことを確かめてからチャンバーを閉じてください。
3	入力用コネクタ	・ センサ、受信機からの信号を受け取ります。
4	電源コネクタ	・ 付属の電源コード(太)を利用し、バッテリーから直接接続してください。
5	出力用コネクタ	・ モータ、油圧バルブを動かします。
6	供給ボタン	・ 一度押すと供給を開始しベール成形を開始します。もう一度押すと供給が停止し、ベール成形を停止します。 ランプ点灯: ベール成形中
7	非常停止ボタン	・ 一度押すと非常停止になります。リモコンもしくはコントロールボックスの「非常停止」ボタンを長押しすることで解除できます。 - また、非常停止中、液晶画面に非常停止の理由を表示します。 ※緊急の場合はコントロールボックスの「非常停止」ボタンを一度押し、トラクタを停止してください。
8	電源入/切ボタン	・ 一度押すとコントロールボックスの電源を入れ、もう一度押すと電源を切ります。
9	表示ボタン	・ 押している間、ベール作成個数とPTO回転数を表示します。
10	モード切替ボタン	・ 押す度に、「通常運転」、「そうじ」、「作業設定」、「電気チェック」を切替えます。 通常運転: 作業ができます。 ※満了感知できませんので、作業中は必ず「通常運転」を選択してください。 そ う じ : 10秒後にベアラ部に動力をつなぎます。 作業設定 : 作業の設定を行います。 電気チェック: センサの状態を確認します。
11	+ボタン・-ボタン	・ 「作業設定」、「メーカー設定」のとき、押すと設定値が増減します。
12	液晶画面	・ 作業状態、エラー内容を表示します。
13	送りボタン 戻りボタン	・ 押している間、コンベアを正・逆転させることができます。 ※戻りボタンは1秒以上押し続けられないでください。 機械破損の原因になります。
14	放出切替	・ ベールの放出を自動で行うか手動で行うかを切り替えます。 ランプ点灯: 手動放出に設定中 ※ネット巻付け後に自動に切り替えるとベール放出を行います。
15	繰出しボタン	・ ベアラ部に動力をつなげネットを強制繰出しします。
16	注油ボタン	・ 一度押すと10秒間タイトチェンに注油します。 ランプ点滅: タイトチェンに注油中 ランプ点灯: ホサキ左・右センサどちらかが押されている
17	ネット交換サイン	ランプ点灯: ネットが残り少ない

各部の名称とはたらき

◆付属品



番号	名 称	は た ら き
1	コントロールボックススペース	コントロールボックスをトラクタに取り付けるときに使用します。
2	送信機	操作を受信機に送ります。 供給ボタン： 一度押すと供給を開始しベール成形を開始します。 もう一度押すと供給が停止し、ベール成形を停止します。 放出ボタン： 放出待ちのとき、押すとベールを放出しチャンバーを閉じます。 非常停止ボタン： 一度押すと非常停止になります。リモコンもしくはコントロールボックスの「非常停止」ボタンを長押しすることで解除できます。 また、非常停止中、液晶画面に非常停止の理由を表示します。 ※緊急の場合はコントロールボックスの「非常停止」ボタンを一度押し、トラクタを停止してください。
3	カラー短	1. 2m幅ネットを装着するとき、「カラー短」を奥に入れてください。
4	リピートタイ	ハーネスをタイヤやジョイントに絡まない程度にたるませ、リピートタイで固定してください。
5	電源コード(太)	トラクタのバッテリーから直接コントロールボックスに接続するために利用してください。管ヒューズ30A付
6	カラー中 カラー長	1. 0m幅ネットを装着するとき、「カラー長」を奥に入れ、「カラー中」をドラム側に入れてください。
7	ヒューズ15A	コントロールボックス用ヒューズの予備
8	ヒューズ30A	電源コード用ヒューズの予備
9	テールランプヘンカン ハーネス	トラクタでコンビネーションランプのコネクタがDIN規格の場合、ヘンカンハーネスを取り付けることで接続できるようになります。
10	公道走行用チェーン およびシャックル	チェーンφ11(1.5m) 1ヶ ボルトシャックル 12 2ヶ ボルトシャックル 14 1ヶ 抜け止めスナップピン 3ヶ

トラクタへの装着

！ 警告

- トラクタへの本機の装着は平坦で安定した場所で行ってください。
- 二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
- ユニバーサルジョイントは、必ずトラクタのエンジンを停止し、PTOクラッチを切ってから確実に接続してください。

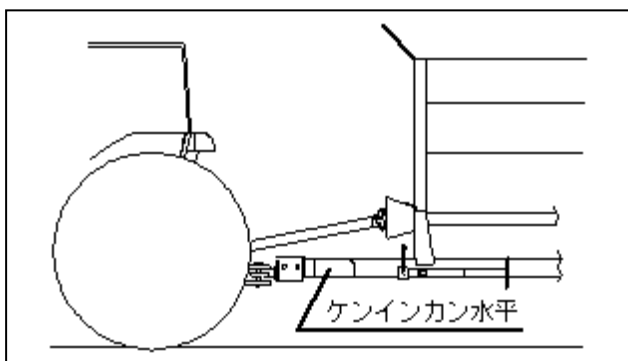
以上のことを守らないと傷害発生のおそれがあります。

1. 装着のしかた

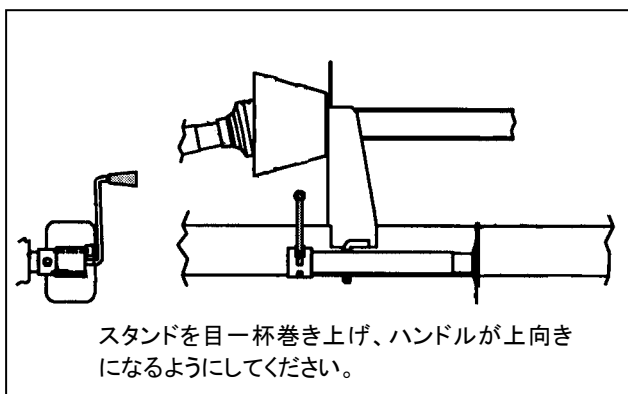
◆装着順序

本機の牽引桿をトラクタのドローバまたはコーンハーベスタのミッションのヒッチにピンで接続してください。

トラクタのドローバの高さ調節で本機の牽引桿が水平になるようにしてください。



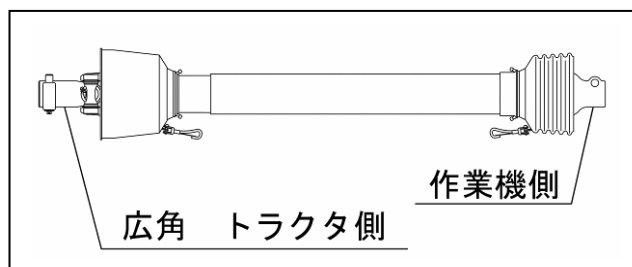
◆スタンドを上げる



2. ユニバーサルジョイントの取付け

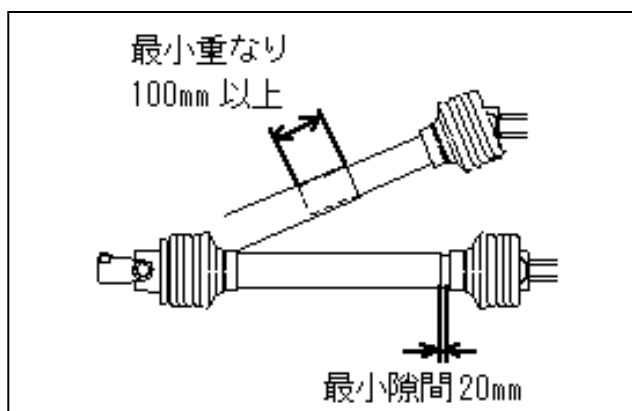
◆ユニバーサルジョイントの取り付け順序

本機入力軸に取り付けてから、トラクタPTO軸広角側を確実に取り付けてください。ジョイントは専用のものを使用してください。



◆ユニバーサルジョイントの長さ確認

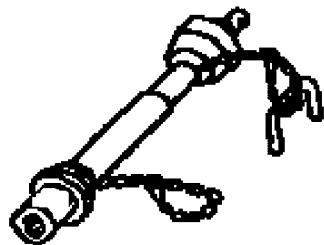
先にジョイント長さを確認し、長すぎる場合は、旋回時にジョイントを破損するおそれがありますので注意してください。



トラクタへの装着

◆カバー回転止めチェーンで固定を

ユニバーサルジョイントのカバーが回転しないように、チェーンに余裕をつけて、しっかりと固定してください。



チェーンで回り止めを

◆急旋回注意

PTOを回転させながら急旋回すると、ユニバーサルジョイントを破損するおそれがありますので、急旋回時には必ずPTOを切ってください。

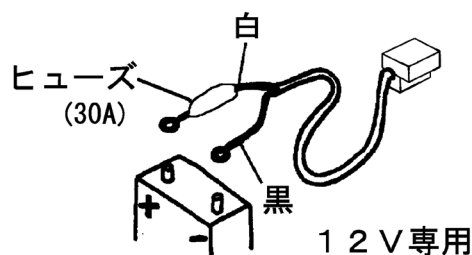
3. コントロールボックスの接続

◆電源はトラクタのバッテリーから

直接取り出します

◆接続できるバッテリーの電圧は12Vです
24Vのバッテリーに接続しないでください。
間違って接続すると、コントロールボックス
内部および電気系統が破損するおそれがあります。

バッテリーへは
+が先 -はあと



◆(+), (-)の接続を間違えないように

白色線はバッテリーの(+)へ接続

黒色線はバッテリーの(-)へ接続

注意

(+), (-)の接続を間違えると、コントロールボックスの液晶は表示されません。

警告

接続の順序は、(+)側から行ってください。

また、取り外すときは、(-)側から行ってください。

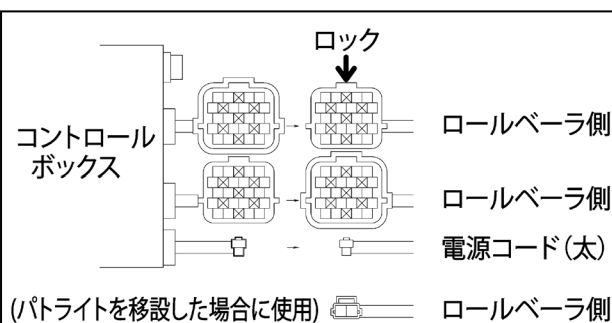
逆にすると、火花が飛び危険です。

◆配線の接続

次の図を参考にして、電源コード(太)と
ベアラからのハーネスをコントロールボ
ックスに接続します。

コネクタは「カチッ」音がするまで、しっ
かりと差し込んでください。差し込みが
不十分ですと正常に動作しないことが
あります。

また、抜くときは各コネクタのロック
部分 (図の下矢印) を押しながら抜いて
ください。



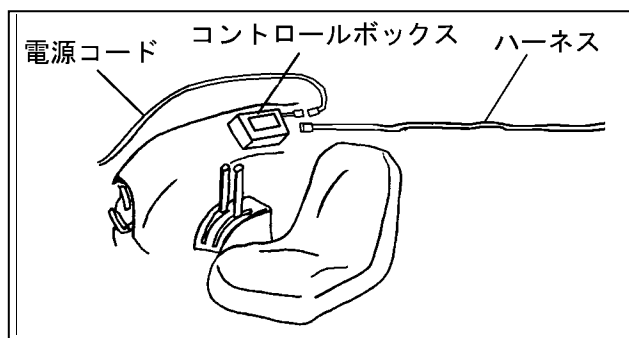
トラクタへの装着

◆コントロールボックスの取り付け

コントロールボックスの裏側に永久磁石、コントロールボックスベース(付属品)には穴があります。

操作のし易いように、トラクタの運転席右側に取り付けてください。

また、配線が作業の邪魔にならないようにトラクタに固定してください。



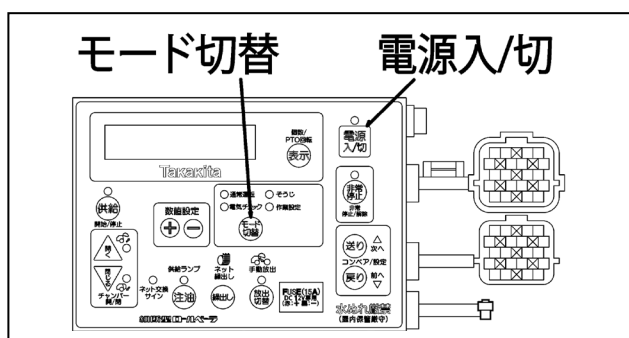
◆バッテリーの容量チェック

トラクタのエンジンをかけて、エンジン回転数を上げてください。

ヒーターの送風を最大(暖房)に、ヘッドライトをハイビームにしてデフォッガー(ガラスの曇りとり)も作動させてください。

コントロールボックスの「電源入/切」ボタンを押し電源を入れてください。

「モード切替」ボタンを3回押して、電気チェックにしてください。



液晶画面に「デンゲンデンアツ」が表示されますので、3分程経過しても電圧が13.5V以上にならない場合、トラクタの取扱説明書に従ってバッテリーやオルタネータの確認または交換をしてください。

確認後はコントロールボックスの「電源入/切」ボタンを押して電源を切り、トラクタのエンジンを停止してください。

◆作業終了後は取り外して屋内に保管

作業終了後は、電源コード(太)とハーネスをコネクタより切り離し、水等がかからない屋内に保管してください。

トラクタへの装着

4. セーフティチェーンの取扱い

◆セーフティチェーンの組付け手順

セーフティチェーン(以下チェーンと表記)はさまざまなトラクタに対応するため、長めのチェーンが付属しています。

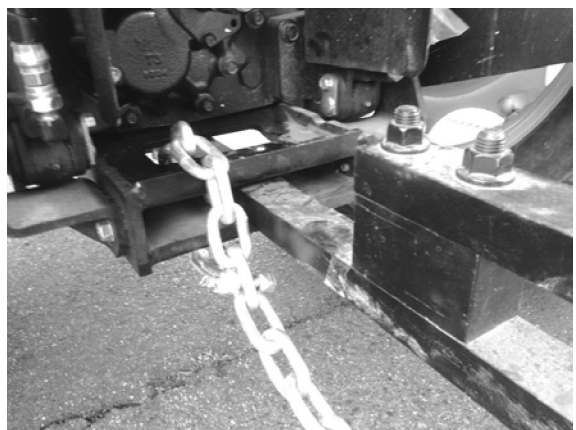
トラクタ側のチェーン取り付け位置にもよりますが、直進時はチェーンが張られ、旋回時にはチェーンが垂れる傾向にあります。チェーン取り付けの際には、長さに十分注意し、余分なチェーンは切断するなど走行の妨げにならないようにしてください。

[1] トラクタ側と作業機側の両方でボルトナットシャックル12を使用し、チェーンを組み付けてください。

(1) トラクタのけん引ドローバ周辺にチェーンを組み付けた場合



例 1



例2

(2) トラクタのロワーリンクにチェーンを組み付ける場合は、次のA寸法の大ききでボルトナットシャックルを使い分けてください。

A寸法



○ロワーリンクのA寸法65mm以下の場合

ボルトナットシャックル12を使用してください。



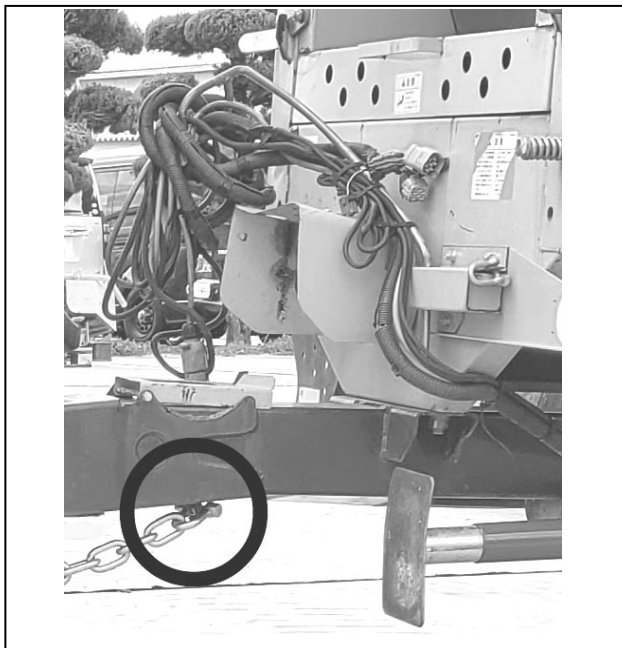
○ロワーリンクのA寸法65～95mmの場合

ボルトナットシャックル16と12を使用してください。



トラクタへの装着

[2] 作業機側のチェーンの組み付けにはボルトナットシャックル12を使用してください。



注意

ボルトナットシャックルの抜け止めはワリピンを使用せず、ヌケドメスナップピンを使用して抜け止めを行ってください。



ヌケドメスナップピンは反時計回りに回しながら抜くと抜けます。



5. 運行速度ステッカーの取扱い

◆運行速度ステッカーの貼り付け位置

速度制限表示(トラクタ用)をトラクタの運転席から良く見える場所に貼付けてください。

けん引時運行速度15km/h以下

速度制限表示(トラクタ用)

運転に必要な装置の取扱い

1. 油圧装置の取扱い

◆チャンバー開閉、アジテータ回転・

床コンベア駆動用です

本機に装備している油圧装置は、チャンバー開閉、アジテータ回転・床コンベア駆動の油圧装置で、油圧ポンプ・タンク一体型の油圧パッケージと電磁バルブを装備しています。

◆PTOが回転している間は作動します

油圧パッケージは、PTOが回転している間は油圧力が発生し、PTOの回転が止まっていると油圧力は発生しません。

◆チャンバーの開閉、アジテータ回転・

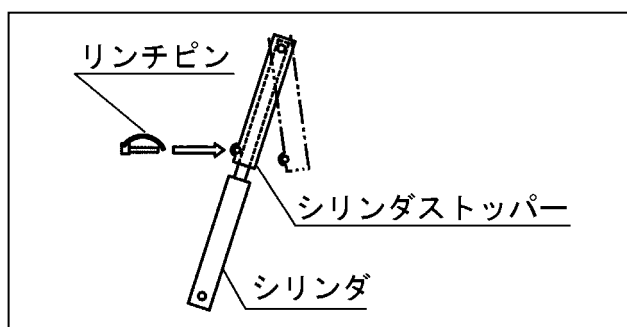
床コンベア操作のしかた

コントロールボックスのボタンを押すとコントロールボックスの表示内容のように油圧作動します。

◆チャンバーを上げたまま

作業するとき

点検・整備等でチャンバーを上げたまま作業するとき、必ずシリンダストッパーをセットしてください。



危険

必ずシリンダストッパーをセットしてください。ストッパーをセットしないでチャンバーを開けた状態での点検整備は、絶対に行わないでください。

これを怠ると重大な傷害事故につながるおそれがあります。

警告

2人で作業を行う場合、必ず二人で合図をしながら、慎重に行ってください。

これを怠ると傷害が発生するおそれがあります。

2. タイトチェン注油装置の取扱い

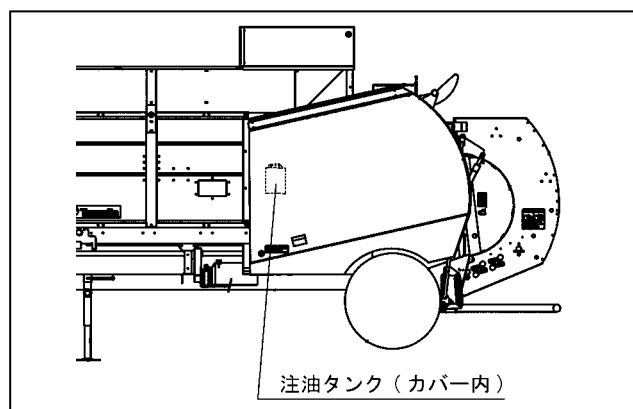
◆作業前に必ず注油してください。

タイトチェンに十分注油してください。

◆油の残量に注意

作業中は供給開始ごとに4秒間自動的に注油されます。

注油タンク内の油残量には、特に注意して、少なくなれば補給してください。



運転に必要な装置の取扱い

注意

注油タンクの油不足によりタイトチェンに注油されない状態で作業すると、動力負荷が急増してタイトチェンの摩耗が多くなり、寿命を低下させますので、無注油状態での使用は絶対に行わないでください。

◆作業前にはノズルの清掃を

行ってください

注油ノズル部にはゴミが付着することがあり、そのまま使用すると、チェンへ注油されないことがありますので、定期的に左右のノズル先端部に付着したゴミを清掃してください。

警告

点検・清掃は必ずエンジンを停止してから行ってください。
これを怠ると重大な傷害発生のおそれがあります。

3. タイトチェン注油絞り弁の取扱い

◆ベール成形を始める度に、自動で

4秒間タイトチェンに注油します

また、コントロールボックスの「注油」ボタンを1度押すことでタイトチェンに10秒間注油することができます。

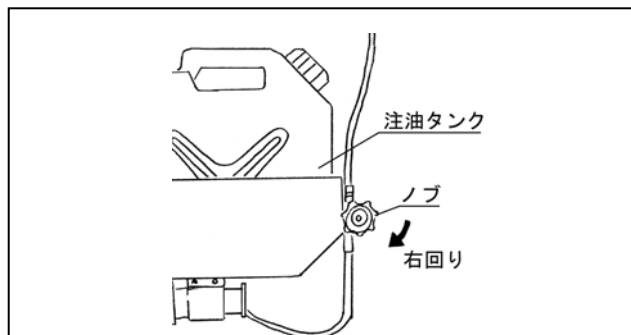
注油中は注油ランプが点滅します。

◆工場出荷時に調節していますので、

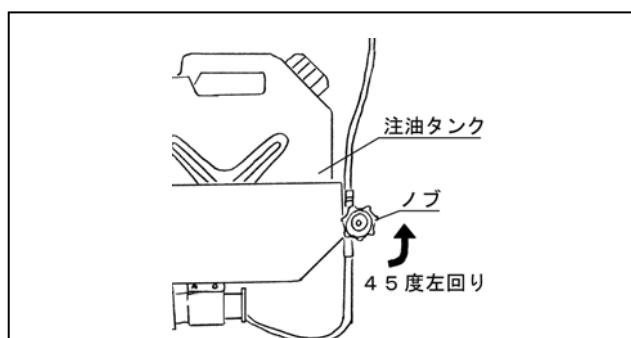
基本的に調節する必要はありません

誤ってダイヤルを回してしまったときは次の要領で調節してください。

①ノブを右回り(時計回り)に回らなくなるまでまわしてください。



②1/8回転(45度)左回り(反時計回り)にまわしてください。



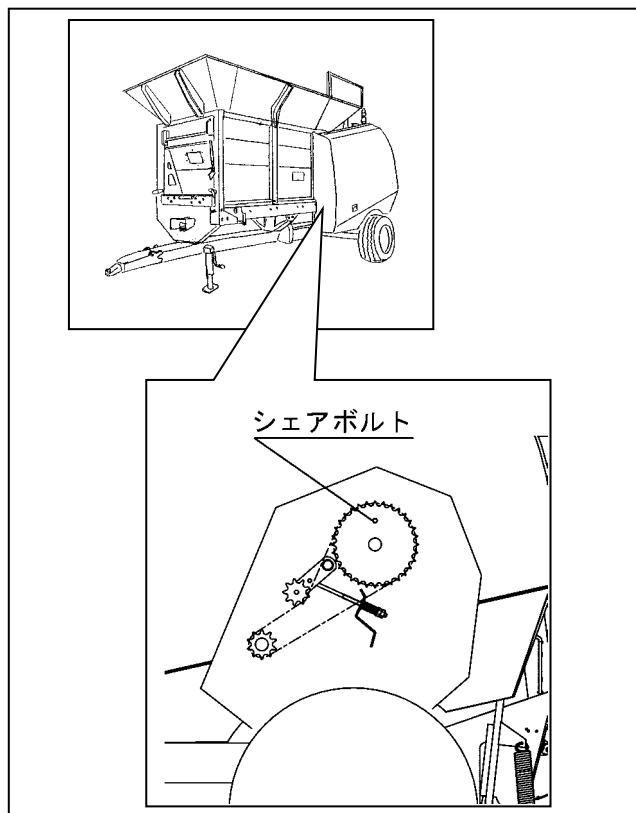
注意

- 注油タンクの容量は5Lです。空になる前に補給してください。
- 注油量は減らさないでください。タイトチェンの寿命を縮めます。

運転に必要な装置の取扱い

4. シェアボルトの交換

タイトチェーン駆動部に過負荷がかかったときにボルトが切断され、本体の破損を防止します。



シェアボルトのサイズは以下の通りです。

ボルト M8×40(8T・半ネジ)

ナット M8ナイロンナット

注意

シェアボルトは上記指定のボルト以外は絶対に使用しないでください。
機械破損の原因になります。

◆シェアボルトが切断されたら

過負荷になっている原因を取り除いてください。

◆ボルトが切断されたら

交換してください

切断されたボルトを除去して、ボルト穴を合わせてからシェアボルトとナイロンナットを確実に締め付けてください。

！ 注意

シェアボルトの交換を終え、再度作業を再開する時は、ゆっくりとPTOを入れてください。

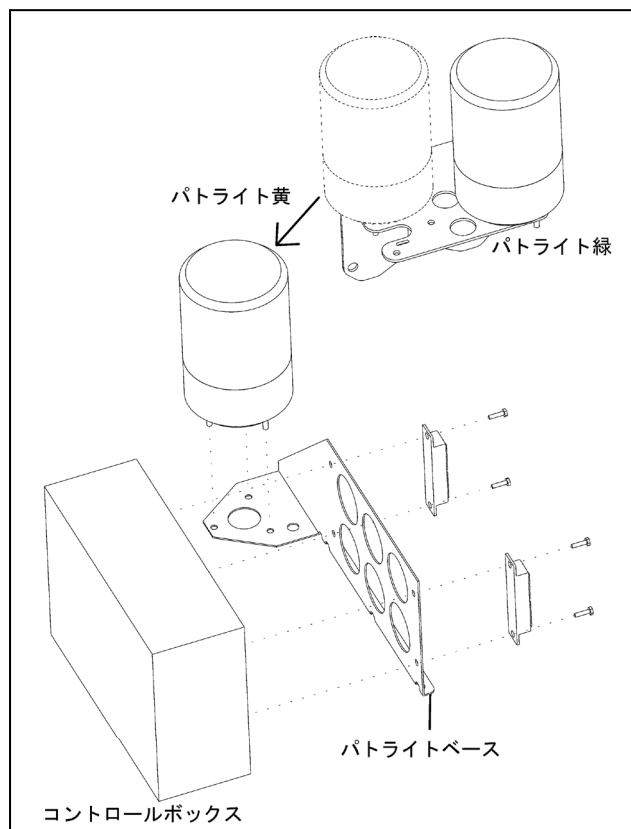
5. パトライト位置

◆材料を右側から投入する場合

パトライトが見やすい右側に受信機ベースごと移動してください。また、伴走作業を主として行う場合、別途パトライトベースをご購入いただくことで、コントロールボックスの横にパトライト黄を移設することが可能です。

パトライトベース 40120-9161-001

(下3桁は予告なく変更される場合があります)

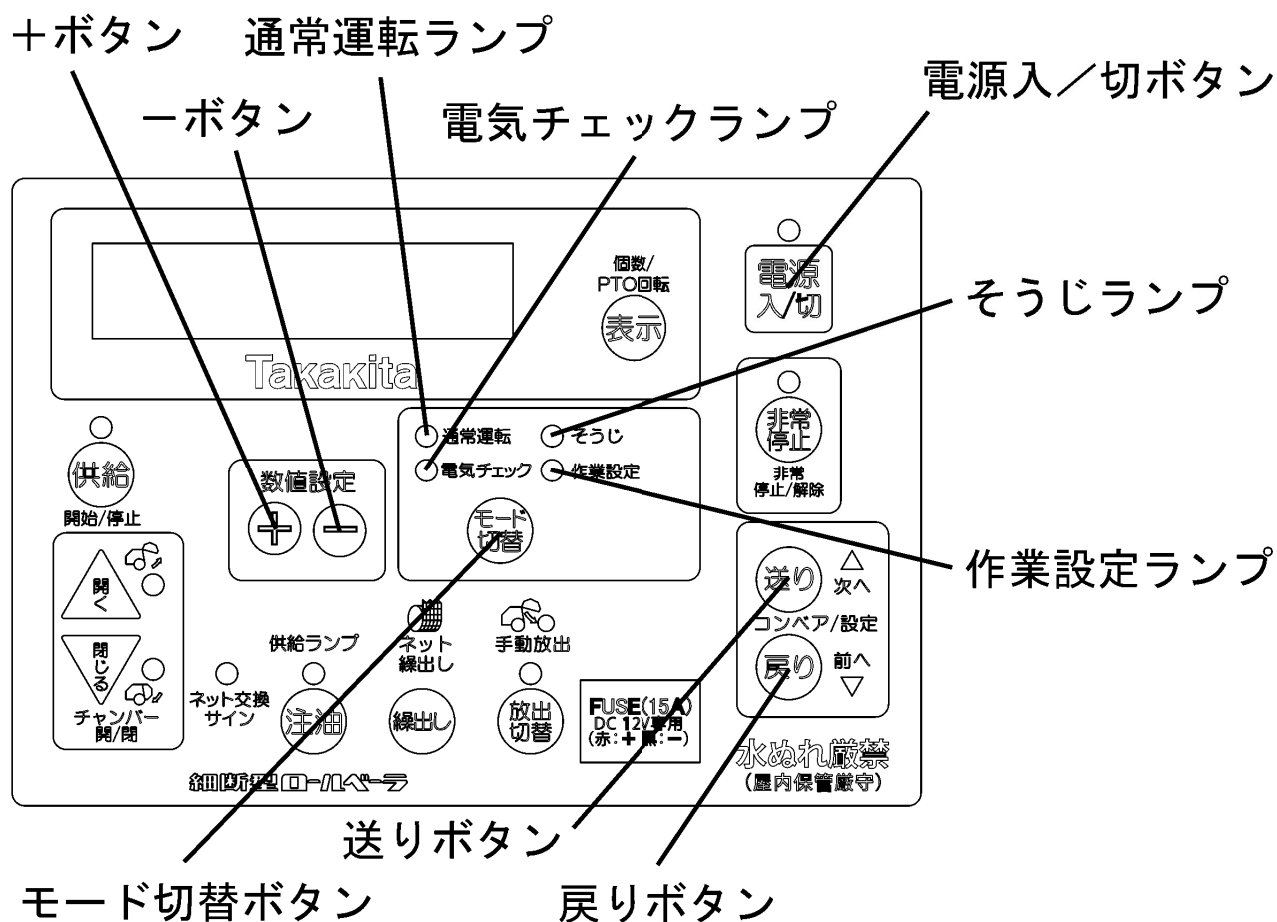


重要

パトライトを車両に設置した状態での公道走行は、法令で禁止されています。公道走行時はコネクタを外してパトライトを作業機から外し、トラクタ内に積んでください。

運転に必要な装置の取扱い

6. コントロールボックスの取扱い



◆通常運転

満了感知できませんので、作業中は必ず「通常運転ランプ」が点灯している状態にしてください。

◆そうじの使い方

ベルトコンベア・タイトチェンが回転したままチャンバーを開くことができます。

作業後の掃除をするときにご利用ください。(作業後の手入れと格納を参照 P 4 9)

運転に必要な装置の取扱い

◆作業設定の変更方法

作業設定を変更することができます。

「モード切替」ボタンを押して「作業設定ランプ」を点灯させてください。

以下のボタンで設定変更してください。

- ・「送り」ボタン：次の項目を表示
- ・「戻り」ボタン：前の項目を表示
- ・「+」ボタン、「-」ボタン：値を変更

設定変更が終わったら、「モード切替」ボタンを押して「通常運転ランプ」を点灯させてください。

No.	表示	初期値(設定範囲)	内容
1	ロールコスウ： ルイセキコスウ：	0コ (0, 現在のカウント) 変更不可	ベールコスウを0にすることができます。 メンテナンスの目安に利用してください。
2	ロールチョッケイ	85cm(85, 90)	ベールの径を選択します。
3	ネットリョウ	4. 5ソウ(4. 5～9. 9)	ネット巻付け数を設定できます。 ※ネット巻き付け数が少ないとベールが 崩れ易くなります。
4	フルオート	ON(ON,OFF)	ベールを放出した後、続けてベール 成形します。 ※ベールの放出はコントロールボックス の「放出切替」で設定してください。

運転に必要な装置の取扱い

◆電気チェック

各部のセンサの状態を表示することができます。メンテナンスにご利用ください。

「モード切替」ボタンを押して「電気チェックランプ」を点灯させてください。

以下のボタンで表示を切替えてください。

「送り」ボタン：次の項目を表示

「戻り」ボタン：前の項目を表示

設定変更が終わったら、「モード切替」ボタンを押して「通常運転ランプ」を点灯させてください。

No.	名称	説明
1	PTOカイテン デンゲンデンアツ	PTOセンサのON/OFFを表示 電源電圧を表示
2	マンリョウカンチPT チャンバーカイPT	満了感知ポテンシオメーターの電圧を表示 チャンバーポテンシオメーターの電圧を表示
3	カム1センサ カム2センサ	カム1センサのON/OFFを表示 カム2センサのON/OFFを表示
4	カウントセンサ ネットザンリョウセンサ	ネットカウントセンサ ネット残量センサ
5	キッカーセンサ チャンバーヘイセンサ	キッカーセンサ 本製品では使用しません
6	ネットホサキヒダリセンサ ネットホサキミギセンサ	ホサキ左センサ ホサキ右センサ
7	クラッチイリセンサ クラッチキリセンサ	クラッチ入センサ クラッチ切センサ
8	コンベアセンサ キョウキュウRSW	本製品では使用しません。 リモコンからの供給信号の ON/OFFを表示
9	ハウシュツRSW ヒジョウテイシRSW	リモコンからの放出信号の ON/OFFを表示 リモコンからの非常停止信号の ON/OFFを表示

運転に必要な装置の取扱い

◆メーカー設定

作業の詳細な設定を変更することができます。作業できなくなる可能性がありますので、設定を変更する場合は販売店にお問い合わせください。

「+」ボタン、「-」ボタンを押しながら、「電源入/切」ボタンを押して、コントロールボックスの電源を入れてください。

- ・「送り」ボタン：次の項目を表示
- ・「戻り」ボタン：前の項目を表示
- ・「+」ボタン、「-」ボタン：値を変更

設定変更が終わったら、「モード切替」ボタンを押して「通常運転ランプ」を点灯させてください。

No.	表示	初期値(設定範囲)	内容
1	カンチキヨリ φ 85	40mm(10～150)	φ 85ベール成形の満了位置を設定
2	カンチキヨリ φ 90	150mm(10～150)	φ 90ベール成形の満了位置を設定
3	ヨカンチキヨリ	10mm(10～)	予め満了を知らせる位置を設定
4	PTソクテイカンカク	0. 1s(0. 0～9. 9)	満了感知ポテンシオメーターの初期位置を測定する時間を設定
5	PTソクテイカンカク2	1. 0s(0. 0～9. 9)	満了感知ポテンシオメーターの満了位置を測定する時間を設定
6	サイテイデンアツ	1. 00V(0. 00～2. 00)	満了感知ポテンシオメーターの測定範囲外を設定
7	サイダイデンアツ	4. 00V(3. 00～5. 00)	
8	カンリヨウブザー	0. 5s(0. 0～9. 9)	ネット巻き終了ブザーが鳴る時間を設定
9	チャンバーカクニン	2. 0s(0. 0～9. 9)	チャンバーが閉まったことを確認する時間を設定
10	カウントエラージカン	5. 0s(0. 0～9. 9)	ネットエラーになる時間を設定
11	センサエラージカン	10s(0～99)	各センサがエラーになる時間を設定
12	クラッチマチジカン	5s(0～99)	クラッチ接続エラーになる時間を設定
13	ホサキセンサチェン	0. 5s(0～9. 9)	ホサキセンサの反応時間設定
14	ジドウチュウユ	4. 0s(0～99. 9)	自動で注油する時間を設定
15	シュドウチュウユ	10s(0～99)	手動で注油する時間を設定
16	マンリヨウカンチホーン	2. 0s(0. 0～9. 9)	ネット巻き開始ブザーが鳴る時間を設定
17	コンベアオクレ	1. 5s(0. 0～9. 9)	ネット巻き開始時、コンベアが動作する時間
18	ネットカウント	0. 314m(0. 000～9. 999)	カウントローラの周長を設定
19	ロールケイ φ 85	0. 850m(0. 00～9. 99)	φ 85ベールの直径を設定(ネット)

運転に必要な装置の取扱い

No.	表示	初期値(設定範囲)	内容
20	ロールケイφ90	0.900m(0.00～9.99)	φ90ベールの直径を設定(ネット)
21	バックアップモード	OFF(ON,OFF)	ネットカウントセンサを使用せずに、タイマーでネット巻きする。
22	バックアップ クリダシ	5s(0～9)	21のとき、ネットを繰り出す時間
23	バックアップ ケツソク	10(0～99)	21のとき、ネットで結束する時間
24	キッカーセンサ	ON(ON,OFF)	キッカーセンサの有効・無効を設定
25	デンアツケイコク	10.0V(0.00～5.00)	電圧降下エラーになる電圧を設定
26	カタマキチェック	ON(ON,OFF)	ネットの片巻きチェックの有効・無効を設定
27	クラッチデンアツ	－V(0.00～5.00)	ベール放出時、クラッチを切る電圧を設定
28	ゼンカイデンアツ	－V(0.00～5.00)	全開になる電圧を設定
29	ゼンヘイデンアツ	－V(0.00～5.00)	全閉になる電圧を設定
30	ネットケツソク ヨブン	0.20m(0.00～9.99)	ネット巻き誤差を設定
31	クリダシリョウ	1.0ソウ(1.0～9.9)	ネットを繰り出す量を設定
32	PTOセンサ	ON(ON,OFF)	PTO センサの有効・無効を設定
33	カンチジカン	0.2s(0.0～9.9)	満了位置を越えて感知になるまでの時間を設定
34	ネットクリダシ オクレ	0.5s(0.0～9.9)	供給が停止してからネット繰り出しを始めるまでの時間
35	デンアツエラー ジカン	1.0s(0.0～9.9)	設定電圧以下になりエラーになる時間を設定

運転に必要な装置の取扱い

7. 使用できるネット

ネットの種類によりトラブルが起こることがありますので、必ず指定ネットを使用してください。

ネット(別売品)は当社で販売しております。

・ネットの幅寸法

ネットの幅寸法を確認してください。
下記のネットしか使用できません。

1. 03m幅ネット (タカキタ指定のみ)

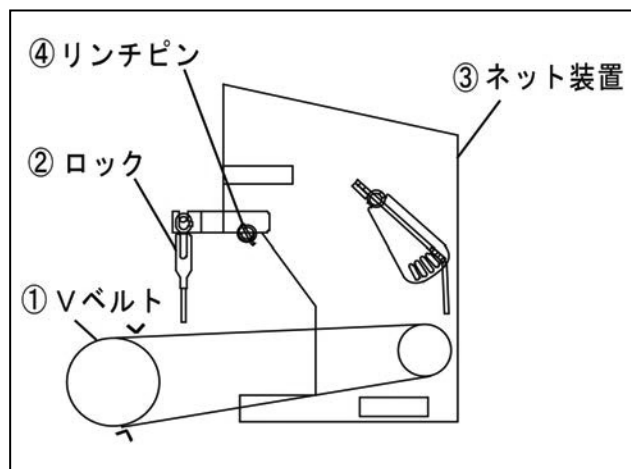
1. 23m幅ネット (タカキタ指定のみ)

タカキタ指定ネットは、ネットの芯がネットブレーキ装置に適した硬い紙筒を使用しています。

8. ネット装置の取扱い

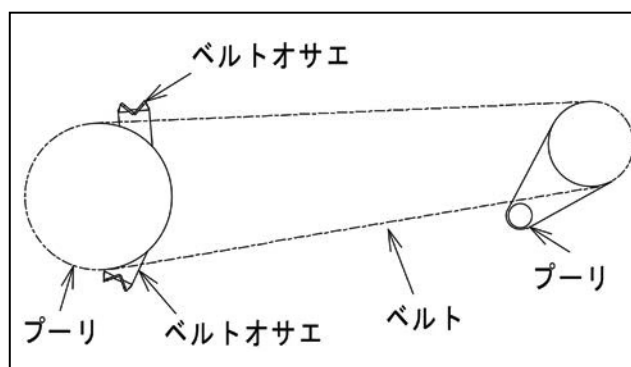
◆ネット装置の引き出しかた

1. ①Vベルトを外してください。
2. ②ロックを外してください。
3. ③ネット装置を手前に引き出して
ください。
4. ネット装置を戻す場合は、逆の
手順で戻してください。ネット
装置を反対側に引き出す場合は、
④リンチピンを外し、反対側から
引き出してください。



◆ベルトの取付けかた

ベルトの取り付けかたは次のように
行ってください。



運転に必要な装置の取扱い

9. ネットの通し方

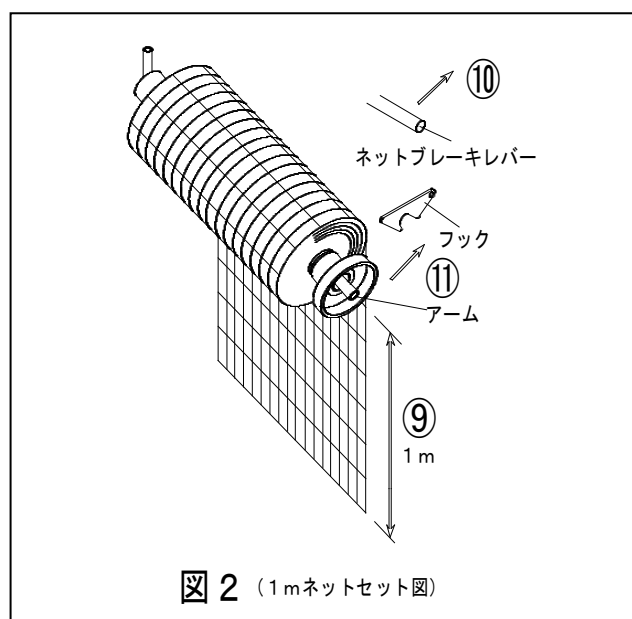
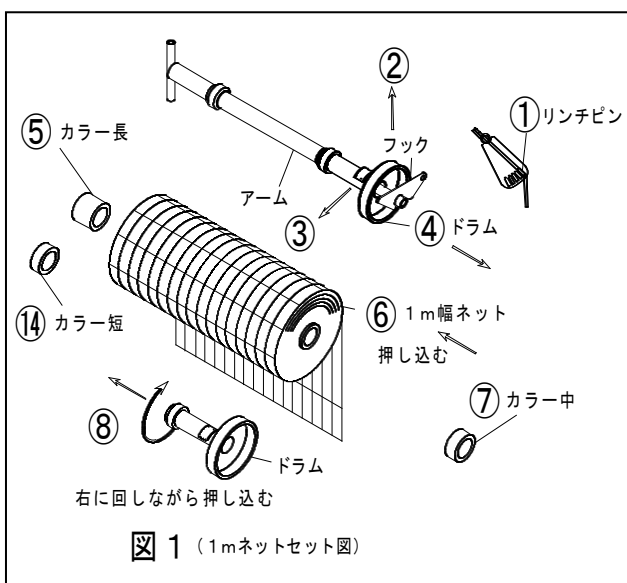
使用可能なネットは1m幅

および1.2m幅です

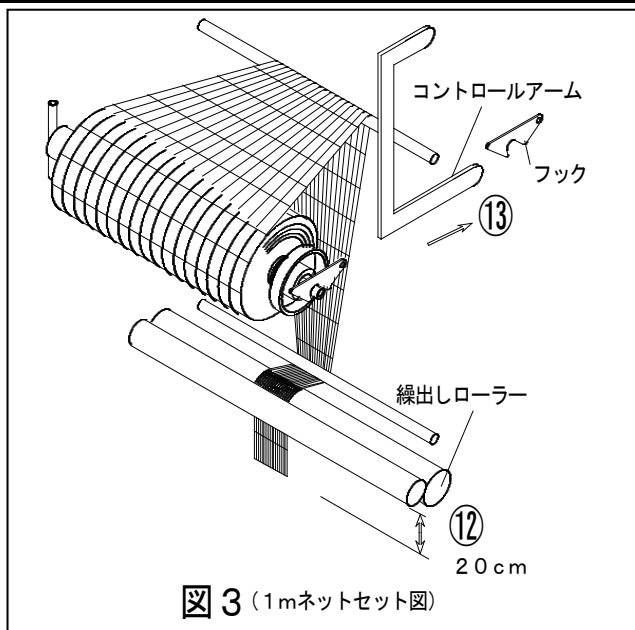
1. 本機左側のカバーを開けてください。
2. ①リンチピンを外して、ブレーキを解除してください。
3. フックを②方向に持ち上げ、アームを③方向に引き出し、④ドラムを矢印の方向(手前)に抜き出してください。
4. アームに⑤カラー長を入れてください。
(1.2m幅のネットの場合は⑭カラー短を入れてください)
5. アームに⑥ネットを巻き方向に注意し図1のように差し込んでください。
6. ドラムに⑦カラー中を奥まで入れてください。
(1.2m幅ネットの場合は不要です)
7. アームにドラムを⑧右に回しながら押し込んでください。
8. ネットを図2のように⑨1m程度引き出してください。
9. 図2のようにネットブレーキレバーを⑩解除方向へ押しながら、⑪アームを戻し、フックで固定してください。
10. ネットを束にして図3のように通してください。
11. 繰出しローラを回してネットのたるみを無くしてください。
12. 繰出しローラから⑫20cm程度ネットが出る状態になっていることを確認してください。

⚠ 注意

- ・ローラの後ろに切断用のナイフがあります。ネットを通すときはコントロールアームを⑬の方向に押し上げ、フックにコントロールアームを引っかけてください。
- ・ネットの種類によりトラブルが出ることがありますので、必ずタカキタ指定のネットを使用してください。



運転に必要な装置の取扱い



10. ブレーキの調整方法

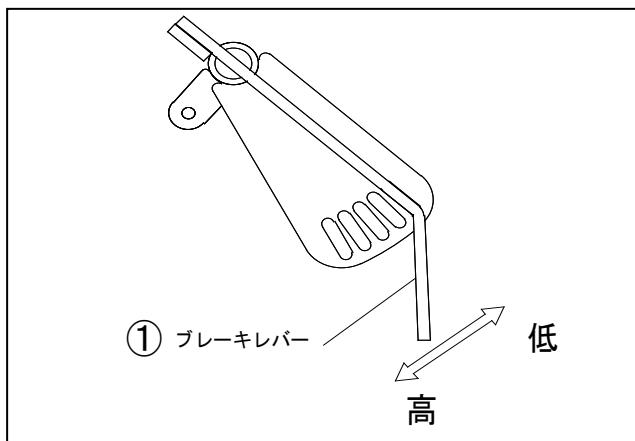
1. ①ブレーキレバーでネット張力を調整してください。

・ ネットが切れる場合

…低位置に設定してください。

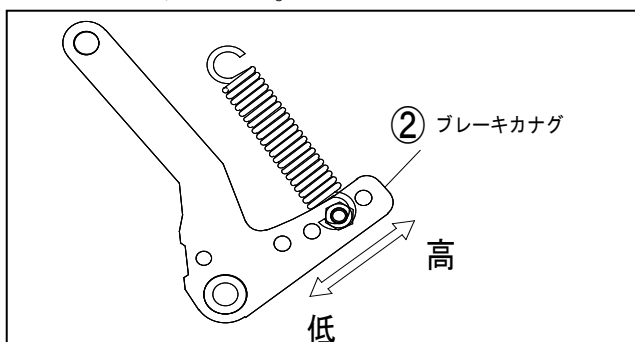
・ ネット結束が弱い場合

…高位置に設定してください。



2. ブレーキレバーで調整しきれない場合、

②ブレーキカナグのバネの位置を変更してください。



11. ネット装置の作業前点検

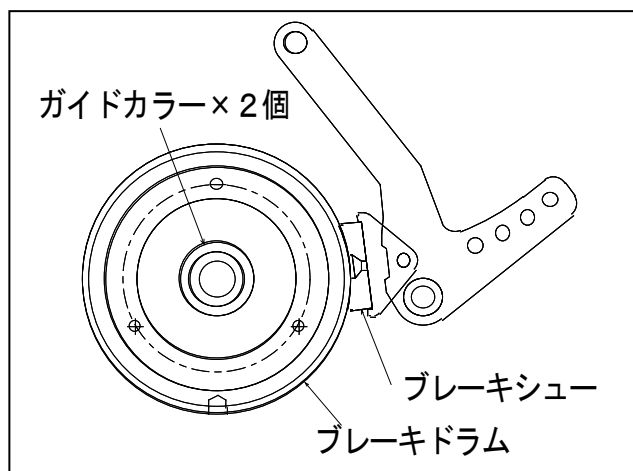
◆ブレーキドラムが錆びているときは、ブレーキレバーを低い位置で始めてください。その後、錆が落ちてからブレーキレバーを適正な位置に移動してください。

◆ブレーキシューの面にゴミが付着していると、適正なネット結束ができなくなります。ネットを交換するときは、必ずゴミが付着していないか確認してください。

また、ブレーキシューは消耗部品です。ブレーキシューが減るとネット結束不足が起こります。前項の「ブレーキ調整方法」でブレーキ調整しても調整できなくなってきた場合は、ブレーキシューを交換してください。

◆ガイドカラーは消耗品です。

ガイドカラーの内径が削れるとネット結束不足が起こります。前項の「ブレーキ調整方法」でブレーキ調整しても調整できなくなってきた場合は、カラーを交換してください。

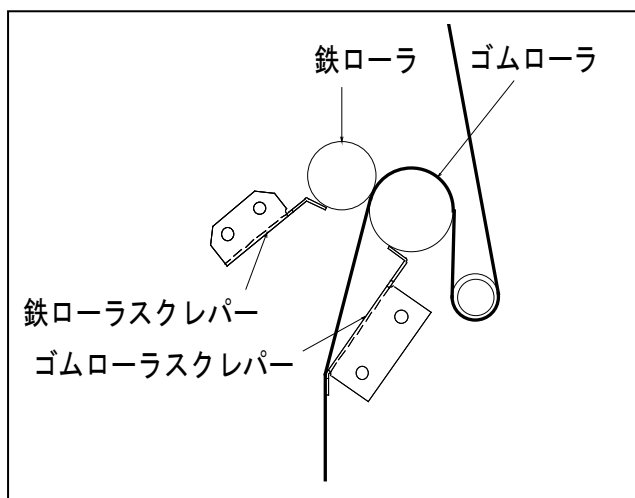


運転に必要な装置の取扱い

- ◆ゴムローラと鉄ローラにゴミが付着すると、ネット繰り出し時ローラに巻き付きます。付着しているゴミはマイナスドライバーなどで削り落としてください。
※ゴムローラに傷が付き、巻き付きの原因になるので、カッターナイフは使用しないでください。

- ◆朝露や材料の水蒸気でローラが濡れている場合は、濡れタオルで粘り気を拭き取った後、乾いたタオルでも拭いてください。

- ◆ゴムローラスクレーパ上に材料が付着すると、ネット繰り出し時ローラに巻き付きます。材料が付着している場合は、濡れタオルで材料を拭き取った後、乾いたタオルでも拭いてください。

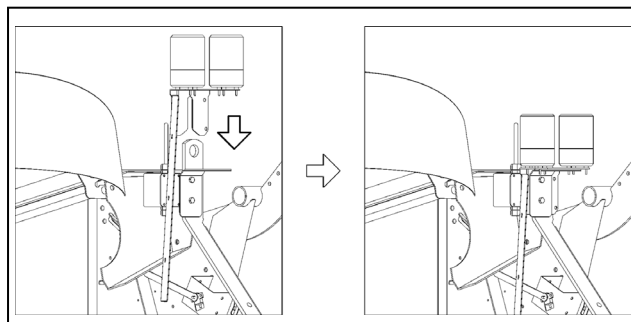


12. 使用時にこれだけは守りましょう

- ・ナイフの刃こぼれがある場合は、研磨するか交換してください。
- ・ネットは紙筒を使用しているため、水濡れ厳禁です。
また、作業機を屋外保管する場所は、ネットは取り外して屋内で保管してください。

13. パトライトの着脱方法

1. 次のようにパトライトベースを本機に差し込みます。



2. コネクタを接続します。

緑色のテープが巻かれた線がパトライト(緑)、テープが巻かれていない線がパトライト(黄)につながります。

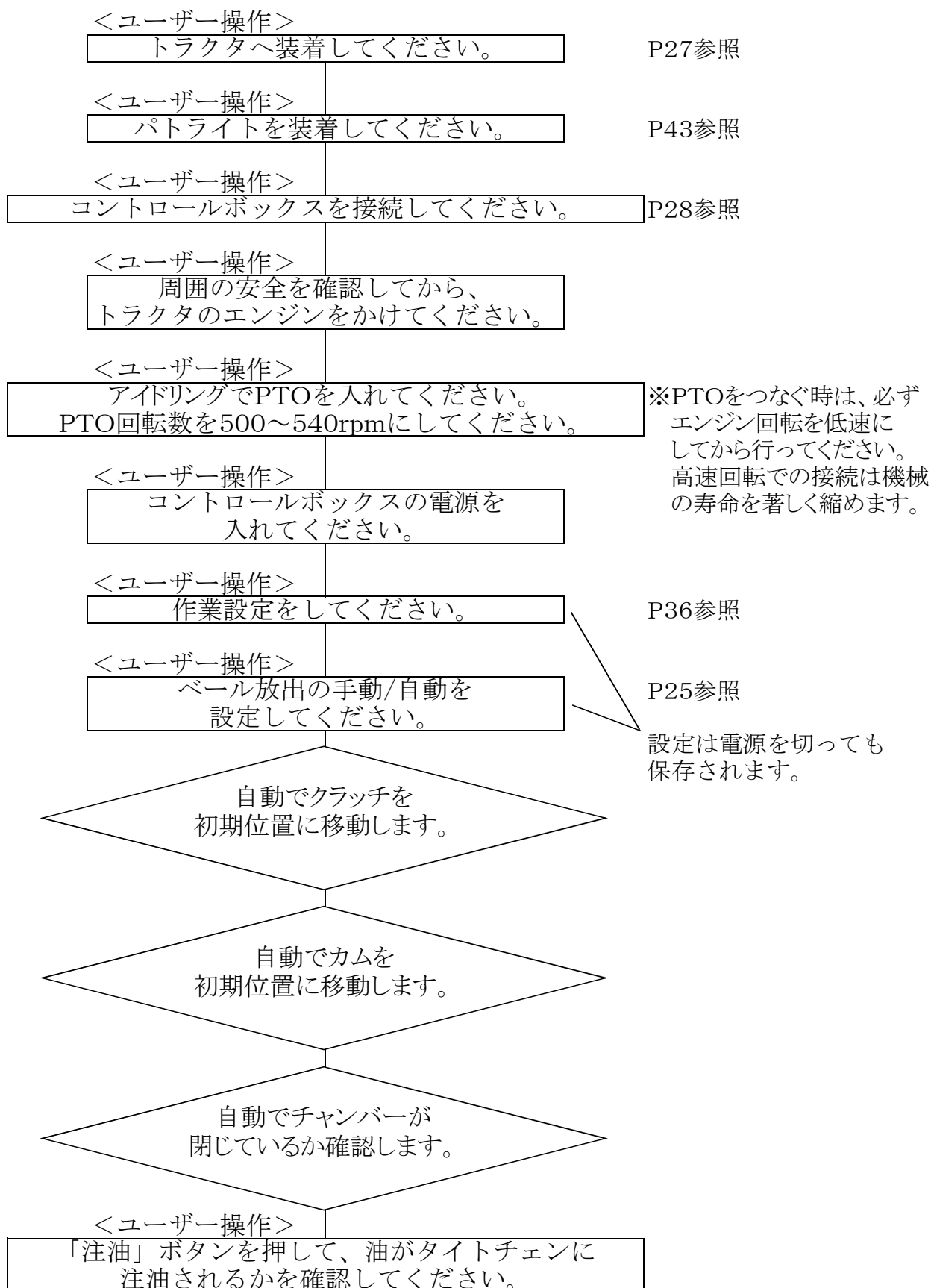
重要

パトライトを車両に設置した状態での公道走行は、法令で禁止されています。公道走行時は、コネクタを外してパトライトを作業機から外し、トラクタ内に積んでください。

作業方法

1. 作業前準備の流れ

- ネットを取り付けてください。
- 各部の給油・グリスアップを行ってください。
- 注油タンクにオイルを補充してください。



作業方法

2. 作業の流れ

マキ:4.5 フルオート:ON ロール:85	緑 消灯	黄 消灯
------------------------------	---------	---------

<ユーザー操作>

コントロールボックスまたは
リモコンの「供給」ボタンを押してください。

クラッチが接続され、材料が成形室に送られます。

30 マンリョウゲージ 40	緑 点灯	黄 消灯
---	---------	---------

成形室が満了近くになるとブザーが
断続音で鳴ります。

※ネットエラーになった場合

ネットヲコウカンシ、ネットクリダ シスイッチヲオシテクダサイ	緑	黄
もしくは ネットガカタマキニナッテイマス ローラヲソウジシテクダサイ		
	消灯	点滅

<ユーザー操作>

PTOを切りエンジンを停止してください。
ネットが無くなった・・・ネットを交換 P40参照
ローラに巻き付いた・・・巻き付きを解く
ネットがちぎれた・・・ブレーキを低位置 P42参照

<ユーザー操作>

エンジンをかけPTOを入れてください。
(500～540rpm)

<ユーザー操作>

コントロールボックスの「繰出し」ボタンを
押してください。

成形室が満了になるとブザーとホーンが
連続音で鳴ります。

0.5 ソウ ネットクリダシ 1.0 ソウ チュウ	緑 消灯	黄 点灯
--	---------	---------

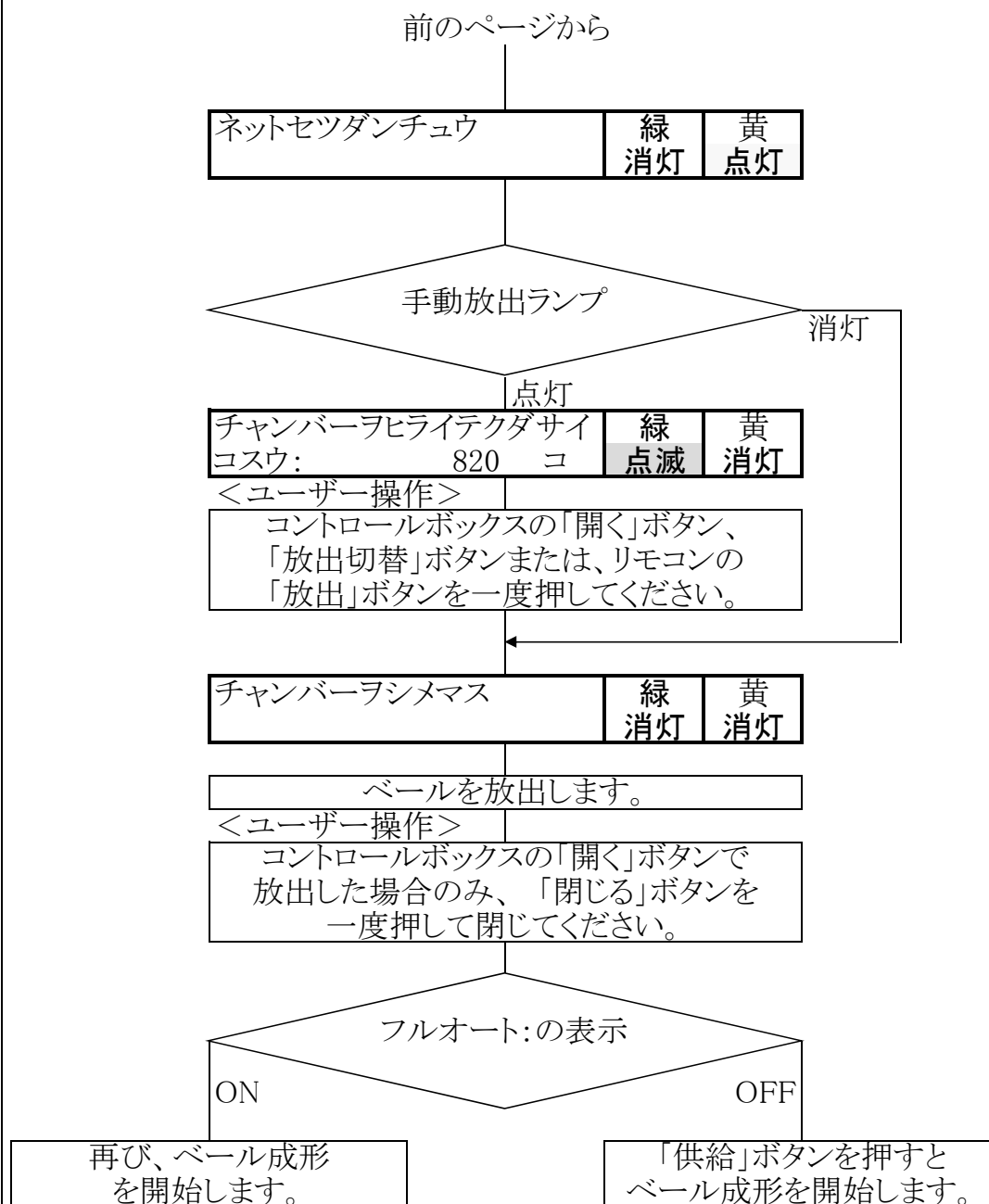
ブレーキを解除して、ネットを繰り出します。

2.5 ソウ ネットケツソク 4.5 ソウ チュウ	緑 消灯	黄 点灯
--	---------	---------

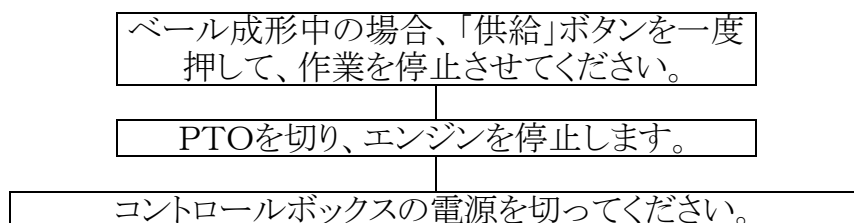
ブレーキをかけ、ネットを結束します。

次のページへ

作業方法



3. 作業後の流れ

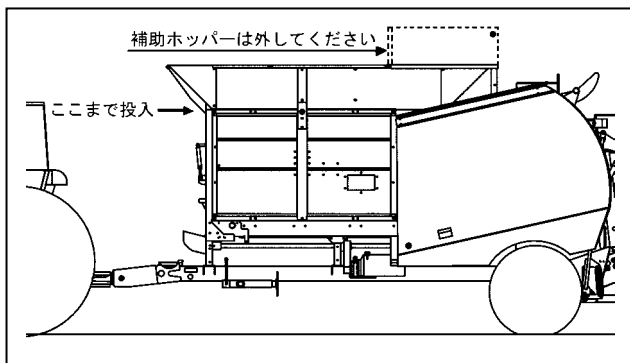


作業方法

4. 定置作業手順

作業前の準備

- トラクタドローバへ作業機を接続してください。
- ユニバーサルジョイントを接続してください。
- 補助ホッパーは外してください。
(機体の左右から投入できるようになります。)
- コントロールボックスを接続してください。
- ホッパー内へローダ等で収穫物を投入してください。



5. 伴走作業手順

作業前の準備

- トラクタドローバへ作業機を接続してください。
- ユニバーサルジョイントを接続してください。
- 補助ホッパーを取り付けてください。
(ホッパーからのふきこぼれが低減できます。)
- コントロールボックスを接続してください。

6. ワンマン作業手順

作業前の準備

- トラクタへコーンハーベスタを接続してコーンハーベスタのヒッチに本機を接続してください。
- ユニバーサルジョイントを接続してください。
- コントロールボックスを接続してください。
- 補助ホッパーを取り付けてください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。



警告

- 取り外したカバー類は必ず取り付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 点検・整備をするときはPTOを切り、エンジンを停止し、回転が止まってから行ってください。

点検一覧表

No.	項 目	内 容	参照ページ	チェック
1	コントロールボックス電源	電源ランプ点灯確認	24、28	
2	タイトバーの緩み	増し締め	—	
3	油圧動作確認	コントロールボックスで操作	24	
4	コントロールボックスの動作確認		24	
5	側面駆動チェーンの張り調整	テンションボルト調整等	68～70	
6	ユニバーサルジョイントの接続確認		27～28	
7	タイヤ	空気圧不足のときは空気補充	65	
8	パッケージ給油	油圧オイル補充	66	
9	タイトチェーン自動給油	ギヤオイルまたはマシーンオイル補充	53～54	
10	その他各部注油・グリス	各部への給油参照	55～58	

点 検 メ モ

作業後の手入れと格納について

⚠ 危険

- トラクタのエンジン回転中やエンジンが熱い間は、燃料を抜いたり、注油・給油を絶対にしないでください。燃料などに引火して、火災の原因になります。
- トラクタに燃料補給や燃料を抜くときは、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こすおそれがあります。
- トラクタに燃料補給や燃料を抜いた後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。
- トラクタのエンジンが熱い間は、シートなどを絶対にかけないでください。火災の原因になります。
- 油圧パッケージが熱い間は、オイルを抜いたり給油を絶対にしないでください。オイルなどに引火して、火災やヤケドの原因になります。

⚠ 警告

- 点検・整備をするときは、必ずトラクタのエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。機械に巻き込まれてケガをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、平坦で安定した場所で行ってください。本機が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。

1. 機体の洗浄のしかた

作業終了後、本機を水洗いし、水洗い後は下記に従って掃除を行ってください。

- 回転部に巻き付いているゴミを取り除く。
- 水分をよく拭き取る。
- 油をしみこませた布で清掃する。
- 刈刃の先端など錆びやすい所にグリスを塗る。
- チェン・ワイヤ類、および回転部に注油する。(P53～55参照)
- ベアリング等へのグリスアップ。(P56～58参照)

重 要

水洗いをするときは、センサ・スイッチ等の電装品に水をかけないでください。故障の原因になります。

作業後の手入れと格納について

2. 各部の掃除のしかた

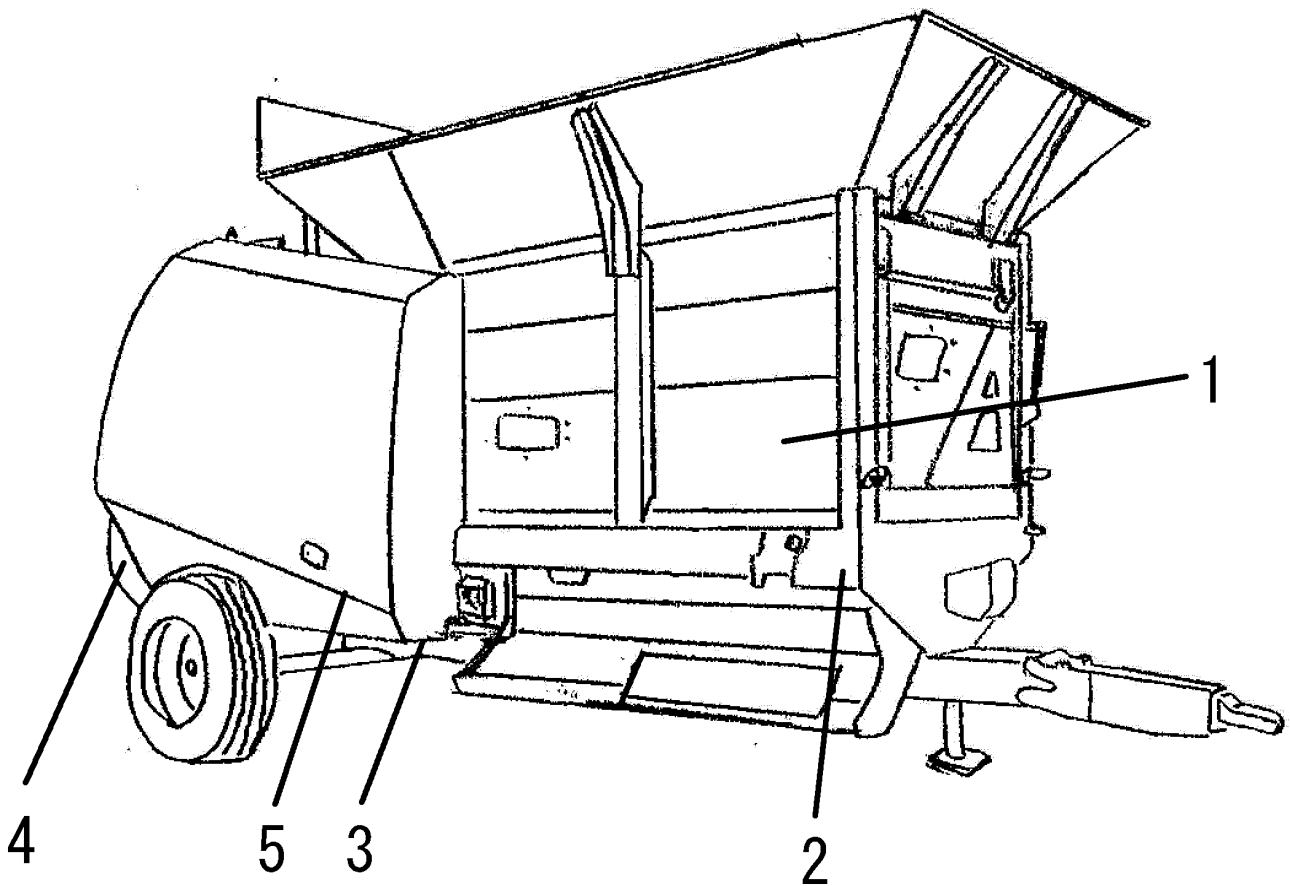
⚠ 警告

- 掃除をするときは、必ずトラクタのエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- トラクタのエンジンをかけたまま手入れをすると、回転刃や刈刃などに手をはさまれ、ケガをするおそれがあります。

参考

掃除をした後は、取り外したカバーやオープンした箇所を元に戻してください。

作成するベールの品質低下と異品種の混種を防ぐために、ホッパーおよびベール内の残留物を取り除き、各部をきれいに掃除してください。



1. ホッパー内の掃除

3. コンベア下部の掃除

5. 油圧モータ周辺の掃除

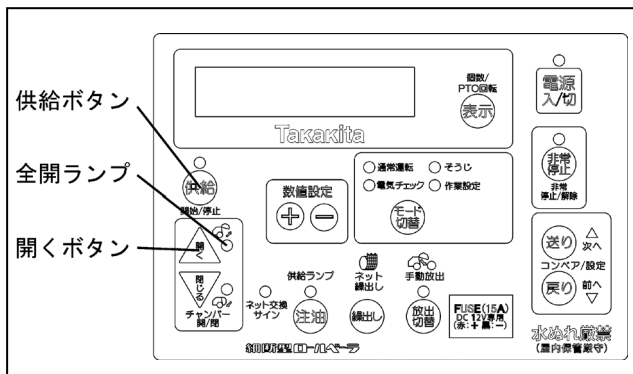
2. 床コンベア前部の掃除

4. リヤチャンバー内の掃除

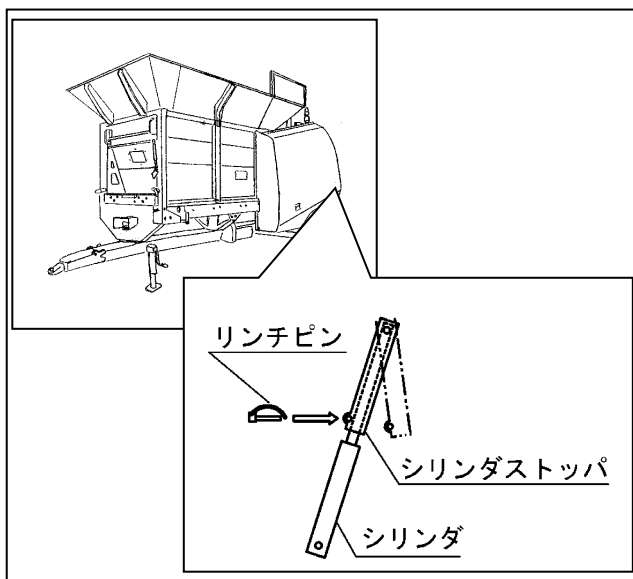
作業後の手入れと格納について

3. ホッパー内の掃除

1. トラクタのエンジンをかけ、PTOをつないでください。
2. コントロールボックスの「供給」ボタンを一度押し、床コンベア・タイトバーを駆動してください。

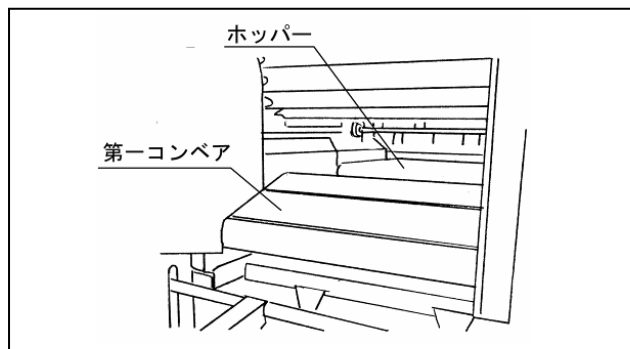


3. ホッパー内の残留物が成形室に全て搬送されるのを確認できたら、再度「供給」ボタンを一度押し、床コンベア・タイトバーの駆動を止めてください。
4. コントロールボックスのチャンバー「開く」ボタンをチャンバー「全開ランプ」が点灯するまで押し続け、リヤチャンバーが全開になりましたらシリンダロックをしてください。



5. トラクタのPTOを切り、エンジンを停止してください。

6. ホッパー内・第一コンベアに残っている残留物をほうき等のかき出してください。



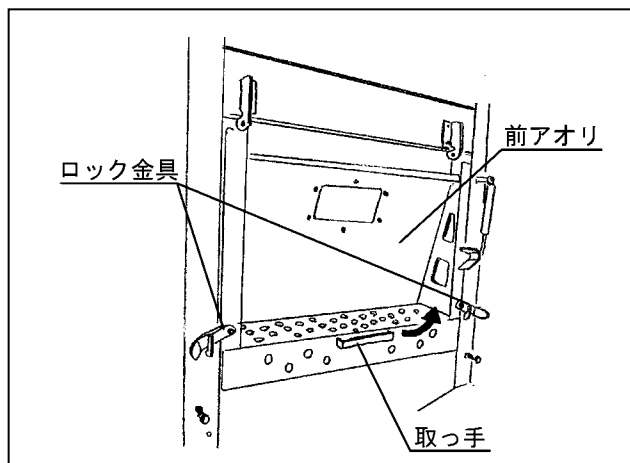
注意

コンベアを掃除する場合には、先端が鋭利なものは使用しないでください。コンベアを破損する原因になります。

7. ホッパー内に残留物がある場合は、前アオリを開け、ほうき等のかき出してください。

注意

前アオリの開閉は必ず前アオリの取っ手を持って開閉してください。その他の部分を持って開閉すると、手を挟むおそれがあります。

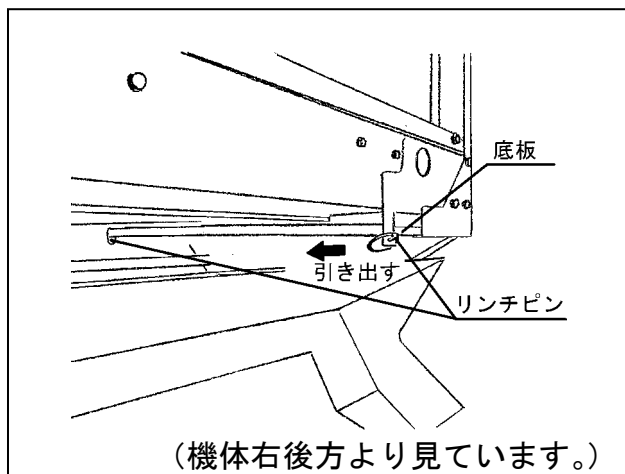


8. 掃除が終了しましたら、4のリヤチャンバー内の掃除を行ってください。

作業後の手入れと格納について

4. 床コンベア前部の掃除

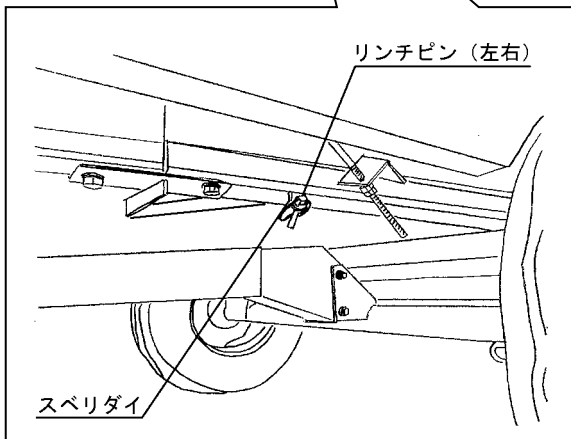
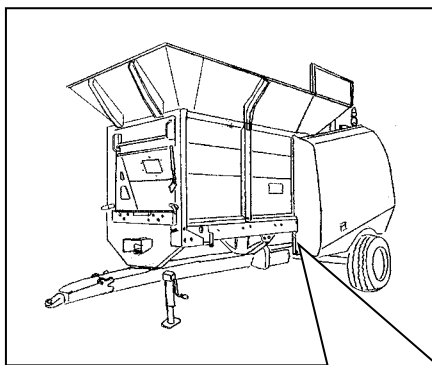
1. 左右のリンチピンを外し、底板を機体後方に引き出してから取り外し、溜まった残留物を取り除いてください。



2. 残留物を取り除いた後、底板は元通りに組み付け、リンチピンで固定してください。

5. コンベア下部の掃除

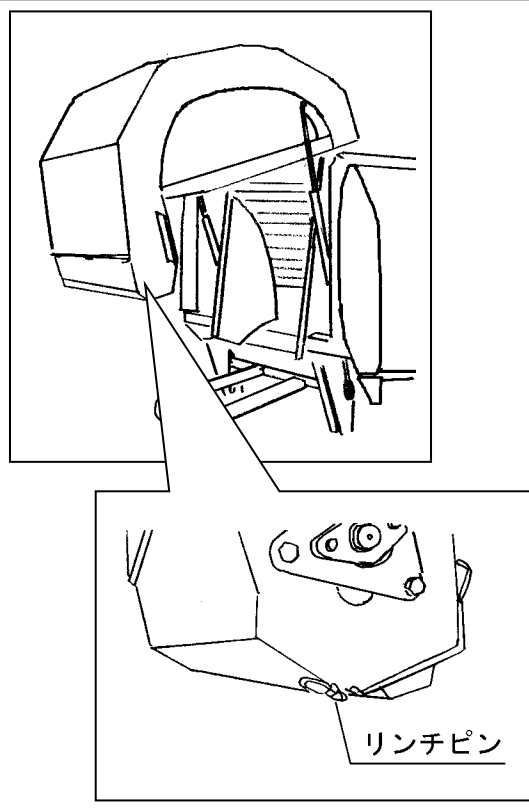
1. 左右のリンチピンを外し、スベリダイを開けて、残留物を取り除いてください。



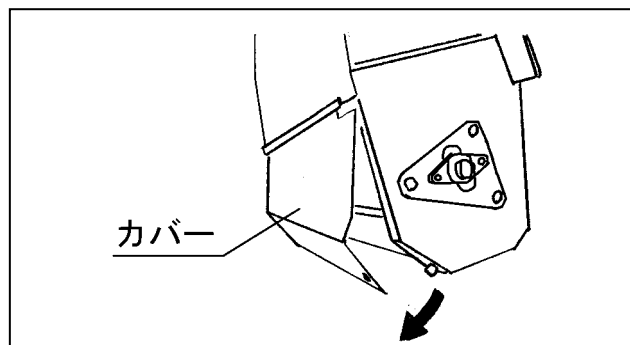
2. 残留物を取り除いた後は、スベリダイをリンチピンで元の位置に固定してください。

6. リヤチャンバー内の掃除

1. リヤチャンバーが開いていない場合は、前頁の3のホッパー内の掃除を参照し、リヤチャンバーを開けてロックしてください。
2. リヤチャンバー折返し部の左右のリンチピンを取り外してください。



3. カバーを開け、中に溜まった残留物を取り除いてください。

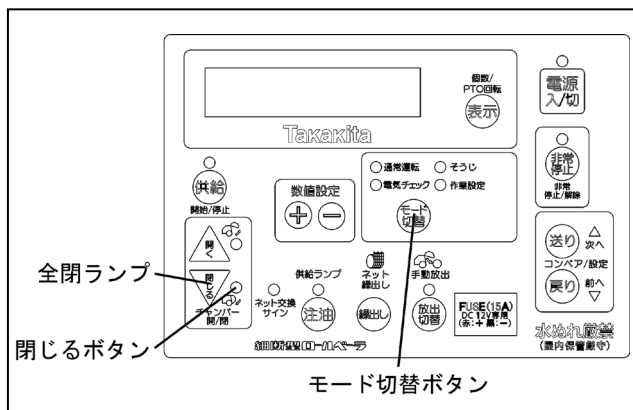


作業後の手入れと格納について

注意

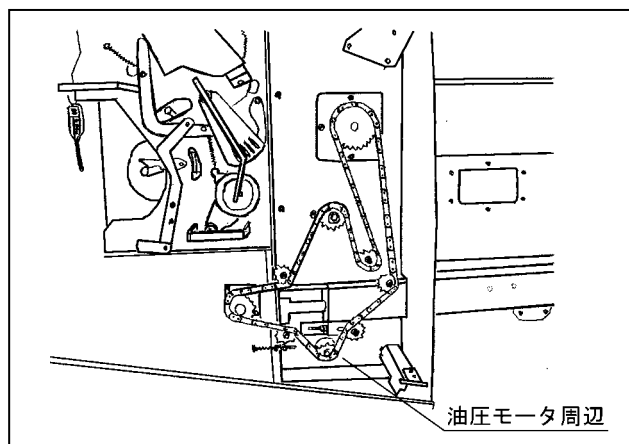
掃除しないまま放置すると、残留した作物が腐敗し、雑菌がベールに混入してサイレージの品質を劣化させるおそれがあります。

4. トラクタのエンジンをかけ、アイドル
ングでPTOをつないでください。
5. 「モード切替」ボタンを押して「そうじラ
ンプ」を点灯させてください。
10秒後にクラッチが接続されます。
※クラッチ接続中は危険ですので、
近づかないでください。
6. タイトチェンから残留物が落ちなくな
ったら、「モード切替」ボタンを押して
「通常作業ランプ」を点灯させてくだ
さい。
7. PTOを切り、エンジンを停止してくだ
さい。
8. 掃除が終わりましたら、リンチピンで
カバーを固定し、シリンダロックを外し
てください。
9. コントロールボックスのチャンバー「閉じ
る」ボタンを「全閉ランプ」が点灯するまで
押し続け、リヤチャンバーを閉じてくだ
さい。



7. 油圧モータ周辺の掃除

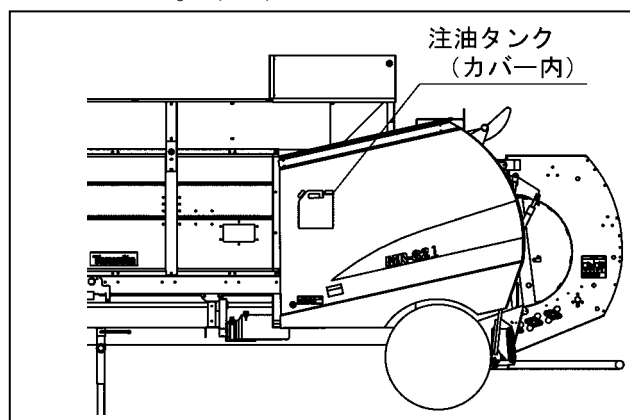
本機右側のカバーを開け、油圧モータ周辺にたまった塵等を取り除いてください。



8. タイトチェーンの注油

必ず毎回行ってください。

1. 注油タンクにオイルを入れてください。
オイルはエンジンオイルSAE5W-30
または、10W-30を使用してくだ
さい。(5L)



注意

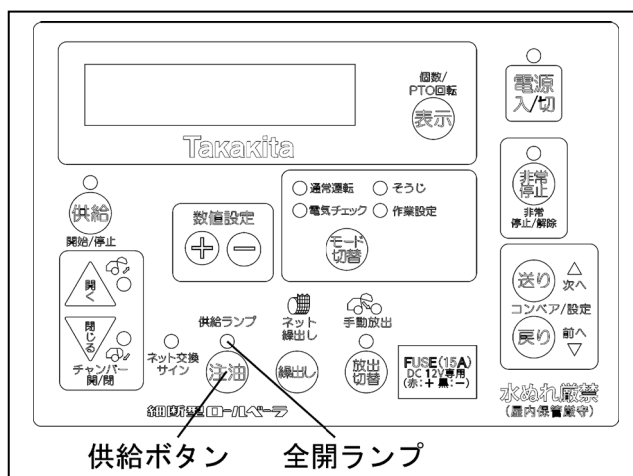
- 無給油で運転するとタイトチェンの寿命を縮めますので、必ず給油してください。
- チェンの注油ポンプは自給式を採用していますので、タンク内が空になった際もオイルを供給すれば、エア抜きなしでタイトチェンに注油できます。
- コントロールボックスの注油スイッチを押してオイルの吸い込みを確認してください。

作業後の手入れと格納について

- 粘度の高いオイルはモータの故障の原因になりますので、使用しないでください。
- 給油前に、給油ノズル先端のゴミを取り除いてください。

2. トラクタのエンジンをかけて、アイドリングでPTOをつないでください。

3. 注油ボタンを1度押して、タイトチェンに注油してください。(注油ボタンは1度押すと10秒間注油され、注油中は供給ランプが点滅します。)



7. タイトチェンは1周するのに約20秒かかります。搬送ランプの点滅が終わりましたら、もう1度注油ボタンを押してください。

8. 注油ができましたら、トラクタのPTOを切り、エンジンを停止してください。

作業後の手入れと格納について

(自動注油部以外)

必ず毎回行ってください。

⚠ 注意

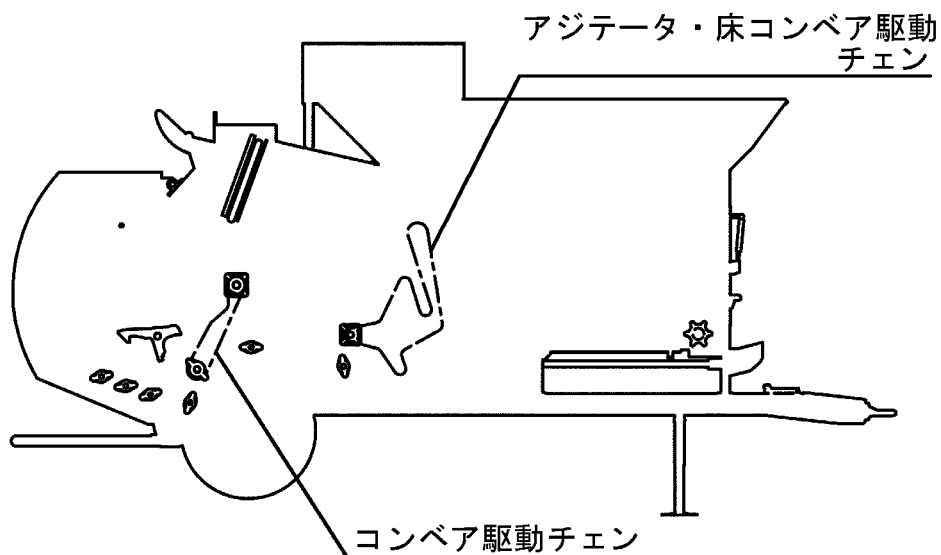
注油するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
守らないと、ケガをするおそれがあります。

参考

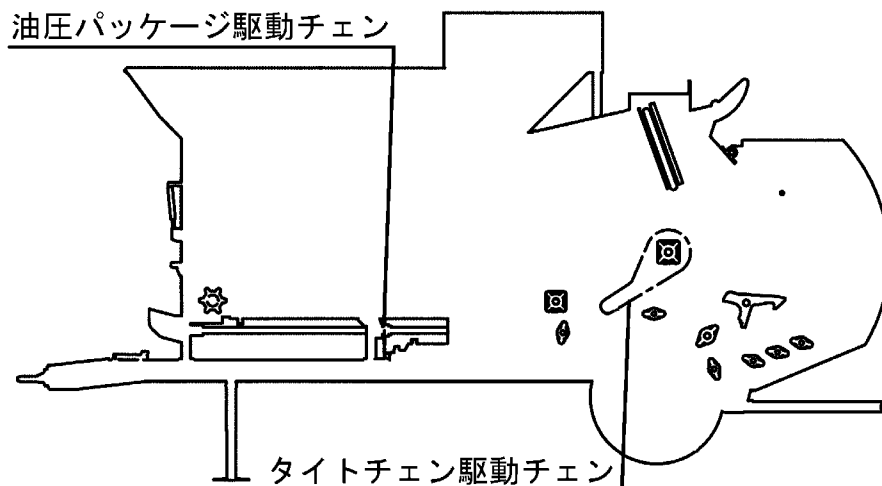
低温時（5℃以下）には、オイルの一部が固くなり、分離しているような状態になることがあります。分離しているときは、常温に戻してから使用してください。

9. 各部のチェーンへの注油

(右側)



(左側)

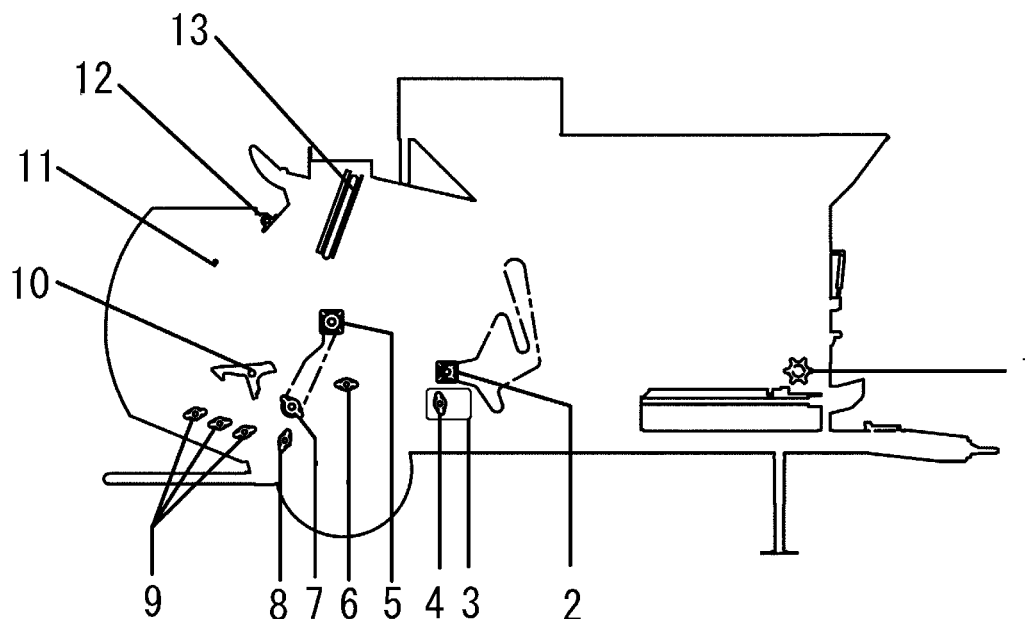


作業後の手入れと格納について

10. 各部のグリスアップのしかた

実施時期は50時間毎です。

(右側)

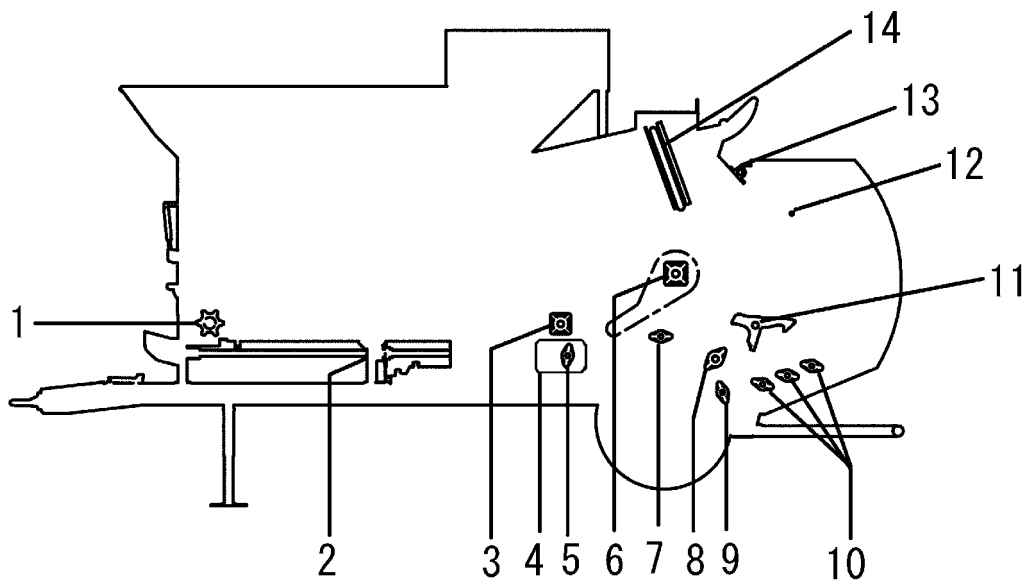


- 1. 床コンベアテンションスプロケット
- 2. 床コンベア駆動軸ベアリング
- 3. コンベアテンションスライド部
- 4. コンベアテンションベアリング
- 5. タイトチェーン駆動軸ベアリング
- 6. コンベアベアリング
- 7. コンベア駆動軸ベアリング
- 8. タイトチェーン折返し部ベアリング
- 9. タイトチェーンベアリング（3箇所）
- 10. チャンバーロック支点部
- 11. シリンダ支点部
- 12. チャンバー開閉支点部
- 13. タイトチェーンテンションスライド部

作業後の手入れと格納について

実施時期は50時間毎です。

(左側)



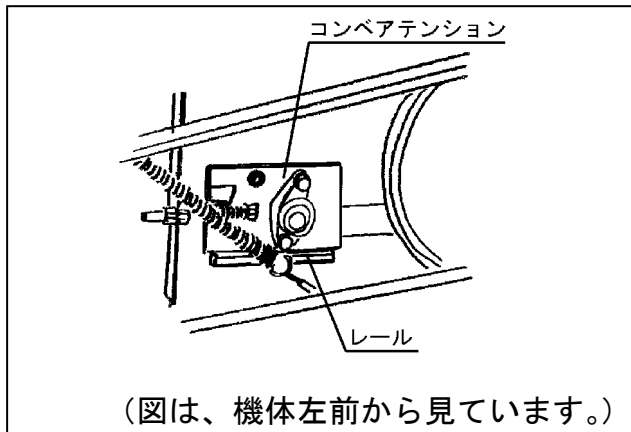
1. 床コンベアテンションスプロケット
2. メインシャフト中間ベアリング
3. 床コンベア駆動軸ベアリング
4. コンベアテンションスライド部
5. コンベアテンションベアリング
6. タイトチェン駆動軸ベアリング
7. コンベアベアリング
8. コンベア駆動軸ベアリング
9. タイトチェン折返し部ベアリング
10. タイトチェンベアリング (3箇所)
11. チャンバーロック支点部
12. シリンダ支点部
13. チャンバー開閉支点部
14. タイトチェンテンションスライド部

作業後の手入れと格納について

1 1. コンベアテンションスライド部 へのグリスアップのしかた

実施時期は50時間毎です。

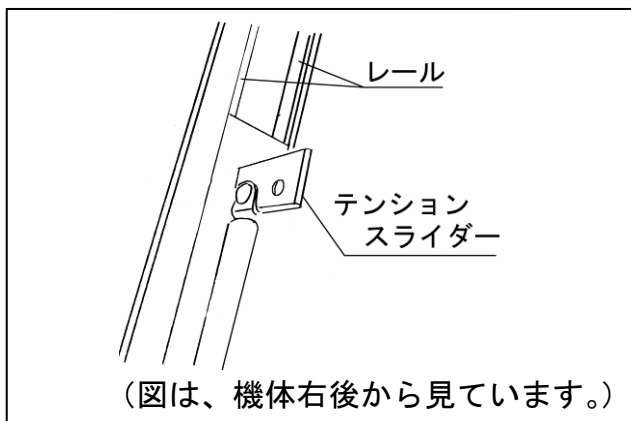
次の図のスライドするレール部にグリスを塗り込んでください。



1 2. タイテンションスライド部 へのグリスアップのしかた

実施時期は50時間毎です。

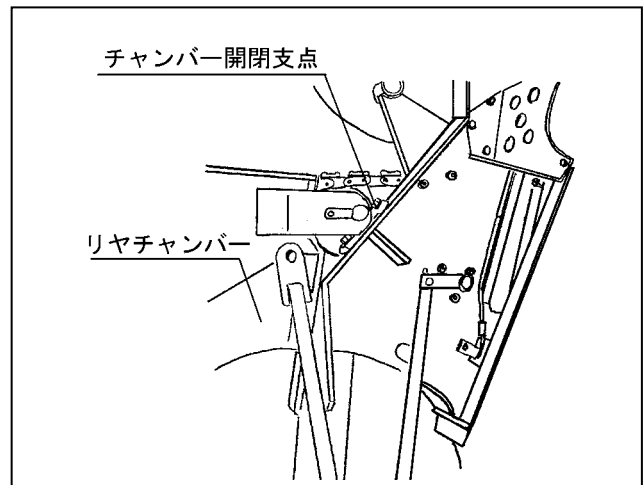
次の図のスライドするレール部にグリスを塗布してください。



1 3. チャンバー開閉支点への グリスアップのしかた

実施時期は50時間毎です。

次の図のチャンバー開閉支点にグリスアップしてください。



1 4. 格納のしかた

重 要

- 機体各部に残留物があると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、次の年の作業に差し支えますので、きれいに掃除してください。
- 直射日光や雨水のあたらない、風通しのよい屋内に置いてください。
- 床が汚れないように、本機の下に板を敷いてください。
- 外部の錆びやすい部分には、防錆油またはエンジンオイル・グリスなどを塗ってください。

1 5. 運転再開のしかた

各部の給油・給脂箇所に、十分にオイル・グリスを給油・給脂してください。

作業後の手入れと格納について

16. センサの調整

各センサの調整が不十分だと正常な動作を行うことができません。調整が必要な場合は調整方法に従って再調整してください。

！ 警告

トラクタのエンジンをかけたまま調整しますと重大な事故が起こる可能性がありますので、必ずPTOを止めて、エンジンを停止した状態で行ってください。

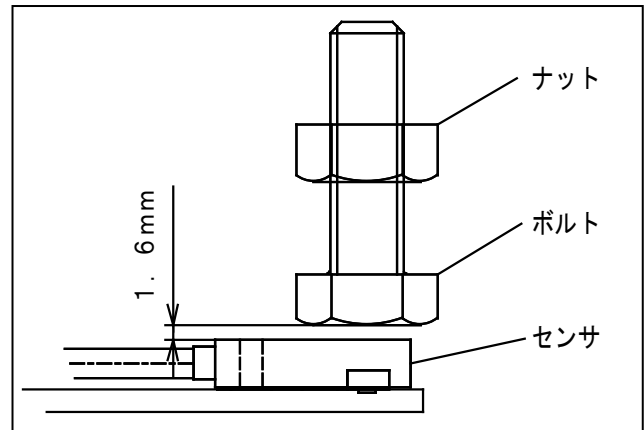
※各センサの位置は「各部の名称とはたらき」P21を参照してください。

◆カム1センサ、カム2センサ、 ネットカウントセンサ、 PTOセンサ、クラッチ入センサ クラッチ切センサの調整

調整方法

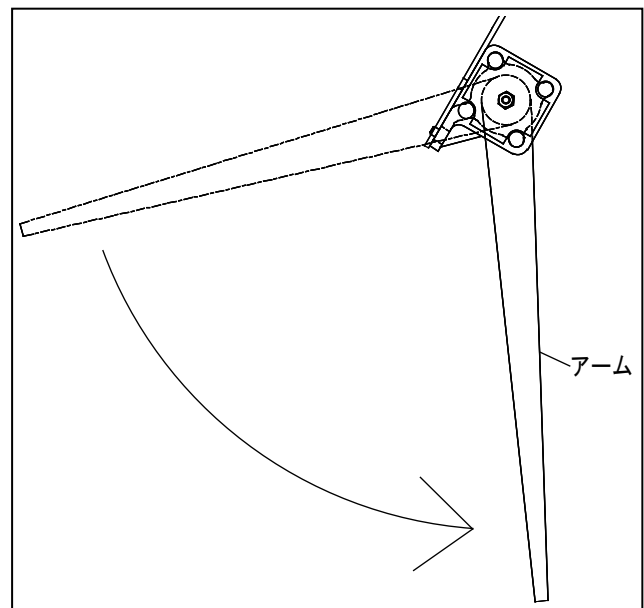
1. 図に示すように、ナットを緩めてセンサとボルト距離を1～2mmに調整してください。
2. 調整後、ナットで固定してください。
3. コントロールボックスの電源が入っているときにセンサが反応していると、センサに付いているLEDが点灯します。センサ上面にボルトが来てもLEDが点灯しない場合は、ボルトを再調整してください。
なお、LEDは明るい場所では見えにくいことがあるため、コントロールボックスのセンサチェックをご利用ください。

詳しくは「各部の名称と働き」P21および「運転に必要な装置の取扱い」P35を参照してください。



◆ホサキ左センサ、ホサキ右センサの確認

ホサキ左・右センサ先端に材料が引っかかりアームが初期位置まで戻っていないと、コンベアが回転しなくなります。

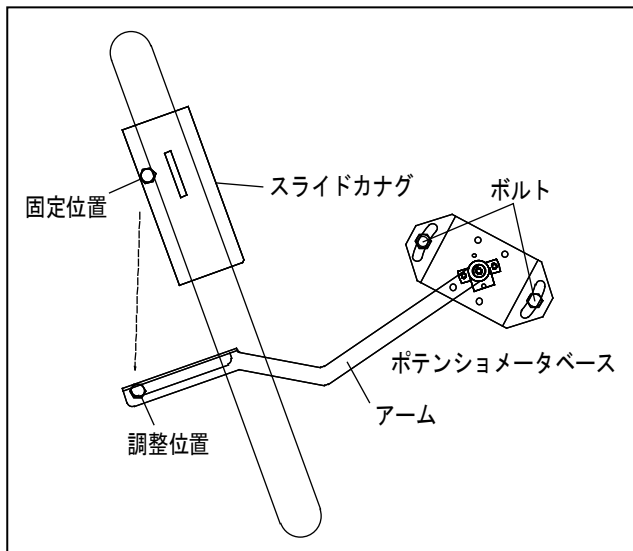


材料・ネットかす等が引っ掛っている場合は取り除いてください。

作業後の手入れと格納について

◆満了感知ポテンシオメータの

調整方法



調整方法

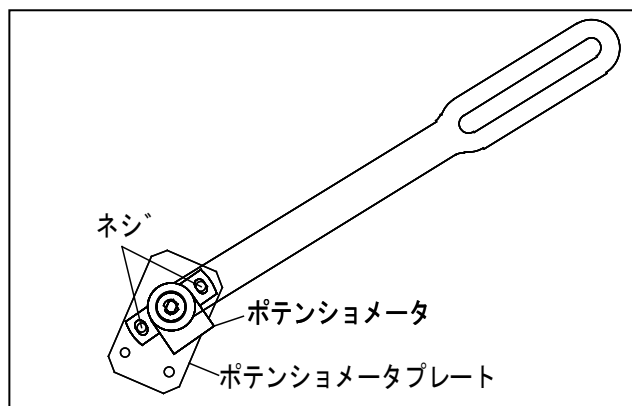
1. コントロールボックスの電源を入れます。
2. 「モード切替」ボタンを押して「センサチェック」を選択し、「送り」ボタンまたは「戻り」ボタンを押して、「マンリョウカンチPT」を表示します。
3. アームをスライドカナグに固定しているボルトを外し、調整位置で固定します。
4. ポテンシオメータベースを固定しているボルトを緩めます。
5. コントロールボックスの「マンリョウカンチPT」の値が2.5Vを表示した位置でポテンシオメータベースを固定します。
6. 調整位置から固定位置にボルトを付け替えて固定します。

重 要

- 調整後1個目のベールは、ベール径が設定値と多少異なる可能性があります。ベール放出後にポテンシオメータの初期位置出しが行われ、2個目からは設定値通りのベール径となります。
- タイトチェンを交換後の調整は、P62をご参照ください。

◆チャンバーポテンシオメータの

調整方法



調整方法

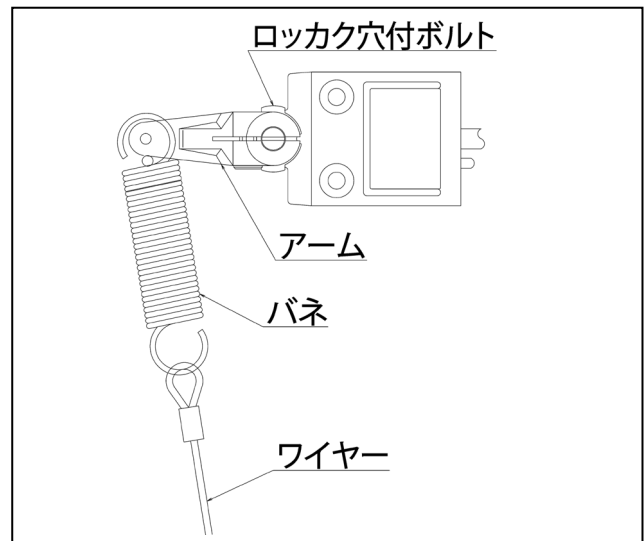
1. ポテンシオメータを、長穴の真ん中でポテンシオメータプレートとネジで固定します。
2. コントロールボックスの電源を入れます。
3. トラクタのエンジンをかけ、アイドルングでPTOをつなぎます。
4. 「全開ランプ」が点灯するまで、「開く」ボタンを押し続けてチャンバーを全開にします。
5. 「モード切替」ボタンを押して「センサチェック」を選択し、「送り」ボタンまたは「戻り」ボタンを押して、「チャンバカイPT」を表示し、その電圧をメモします。
(メモ1)

作業後の手入れと格納について

6. 「モード切替」ボタンを押して「通常作業」を選択します。
7. 「全閉ランプ」が点灯するまで、「閉じる」ボタンを押し続けチャンバーを全閉にします。
8. 「モード切替」ボタンで「センサチェック」を選択し、「送り」ボタンまたは「戻り」ボタンを押して、「チャンバーカイPT」を表示し、その電圧をメモします。
(メモ2)
9. コントロールボックスの電源を切り、「+」ボタン「-」ボタンを押しながら電源を入れてメーカー設定に入ります。
10. 「送り」ボタンまたは「戻り」ボタンを押して、「ゼンカイデンアツ」を表示し、「+」ボタンまたは「-」ボタンで
(メモ1) $-0.10V$ の値を入力してください。
11. 「送り」ボタンまたは「戻り」ボタンを押して、「ゼンハイデンアツ」を表示し、「+」ボタンまたは「-」ボタンで
(メモ2) $+0.10V$ の値を入力してください。
12. 「送り」ボタンまたは「戻り」ボタンを押して、「クラッチデンアツ」を表示し、「+」ボタンまたは「-」ボタンで
(メモ2) $+0.10V$ の値を入力してください。
13. 「モード切替」ボタンを押して、「通常作業」を選択します。

14. 「チャンバー開」ボタンを押して、チャンバーが全開のときに「全開ランプ」が点灯し、「チャンバー閉」ボタンを押してチャンバーが全閉のときに、「全閉ランプ」が点灯することを確認してください。
15. 確認できましたら、トラクタのPTOを切り、エンジンを停止してください。

◆キッカーセンサの調整



調整方法

1. ロック穴付ボルトを緩めます。
2. ワイヤがたるまず、バネが伸びない位置でアームをロック穴付ボルトで固定してください。

作業後の手入れと格納について

17. 電球の交換

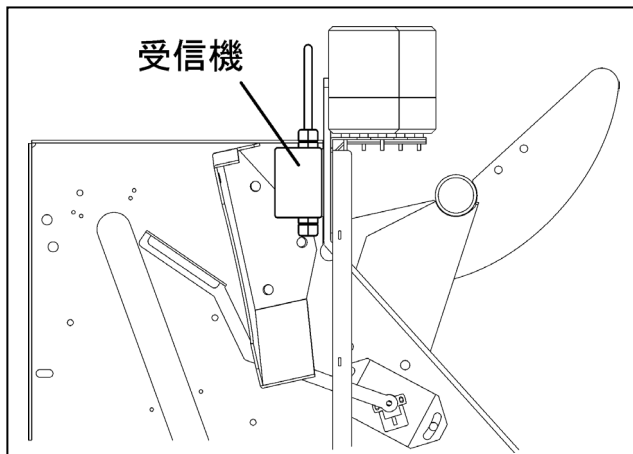
電球が切れた場合は最寄りのホームセンターなどで電球をお買い求めください。

・パトライト緑・黄 : 12V5W

※公道走行用の灯火装置はLEDを使用していますので電球の交換はありません。

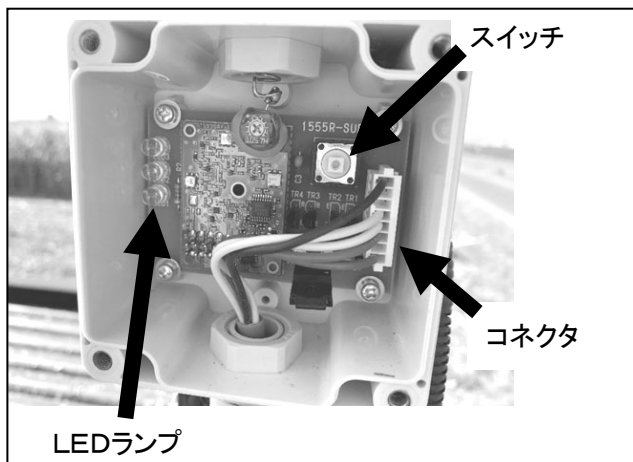
18. リモコンの設定方法

以前使っていたリモコンから新しいリモコンへ買い換えた際に、受信機へID登録をする必要があります。



・IDの登録手順

1. コントロールボックスの電源を入れます。
2. 受信機のカバーを外します。



3. 受信機内部のスイッチを押したまま受信機のコネクタを抜き差しして、一度受信機の電源を入れ直します。
4. LEDが2回光りますので、その後受信機内部のスイッチを離すとID登録モードに入ります。
5. リモコンの「供給」ボタンを押すとLEDが2回光りIDが登録されます。



6. ID登録が終了したら、コントロールボックスの電源を一旦切り、再度電源を入れると通常どおり使用することができるようになります。

19. タイトチェンを交換後

タイトチェンを交換するとポテンショメータの初期位置がずれ、満了前に満了感知をしてしまい、ネット巻付けができなくなります。タイトチェンを交換後、設定径を90cmに変更してベールを1個作ってください。

(P36参照)

なお、1個目のベールは90cmより小さくなります。

自動でネット巻付け・放出した後、ポテンショメータの初期位置を更新しますので2個目以降、設定径は変更できます。

各部の点検・整備

1. 定期点検一覧表

◇点検、○：補給、●交換、□：調整（掃除）、△：給油脂								
点検整備項目		毎日	50時間ごと	100時間ごと	200時間ごと	300時間ごと	600時間ごと	参照ページ
総体部	部品の脱落・破損の点検	◇						
	各部のボルト・ナットの緩み点検・増締	◇						
	清掃	□						
潤滑油	直交ミッションオイルの交換		● (1回目)			●		66
	タイトチェン給油オイルの点検・補給	△						53
油圧系統	油圧パッケージオイルの点検・補給	●必要時						66
	油圧ホースの亀裂・破損有無点検※	◇						
注油	各部への注油		△					55
グリスアップ	各部へのグリスアップ	◇			□			56
								57
								58
電装関係	コントロールボックスの作動	◇						
	配線の断線・ショート・ターミナルの緩み 点検・増締※	◇						
	ヒューズの点検・交換	●必要時						66 67
ネット装置	ネット 装置のブレーキシュー カラー×3個	◇					●	42
駆動ベルト関係	ロールベア駆動ベルトの点検・調整		◇		□			67
チェン関係	油圧パッケージ駆動チェンの点検・調節		◇	□				68
	タイトチェン駆動チェンの点検・調節	◇		□			●	69
	アジテータ・床コンベア駆動 チェンの点検・調節		◇	□				70
	コンベア駆動チェン点検・調節		◇	□				70

●の箇所は、保安上重要な箇所です。

各部の点検・整備

2. 規定値一覧表

点検・調節箇所	規定量	内容	参照ページ
油圧パッケージ駆動チェーン	約3mm	指で押したときのたわみ量	68
ロールベアラ駆動ベルト	250～255mm	テンションバネフック間の長さ (クラッチ「入」時)	67
タイトチェーン駆動チェーン	50～52mm	テンションバネのバネ長さ	69
アジテータ・床コンベア駆動チェーン	10～15mm	指で押したときのたわみ量	70
コンベア駆動チェーン	50～52mm	テンションバネのバネ長さ	70
床コンベアチェーンテンション	約100mm	チェーンを持ち上げたときのたわみ量	65
コンベアベルトテンション	50～52mm	テンションバネのバネ長さ	71

3. オイル・グリス一覧表

	純正	一般販売店の相当オイル	
		JX日鉱日石エネルギー (ENEOS)	コスモ石油
グリス (マルチパーパスタイプ)	—	エピノックグリス AP2 または リゾコックグリス EP2	コスモグリス ダイナマックス EP
直交ミッションオイル	ミッションオイル 90番	—	
油圧パッケージオイル	シェルテラスオイル 68	〔ISO:VG68耐摩耗性作動油相当品〕	

4. 給油一覧表

項目	給油量	種類	交換時期	参照ページ
油圧パッケージオイル	8L	シェルテラスオイル68 〔ISO:VG68耐摩耗性 作動油相当品〕	不足時補充	66
ミッションオイル (ハーベスタ直交ミッション)	0.8L	ミッションオイル90番	1回目:50時間または1シーズン 2回目:以降300時間ごと、 または1シーズンごとの どちらか早い方	66

重 要

定期点検を実施するとともに、オイルの交換は純正（指定）オイルをご使用ください。

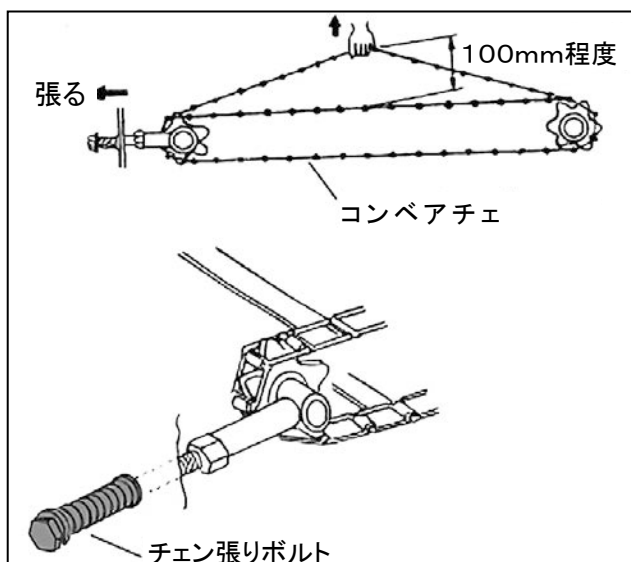
各部の点検・整備

！ 警告

- 各部の調整をするときは、PTOを切りエンジンを停止して、回転部が完全に止まってから行ってください。
- 取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

5. コンベアチェンの調節

床送りのコンベアチェンは、長期間使用すると伸びが生じます。時々、張り具合が規定通りかどうかチェックし、伸びている場合は機体の前方にあるコンベアチェン張り用のボルトで調節してください。



注意

使用初期のころはスプロケットとコンベアチェンのなじみが悪く、いきなり使用するとコンベアチェンが切れる場合がありますので5～10分ならし運転をして、一度コンベアチェンの張りを点検してから使用してください。

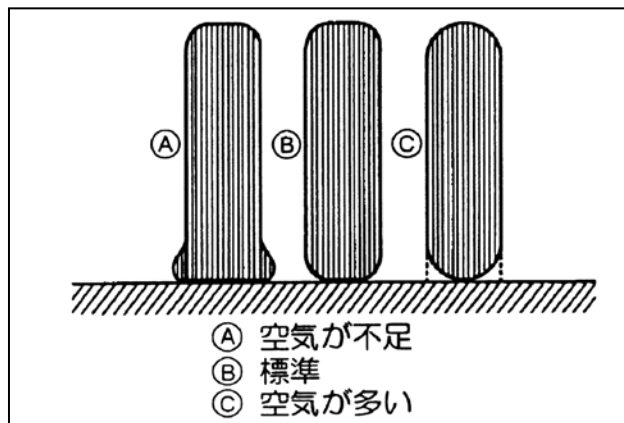
6. タイヤの空気圧調節及び磨耗・損傷

- ◆作業前にはタイヤの空気圧を確認してください

！ 警告

- タイヤの空気圧は取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは、タイヤ破損のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
- タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。
タイヤ破損のおそれがあります。
- タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは、十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店へ依頼してください。

外観からタイヤの空気圧を判断する目安は次のとおりです。



◆タイヤのサイズと規定空気圧

タイヤサイズ(チューブレスタイヤ)

11L-15 6プライ

空気圧

常圧タイヤ内圧 200kpa

(2.0kgf/cm²)

リム組み時内圧 350kpa

(3.5kgf/cm²)

各部の点検・整備

7. オイルの点検・補給・交換のしかた

重要

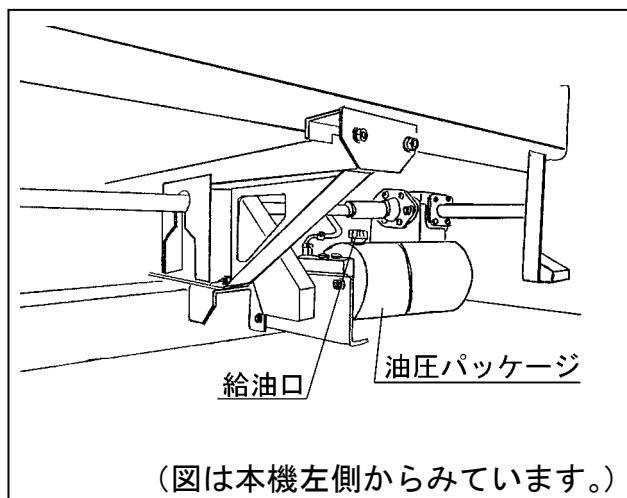
- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・その他有害物を捨てる時は、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- オイルを補給・交換するときは、電装部品にかからないようにしてください。故障の原因となるおそれがあります。

油圧パッケージ

給油口のキャップを外し、キャップについているゲージで油量を確認し、不足している場合は継ぎ足してください。

推奨オイル

シェルテラスオイル68
[ISO:VG68耐摩耗性作動油相当品]



②直交ミッション

推奨オイル	交換時期	規定量
ミッションオイル 90番	300時間ごと	0. 8L

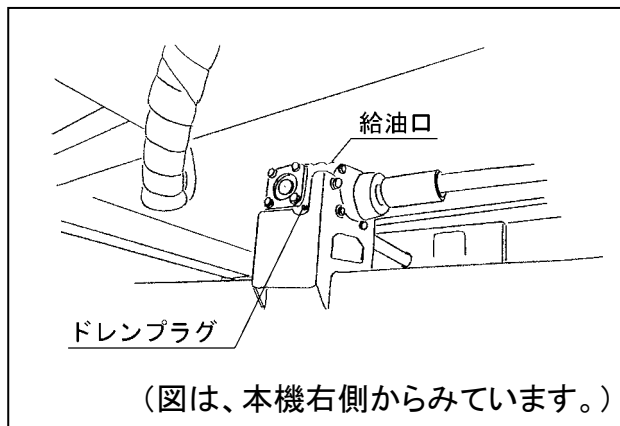
〈補給のしかた〉

給油口を外して、補給してください。

〈交換のしかた〉

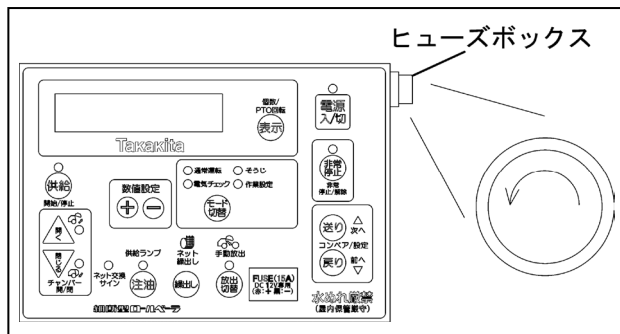
ドレンプラグを取り外してください。

このとき、オイルが周辺にかからないように、厚紙などを折り曲げて、とい状にしたものを使用してオイルを受けてください。



8. ヒューズの点検・交換のしかた

- コントロールボックスの右側面にヒューズボックスがあります。電源が入らないときは管ヒューズ15Aを確認・交換してください。



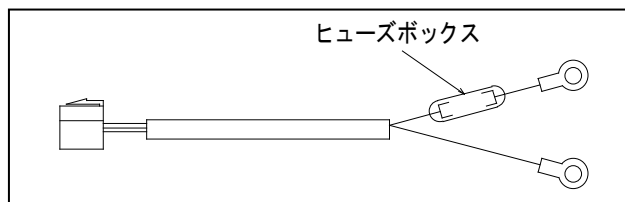
ヒューズボックスの上を押しながら矢印方向に回すと、ヒューズボックスのキャップを外すことができます。

また、装着時はヒューズボックスの上を押しながら、矢印方向とは逆に回すと装着できます。

※安全作業のために電源コードをコネクタから抜いてから、ヒューズを確認・交換してください。

各部の点検・整備

- 電源コードにもヒューズボックスがあります。電源が入らないときは管ヒューズ30Aを確認・交換してください。



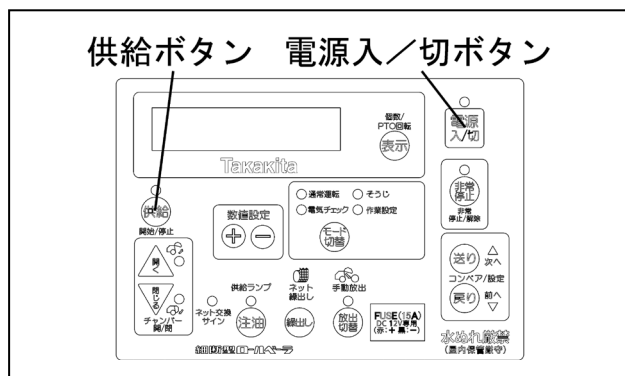
※安全作業のため、バッテリーのマイナスから端子を外して、ヒューズを確認・交換してください。

9. ロールベアラ駆動ベルトの調節のしかた 使用ベルト

スーパーゴールド LB-87(3本)

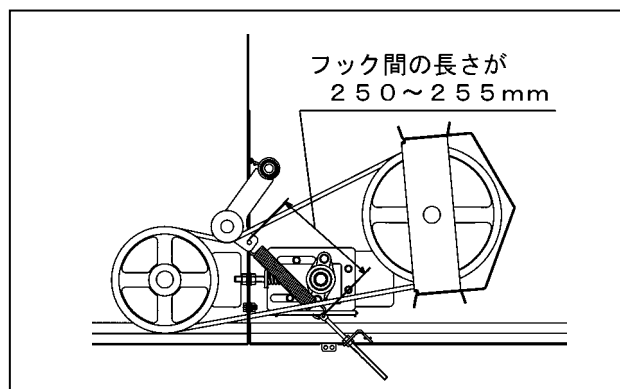
〈点検のしかた〉

1. トラクタのエンジンをかけ、アイドルのままだまPTOをつないでください。
2. コントロールボックスの「供給」ボタンを押し、タイトチェンが回転していることを確認してください。



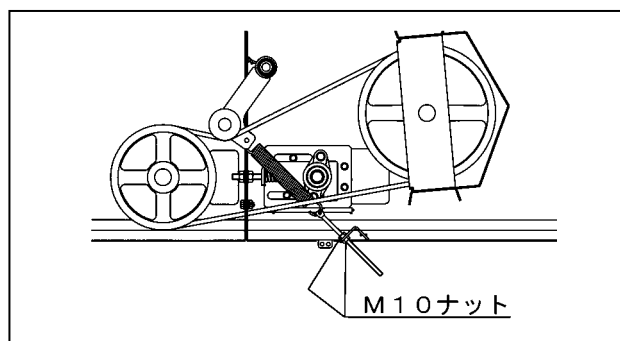
3. タイトチェンの回転が確認できたら、コントロールボックスの「電源入/切」ボタンを押し、コントロールボックスの電源を切ってください。
4. トラクタのPTOを切り、エンジンを停止してください。

5. テンションを張った状態(クラッチ「入」の状態)で、バネフック間の長さを測り、250～255mmであるか確認してください。



〈調節のしかた〉

M10ナットを緩めバネのフック間長さが上図の250～255mmになるように調節してください。

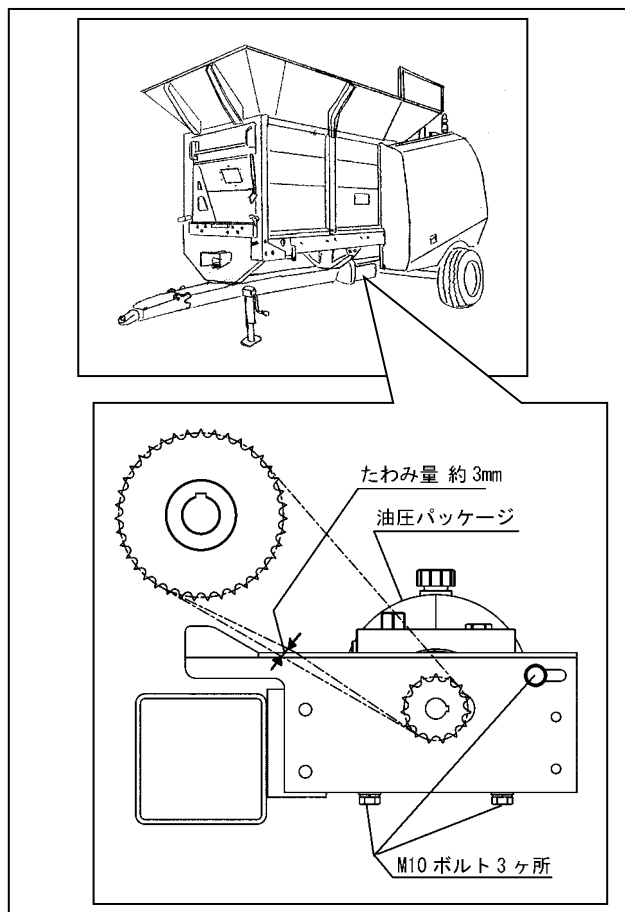


各部の点検・整備

10. 各部のチェン調整

①油圧パッケージ駆動チェン

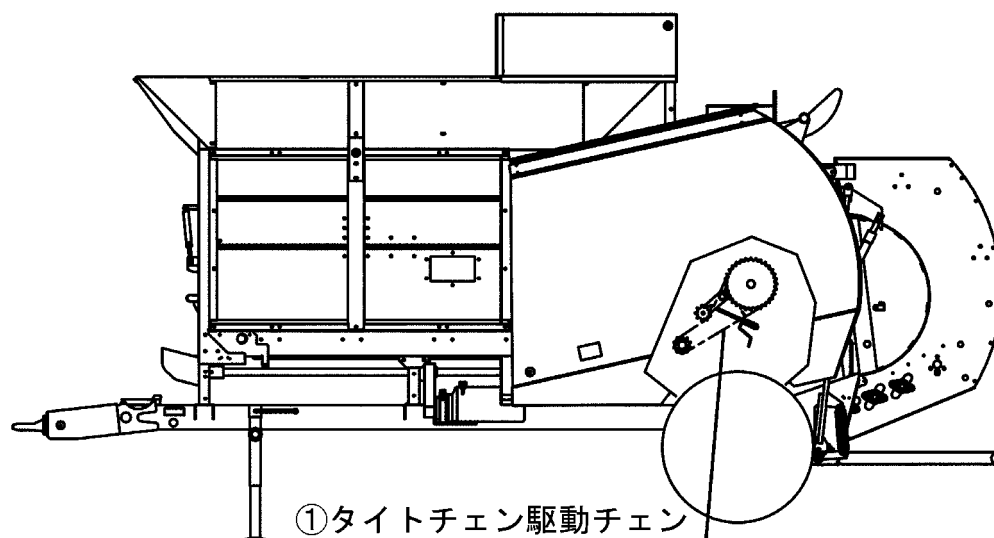
1. チェンカバーを取り外してください。
2. 指で押したときのたわみ量が約3mmになるように、パッケージ締め付けボルト(M10)を3ヶ所緩め、パッケージを移動させてチェンを張ってください。



3. 調節ができましたら、必ずカバーを元どおりに組み付けてください。

各部の点検・整備

〈ロールペーラ左側〉



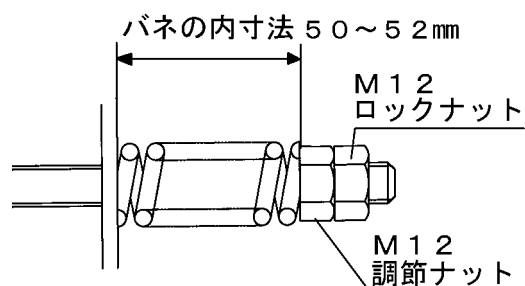
②タイトチェーン駆動チェーン

〈点検のしかた〉

サイドカバーを開き、テンションバネの内寸法を測定し、寸法が50～52mmであることを確認してください。

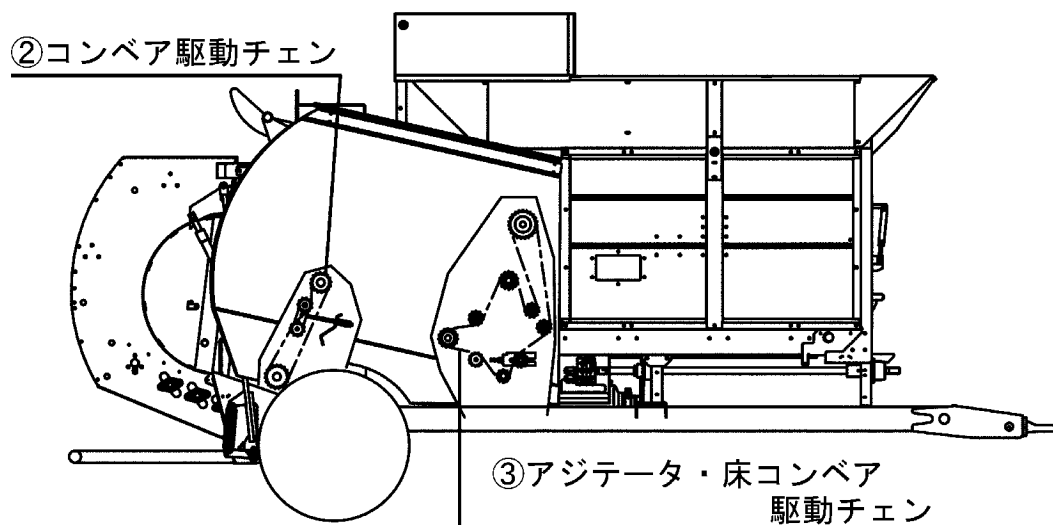
〈調節のしかた〉

M12のロックナットを緩め、M12調節ナットで調節してください。



各部の点検・整備

〈ロールペーラ右側〉



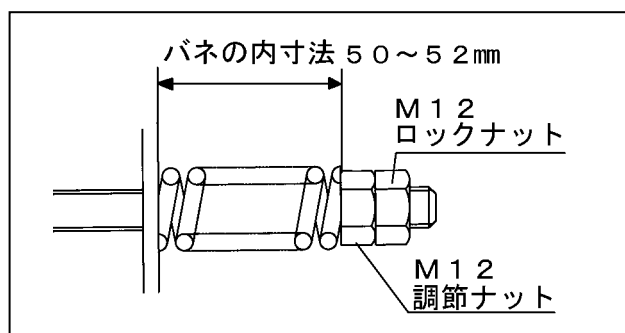
③コンベア駆動チェン

〈点検のしかた〉

サイドカバーを開き、テンションバネの内寸法を測定し、寸法が50～52mmであることを確認してください。

〈調節のしかた〉

M12のロックナットを緩め、M12調節ナットで調節してください。



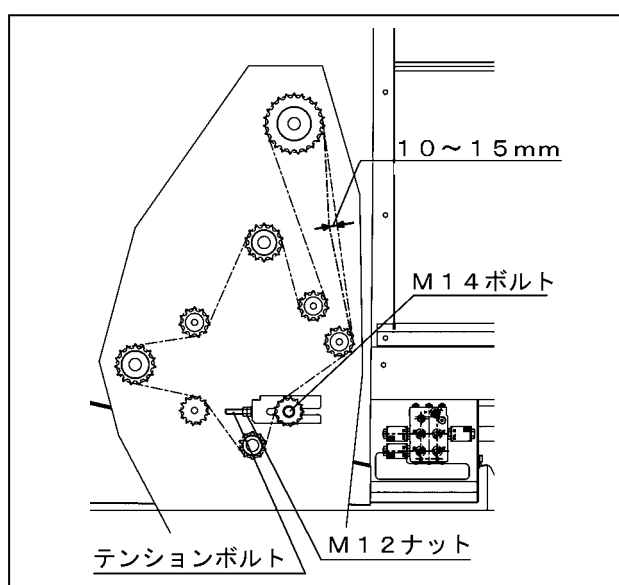
④アジテータ・床コンベア駆動チェン

〈点検のしかた〉

サイドカバーを開き、指でチェンを押し、たわみが10～15mmであることを確認してください。

〈調節のしかた〉

M14ボルトおよびM12ナットを緩め、テンションボルトで調節してください。

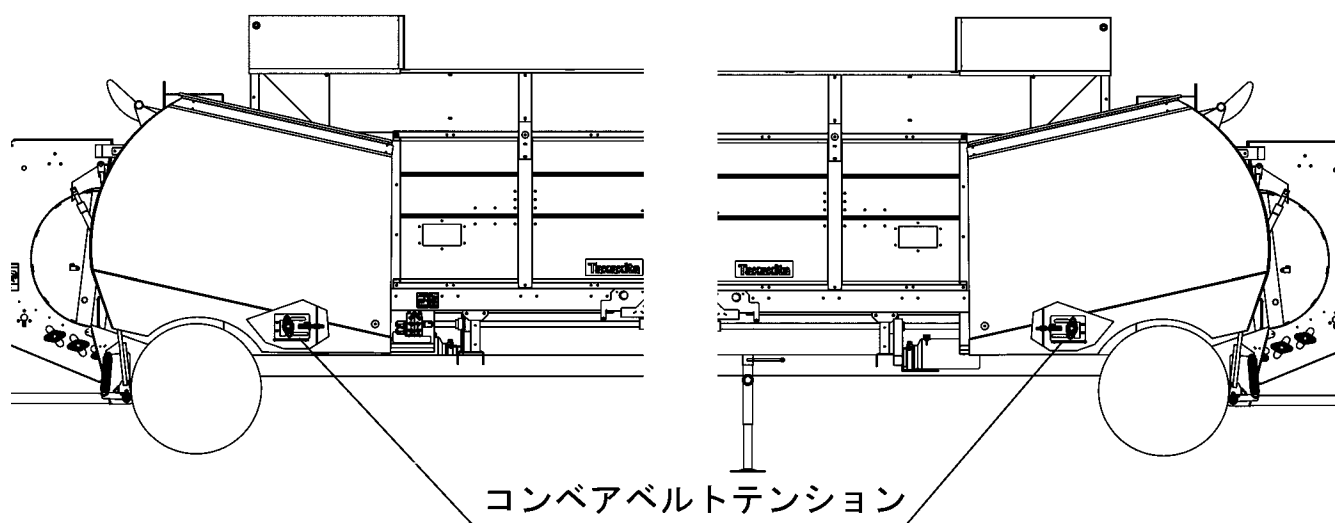


各部の点検・整備

11. コンベアベルトの調節のしかた

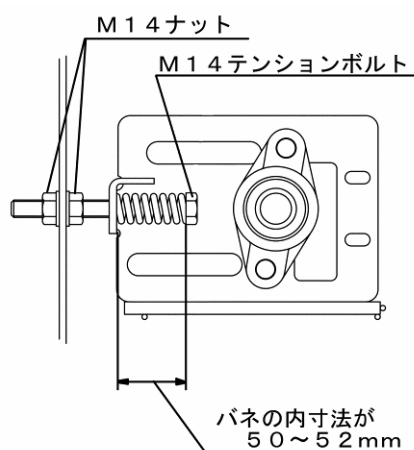
〈点検のしかた〉

サイドカバーを開き、左右のバネの内寸法を測定し、寸法が50～52mmであることを確認してください。



〈調節のしかた〉

M14のナットを緩め、M14テンションボルトで調節してください。



(図は、右側のコンベアテンション)

警告

- 機械の調子が悪いときは、必ずPTOを切りトラクタのエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから診断してください。
守らないと、回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。

状況	点検箇所	処置	参照ページ
ロールベアラが動かない	ロールベアラ駆動Vベルトがたるんだり切れたりしていませんか	Vベルトのテンションの調整または、交換してください。	67
	ロールベアラクラッチが「切」になっていませんか	コントロールボックスの「供給」ボタンを押してください。	35
	タイトチェン駆動スプロケットのシェアボルトが切断されていませんか	シェアボルトを交換してください。	34
コントロールボックスの供給を開始できない	コントロールボックスの電源が「入」になっていますか	電源を入れてください。	35
	ヒューズが切れていませんか	ヒューズを交換してください。 (管ヒューズ15A) (管ヒューズ30A)	66 67
	チャンバー「全閉」のランプがついていますか	チャンバーを閉じて「全閉」のランプを点灯させてください。	35
	トラクタのPTOが切れていませんか	トラクタのPTOをつないでください。	—
コントロールボックスの供給開始を押しても、床コンベアが動かない	トラクタのPTOが切れていませんか	トラクタのPTOをつないでください。	—
	材料またはネットが穂先センサに引っ掛っていませんか	穂先センサに引っ掛っているものを取り除いてください。	59
リヤチャンバーが閉まらない	シリンダストッパーが効いていませんか	シリンダストッパーを解除してください。	51
コントロールボックスに「タイトチェンガノビティマス」と警告が出る	タイトチェンが伸びていませんか	タイトチェンが伸びている場合はチェンのリンクを詰めるか、タイトチェンを交換してください。 ※作業シーズン等ですぐに処置できない場合は、参照ページの[6 サイテイデンアツ]の値を下げることで警告表示を消して一時的に作業することが可能です。 ただしボールの直径が設定よりも大きめにできてしまうことがあります。 シーズン終わりには必ずタイトチェンを処置し、[6 サイテイデンアツ]の設定値を元に戻してください。	62 ※38

コントロールボックスのエラー表示

以下の動作不良表示中は非常停止中になっています。非常停止を解除するにはコントロールボックスの「非常停止」ボタンを長押ししてください。

※電装関係のトラブルで多いのは

- ・コネクタが確実に接続されていない。
- ・バッテリーが充電されていない。

です。まずは上記2点を確認しましょう。(P28参照)

No.	液晶表示	原因・対応方法	参照ページ
1	PTOガカイテンシテイマセン シヤボルトヲカクニン	シェアボルトが切れているもしくはPTOが回転していません。 PTOセンサの再調整してください。	21・23 34・59
2	ロールガコログリマセン セッテイヲヘンコウシテクダサイ	ベールがキッカーの上に乗ったままになっています。 ベールを取り除いてください。※チャンバー内に入る際は必ずシリンダロックをしてください。	32
3	ロールガオチテイマセン セッテイヲヘンコウシテクダサイ	キッカーセンサが反応していません。キッカーセンサ先端のバネが外れていないか確認してください。	21・24 61
4	チャンバーガヒラキマセン オイルリョウヲカクニン	チャンバーが開きません。油圧オイル量を確認してください。	66
5	クラッチガキレマセン クラッチヲカクニンシテクダサイ	クラッチモータのギヤにゴミが詰まっていないか確認してください。	21・23 59
6	クラッチガハイリマセン クラッチヲカクニンシテクダサイ	クラッチ入・切センサが反応していません。 クラッチ入・切センサを再調整してください。	
7	カムガカイテンデキマセン カムヲカクニンシテクダサイ	カムのギヤにゴミが詰まっていないか確認してください。	21・23
		カム1,2センサが反応していません。 カム1,2センサを再調整してください。	21・23 59
8	ネットヲコウカンシ、ネットクリダシ スイッチヲオシテクダサイ	ネットブレーキ力が強く、ネットが入っていきません。 ブレーキを低位置にしてください。	42
		ネットカウントセンサが反応していません。 ネットカウントセンサを再調整してください。	21・23 59

主要消耗品

◆主要消耗品

区分	No.	コード	名称	個数	備考
ロールベアラ 関係	1	03610 5120 870	LB-87 スーパーゴールド	3	ロールベアラ駆動
	2	03621 0400 730	チェン#40×73	1	油圧パッケージ駆動
	3	06321 1400 000	#40継ぎ手リンク	1	油圧パッケージ駆動 チェン用継ぎ手
	4	03621 0080 590	チェン#80×59	1	タイトチェン駆動
	5	03621 2800 000	#80継ぎ手リンク	1	タイトチェン駆動 チェン継ぎ手
	6	03621 0600 750	チェン#60×75	1	コンベア駆動
	7	03621 1600 000	#60継ぎ手リンク		コンベア駆動 チェン継ぎ手
	8	03621 0601 570	チェン#60×157	1	アジテータ・ 床コンベア駆動
	9	03610 0010 750	LA-75 標準	1	ネット装置駆動
	10	03621 1600 000	#60継ぎ手リンク		アジテータ・ 床コンベア駆動チェン 継ぎ手
	11	40120 3740 000	タイトチェン	2	
	12	37117 3290 000	継ぎ手Assy	2	タイトチェン 継ぎ手
	13	39101 3341 000	タイトバー	78	
	14	39101 3350 000	タイトバー(キー付)	7	
	15	01211 2100 250	ボルト10×25 (11T、細目、黒染め)	170	タイトバー固定 ボルト
	16	02421 1000 100	高力座金 10	170	タイトバー固定 バネ座金
	17	02160 0101 800	タイトバーナット 10	170	タイトバー固定 ナット
	18	33107 3640 000	テンションシリンダ	2	タイトチェン テンション
コンベア 関係	19	32103 1632 000	デタッチャブルチェン	110	床コンベア
	20	36120 6450 000	コンベアバー	1	床コンベアバー
	21	40120 5470 000	コンベアバー (キー付)	1	床コンベアバー
	22	40120 6420 000	コンベアベルト	1	コンベア
シェアボルト 関係	23	01358 0080 40C	シェアボルトアッシ (10セット入) 〔 M8×40 (8T・半ネジ) M8ナイロンナット 〕		タイトチェン駆動 スプロケット部

主要消耗品

区分	No.	コード	名称	個数	備考
ネット装置	24	33101 6993 000	ブレーキシュー	1	ブレーキ
	25	36120 6983 002	ガイドカラー	2	ドラム
電装	26	00900 0100 150	管ヒューズ15A	1	コントロールボックス
	27	00900 0100 300	管ヒューズ30A	1	電源

1. 主要諸元

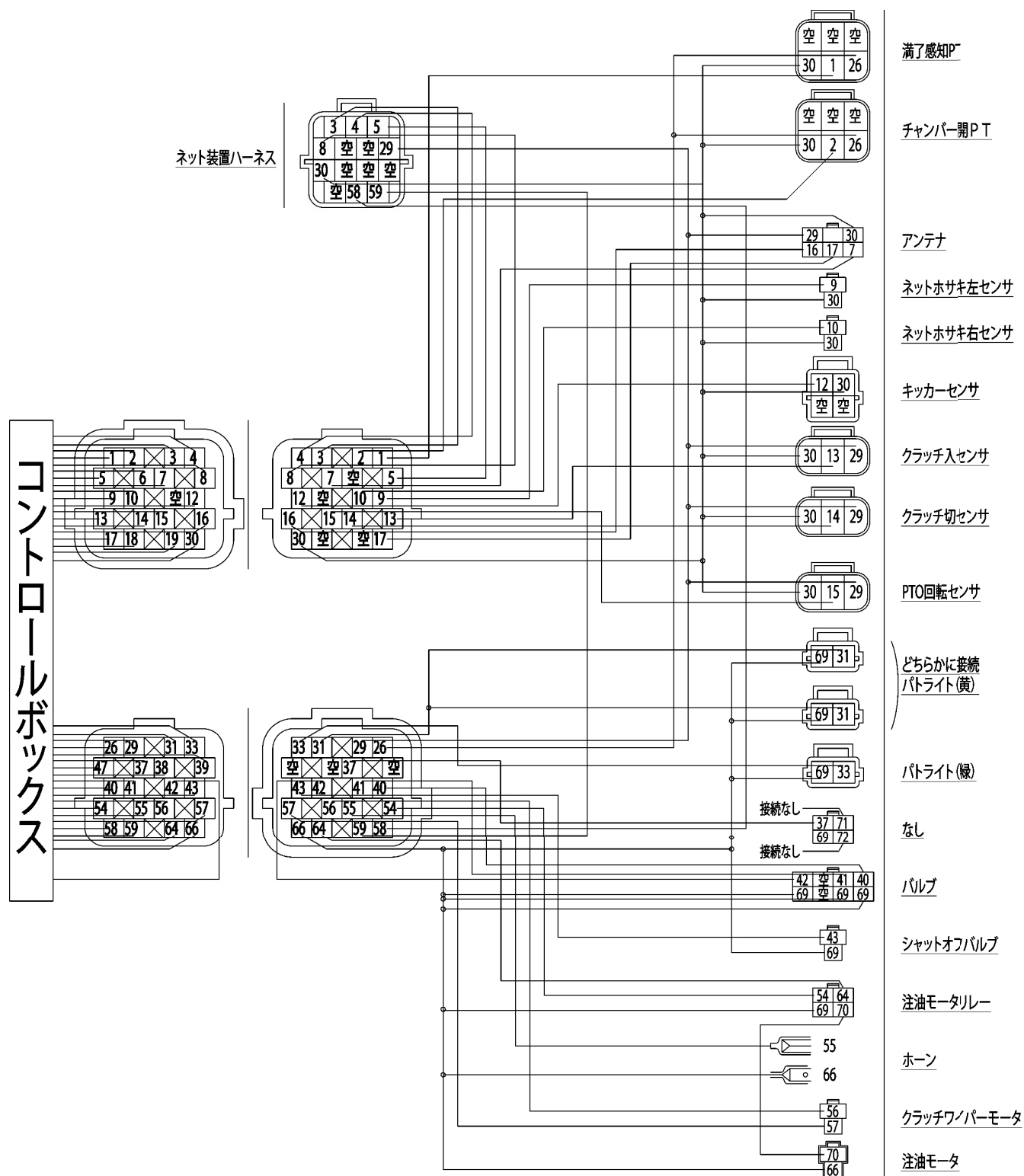
この主要諸元は、改良などにより、予告なく変更することがあります。

- ※1 タカキタ 1 条刈りコーンハーベスタで作業の場合です。
- ※2 タカキタ 2 条刈りコーンハーベスタで作業の場合です。
- ※3 補助ホッパーは、ワンマン作業・伴走作業時必要になります。（定置作業時は不要です。）
- ※4 ベール質量は収穫物や水分率によって変わります。

付 表

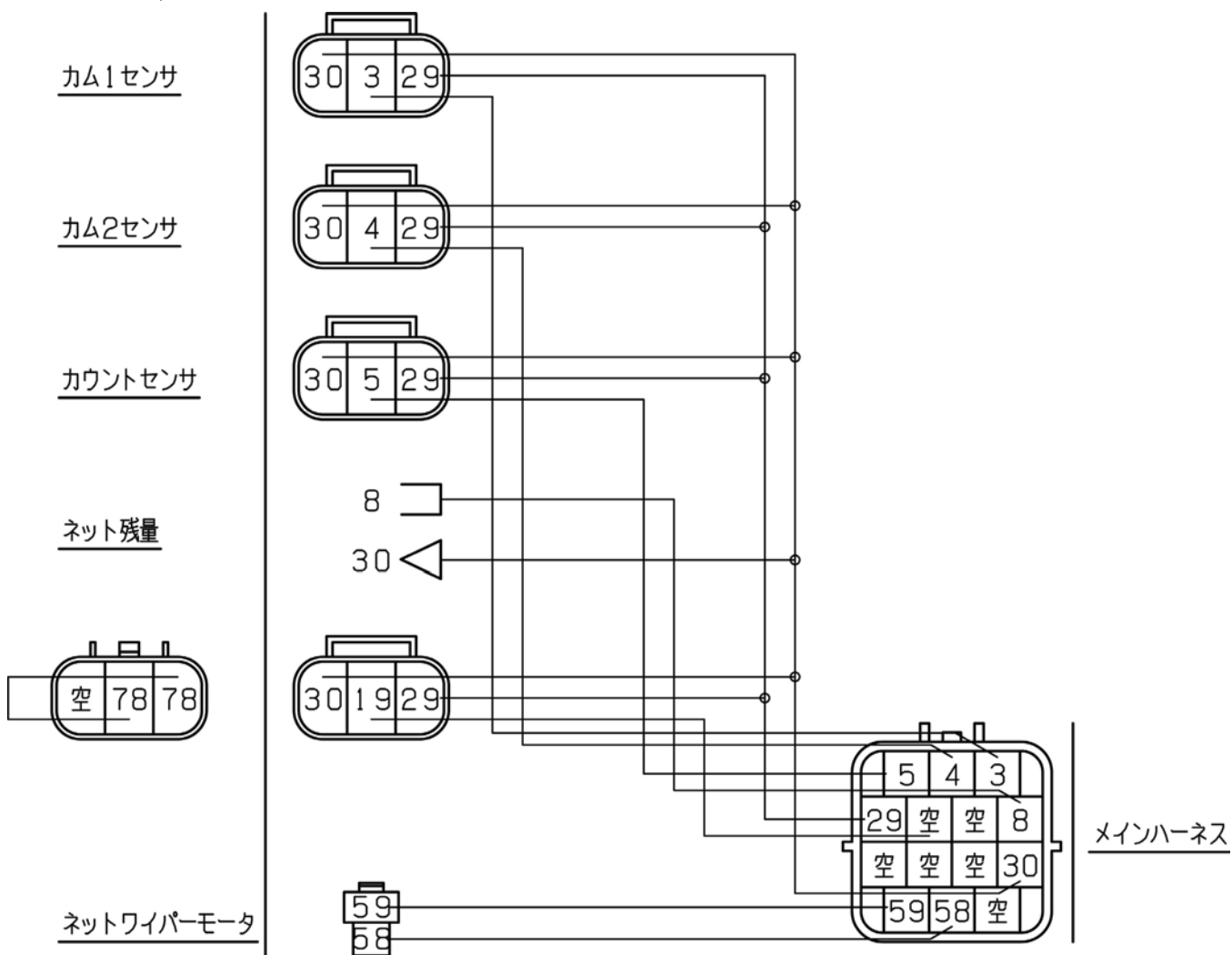
2. 配線図

・ 本体



付 表

・ ネット装置



・ 灯火装置

No	線 色	名 称
1	黄	左ウインカー
2	茶	後退灯
3	白	GND
4	緑	右ウインカー
5	黒	尾灯・車幅灯
6	赤	制動灯

